

法政大學速成科講義録

著者	梅 謙次郎, 清水 澄, 島村 他三郎, 板倉 松太郎, 清水 孝藏, 西脇 晋, 和田 一郎, 小濱 松次郎
出版者	法政大學
巻	3
ページ	1-115
発行年	1910-07-05
URL	http://hdl.handle.net/10114/5155

法政大學
速成科講義

第三號

明治四十三年七月五日發行

1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3

選成科講義 第三號目次

法學通論(第一編)	大澤 隆夫
憲法(第二編)	清水 澄
行政法(第三編)	島村龍三郎
民事訴訟法(第四編)	長谷川 大郎
刑事訴訟法(第五編)	清水 幸藏
自治制度論(第六編)	清水 澄
租税法要論(第七編)	西 脇 吉
會計法要論(第八編)	田 一 郎
警察學(第九編)	小濱 松次郎

090
1910
3

三十一日マテニ選舉人名簿ヲ調製スヘキモノナリ而シテ總テ選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月日、納税額、納税地ヲ記載セサルヘカラサルナリ

郡、市町村長ハ十一月五日ヨリ十五日間其廳又ハ地方長官ノ許可ヲ得タル場處ニテ選舉人名簿ヲ縦覧ニ供スルコトヲ要ス若シ選舉人ニ於テ選舉人名簿ニ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證據ヲ具ヘテ之ヲ郡、市町村長ニ申立ツルコトヲ得正當ノ事故ニ因リ衆議院議員選舉法第一九條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ人名簿ニ登錄セラレサルトキハ其理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘク若シ其申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直チニ名簿ヲ修正シ其旨ヲ申立人及ヒ關係人ニ通知シ並ニ其要領ヲ告示スヘキモノナリ

其郡、市長ノ決定ニ不明アルトキハ郡、市長ヲ被告トシ決定ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルヲ得此判決ニ對シテハ大審院ニ上告シ得ルモ控訴スルヲ得サルナリ
名簿ハ十二月二十日ヲ以テ確定スルモノニシテ確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ縱令事實ニ於テ資格ヲ與フルモ投票スル權ナキナリ是レ確定名簿ノ效力ナリ
名簿確定後ハ新ニ選舉權ヲ取得シタルト又確定後資格ヲ失ヒタルト或ハ全ク名簿ニ誤脱セラレタルモノタルトヲ問ハス確定判決ニ依ルノ外ハ名簿ヲ修正スルコトナキナリ

尙ホ其確定マテノ期日ヲ明示スレハ左ノ如シ

十月一日 選舉人資格調査期日

十月五日 納稅證明屆出期日

十月十五日 町村長ヨリ郡長へ進達期日

十月三十一日 市長ノ名簿調査期日及郡長ヨリ町村長へ副本返付期日

自十一月五日至十一月十九日 總覽期限(修正申立期限)

十二月八日マテ 申立ニ對スル決定期限

十二月十四日マテ 出訴期限

十二月二十日 確定

參照 選舉人名簿登錄ノ有選舉權者(三十六年統計)

市 部	六二、二二一
郡 部	八八五、三三〇
島 嶼	二、七二〇
區 部	一、六八九
計	九五一、八六〇

第二項 選舉區及議員ノ配當

選舉區ハ一國ヲ多クノ區畫ニ分割シテ議員ノ全數ヲ之ニ配當シ以テ其各部分ヨリ議員ヲ選出セシメントスルカ爲メ設ケタルモノナリ理論上選舉區ヲ設ケスシテ全國ノ投票ヲ集メテ當選者ヲ定ムルハ至當ナリト雖モ極メテ狭小ナル國ヲ除クノ外實行ニ於テ困難ナルニ由リ殆ト何レノ國ニ於テモ選舉ノ便宜ノ爲メ選舉區ヲ設ケサルナキナリ我選舉法第一條ニ於テモ「衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス」ト規定シテ以テ選舉區ヲ設ケルコトト爲セリ然レトモ議員ナルモノハ選舉區ヲ代表スルモノニ非サルニ由リ我選舉法第七條ニハ「行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現在議員ハ其ノ職ヲ失フコトナシ」ト規定シテ以テ一旦議員ト爲リタル以上ハ選舉區ノ變更ノ爲メ其地位ヲ失ハサルモノトセラレタリ此選舉區ノ定メ方ニ付テハ其區域ノ大小ニ從ヒテ大選舉區制ト小選舉區制トノ別アリ小選舉區制トハ一區内ヨリ一名乃至二名ノ議員ヲ出スヘキ限度ヲ以テ區域ヲ定ムルモノナリト雖モ大選舉區ノ制度ハ一區域内ヨリ數名ノ議員ヲ出シ得ヘキ範圍ヲ以テ區域ヲ定ムルモノナリ今其利害ヲ考フルニ大選舉區ノ制ヲ執ルトキハ投票調査ノ手續ヲ煩雜ニ爲サシムルノミナラス一人ノ議員ヲ缺クモ大ナル全選舉區ノ選舉人ヲシテ投票セシメサルヘカラサルノ缺點アリト雖モ小選舉區制ヲ執ルトキハ議員トシテノ適材ヲ得ルコト困難ナルノミナラス賄賂、脅迫等ノ不正ナル結果ヲ生シ易キニ由リ比較的大選舉區制

ヲ以テ勝ルモノト論定セサルヲ得ス是レ我國ニ於テ小選舉區制ヲ改メテ大選舉區制ヲ用フルニ至リタル所以ナリ即チ從來ハ數郡若クハ郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタルモ現行法ハ府縣ヲ以テ選舉區ト爲スヲ原則ト爲シ只之ニ例外トシテ市及島嶼ヲ獨立ノ選舉區ト爲スコトト爲セルナリ市ヲ獨立ノ選舉區ト爲シタルハ被選舉者ノ資格ノ要件農民ニ利アルカ爲メ商工業者ヨリモ議員ヲ出サシメントスルノ目的ニ出テタルモノニシテ人口三萬人以上ノ市ヲ獨立選舉區ト爲スコトトセリ而シテ今日獨立選舉區ト爲ラサル市ナシ又島嶼ニシテ獨立ノ選舉區ト爲サレタルハ重要ナル島嶼ニシテ而モ遠隔ナル島嶼ニ限ラルルモノニシテ投票調査ノ便宜上ヨリ來ルモノナリ各選舉區ニ配當セラレタル議員ノ員數ハ明治二十三年選舉法改正ト同時ニ別表ヲ以テ之ヲ定メ明治三十五年法律第三八號第三九號ヲ以テ之ニ改正ヲ加ヘ次ノ如クナシタリ

府縣(市ヲ除ク)		選舉區ノ數	議員ノ數
府縣	(市ヲ除ク)	四五	二九六
市		五三	七三
島嶼		四	四
北海道(區)		三三	三三
沖繩		一一	二
計		一〇九	三〇一

(右ノ中北海道郡部三人、沖繩縣ノ二人ハ未施行ニ在ルヲ以テ現在ノ議員ノ員數三百七十六人ナリ)

此員數ハ其選舉區内ノ人口ヲ標準トシタルモノニシテ人口十三萬人毎ニ一人ヲ配當シ其端數ハ四拾五入ノ法ニ依ルモノナリ但十箇年間ハ選舉區ノ人員ニ増減アルモ之ヲ動カザサルコトト爲セリ

市ハ之ヲ獨立ノ選舉區ト爲スヘキモノナルヤ現行ノ選舉法ニ於テ市ヲ獨立選舉區ト爲シタルハ一ハ英國ニテハ市部選出ノ議員、郡部選出ノ議員ニ匹敵シ埃國ニテハ市及各商業會議所ハ各獨立ノ階級トシテ議員ヲ選出シ獨逸中ノ索遜ニテハ市部ヲ獨立ノ選舉區トシ市部ノ議員ハ郡部ノ議員ノ三分ノ一ト爲シタルノ例ニ依レリト雖モ尙ホ一ハ地租ト他ノ直接國稅トヲ選舉資格上同額ニ爲シタルノ結果選舉人ノ數農民ニ偏多ニ爲ルヲ防クカ爲メナリ是ニ於テ小選舉區制ヲ改メテ大選舉區制ト爲シタルニ拘ハラス特ニ市ニ就テ例外ヲ爲シタルノ必要アリヤ否ヤヲ疑ハサルヲ得ス元來大選舉區單記投票ノ制ト爲シタルハ少數代表ノ目的ヲ達センカ爲メニシテ商工業者ヨリ議員ヲ出スノ目的ハ之ニ依リテ遂ケラルヘキナリ然リト雖モ茲ニ指定シタル如ク大選舉區單記投票ノ制ヲ用フルノ我國ニテハ地租ト直接國稅トノ間ニ其額ノ上ニ權衡ヲ得サルカ爲メ特ニ市ヲ獨立ニ爲スノ必要アリト言ハハ寧ロ其本ヲ正シテ地租十圓、他ノ直接國稅三圓ト爲スヘキナリ然ルニ之ヲ爲サスシテ一方ニ少數代表ノ選舉制ヲ採用シテ尙ホ

市ヲ獨立ノ選舉區ト爲スハ實ニ矛盾ノ甚タシキモノニシテ立法者ノ意思殆ト何レニ在ルヤヲ解スルヲ得サルナリ

第三項 投票

選舉ハ必スシモ投票ニ依ラサルヘカラサルモノニ非スト雖モ多クノ國ニ於テハ投票ヲ以テ選舉ヲ行フコトト爲シ我國モ亦選舉法ニ於テ選舉ハ投票ヲ以テ行フト規定セリ蓋シ選舉人多キトキハ此方法ニ依ルヲ便利ナリトスレハナリ投票ノ記載ノ方法ニ依リ記名投票及無記名投票若クハ單記投票及連記投票ノ區別アリ今此種類ヲ略説スレハ

第一 單記投票及連記投票

連記投票トハ選舉區内ノ議員ノ全數ノ候補者ヲ投票ニ記載セシムルモノニシテ單記投票トハ選舉區ノ議員ノ數ノ多寡ニ拘ハラス投票ニハ單ニ一人ノ候補者ノミ記載セシムルモノヲ謂フ此連記投票ハ第一ニ選舉人ノ間ニ投票ヲ行フ上ニ於テ不公平ナル結果ヲ生セシムルノミナラス尙ホ前ニ述ヘタル少數代表ノ弊ヲ導クモノナリ故ニ我國ニ於テハ前選舉法ニ在リテハ連記投票ノ制ヲ採用セシモ今日ハ之ヲ單記投票ノ制ト改メタリ固ヨリ單記投票ニ於テハ少數ノ人ニ投票集中スルトキハ定數ノ議員ヲ得ルコト能ハスシテ幾回モ選舉ヲ繰返ササルヲ得サル結果ヲ生スト雖モ此ノ如キ結果ヲ生スルハ甚タ稀ナル事ニ屬スルニ由リ今日ニ於テハ單記投票

ヲ取ルコトト爲セルナリ

第二 記名投票及無記名投票

記名投票トハ投票中ニ候補者ノ氏名ノ外ニ選舉人ノ氏名ヲ記載セシムルモノニテ無記名投票トハ候補者ノ氏名ノミヲ投票ニ記載セシムルモノヲ稱スルナリ單ニ理論上ヨリ論スルトキハ選舉ハ記名投票ニ依ルヲ可トスルモノナリ蓋シ選舉ナルモノハ公法上ノ職務ニシテ選舉人ハ十分ノ責任ヲ以テ之ヲ行フカ爲メ其氏名ヲ明カニ記載スヘキモノナレハナリ然レトモ現今選舉人ノ德義ノ程度低ク賄賂・脅迫其他選舉ヲ爭フ候補者ノ運動ノ爲メ其意思ヲ動かサルルン虞アルニ由リ選舉人ノ意思ノ自由ヲ保證スルカ爲メニハ無記名ノ方法ヲ用ヒサルヲ得サルモノナリ是レ今日ノ現行法ニ於テ前選舉法ノ記名投票ヲ改メテ無記名投票ト爲シタル所以ナリ其結果トシテ何人ト雖モ選舉人ノ投票シタル被選人ノ氏名ヲ陳述スルノ權利及義務ナキモノナリ尙ホ我制度上投票ニ通スル重ナル原則ヲ舉クルトキハ

一 投票ハ一人一票ニ限ルモノトス 一人一票ノ原則ハ何レノ國ニ於テモ總テ然ルモノニ非スシテ白耳義ノ如キ一人ニシテ三票ヲ行フコトヲ得ルノ制ナキニ非サルナリ白耳義ニ於テハ滿二十五歳ニ達シタル男子ハ總テ選舉權ヲ有スルモノニシテ尙ホ其他滿三十五歳以上ニシテ妻ヲ有スルカ若クハ子ヲ有スル者ニテ家屋ニ付キ五「フラン」以上ノ國稅ヲ納ムル者ハ滿二十五歳以上ニシテ二千「フラン」以上ノ價アル不動產ヲ有スルカ又ハ二

千「フラン」以上ノ公債若クハ貯金ヲ有スル者ニシテ一箇年百「フラン」以上ノ收入アル者ハ更ニ一箇ノ添加投票權ヲ有スルモノナリ

又滿二十五歳以上ニシテ中學程度以上ノ教育ヲ受ケタル者又ハ公務、私務ニ從事シ若クハ從事シタルカ爲メ中學以上ノ教育ノ程度アル者ト認メラルル者ハ二票ノ添加投票權ヲ付與セラルルモノナリ而シテ總テ一人ニシテ三票以上ヲ行フコトヲ得スト定メラレタリ此複數投票ノ制度ハ一八九三年始メテ白耳義ニ於テ行ハレタルモノニテ他ニ類似ヲ見サルモノナリ且又投票及其調査ノ手續煩雜ナルニ由リ理論上宜キヲ得ルモ我國ニテハ一人一票ノ制ヲ取ルコトト爲セリ故ニ一人ニシテ二箇處以上ノ選舉人名簿ニ登録セラレ二重ノ投票ヲ爲シタルトキハ生活ノ中心ナラサル土地ニ於テ爲シタル投票ハ無効タルナリ

二 投票ハ自ラ行フヘキモノナリ 貴族院伯、子、男爵及多額納稅者議員ノ選舉ニハ異例トシテ投票ヲ他人ニ委託スルコトヲ許シタルモ衆議院ノ選舉ニハ之ヲ許ササルナリ

三 被選人ノ名ヲ自ラ記ササルヘカラス 此規定ハ前選舉法ニ於テ存在セザリシモ現行ノ選舉法ニ於テ新ニ之ヲ設ケタリ其之ヲ設ケタル理由ハ一ハ之ヲ以テ全ク無筆ナル者即チ教育ノ程度極メテ低キ者ノ投票ヲ制限スルニ在リト雖モ尙ホ一ノ理由ハ無記名投票ノ制ニ改メタルノ結果トシテ必要ナレハナリ

四 一定ノ投票用紙ヲ用ヒサルヘカラス 是レ理論上必スシモ然ラサルヘカラサルモノニ非

スト雖モ選舉資格ナキ者ノ投票若クハ選舉人ノ意思ニ非サルノ投票ヲ防クカ爲メナリ而シテ我選舉法ハ投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニテ選舉人ニ渡スヘキモノト爲セリ

五 投票ハ投票所ニ於テ行フヲ要ス 此投票所ハ市役所、町村役場又ハ地方長官ノ許可ヲ得テ投票管理者ノ指定シタル場所ニ設ケラルルモノナリ

六 定時間外ニ投票スルヲ得ス 我選舉法第三三條ニハ「投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ」トアリ故ニ此時間以外ニ投票所ニ至ルトキハ投票スルヲ得サルモノナリ選舉人多キカ爲メ其時間内ニ投票所ニ至リタルモ投票スルヲ得サルトキハ此時間外ニ投票シ得ルハ勿論ナリ

七 選舉人名簿ニ記載セラレサル者ハ名簿ニ登録セラレヘキ確定判決書ヲ所持スル者ノ外投票スルコトヲ得ス 是レ選舉人名簿ニ關スル制度ヲ設ケタルノ結果ナリ故ニ選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘク又投票管理者カ其投票ヲ爲サントスル選舉人ノ本人ナルヤ否ヲ確證スルヲ得サルトキハ本人ナル旨ヲ宣言シテ投票スヘキモノナリ

第四項 選舉ノ機關

第一 投票管理者

憲法 統治機關 議會 日本衆議院議員ノ選舉

市町村長此任ニ當ルモノニシテ其職務ハ

一 選舉人カ果シテ本人ナルヤ否ヲ確認スルコト能ハサルトキハ投票立會人ノ面前ニ於テ其本人ナルコトヲ宣言セシムルコト

二 投票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ノ拒否ヲ決定シ若シ拒否セラレタル選舉人不服ナルトキハ假ニ投票ヲ爲サシムルコト

三 定時ニ至リタルトキハ投票所ノ閉鎖、投票終了シタルトキハ投票函ノ閉鎖ヲ命スルコト

四 投票録ヲ作ルコト

五 町村ニ於テハ投票ノ翌日マテニ投票函、投票録及選舉人名簿ヲ開票管理者ニ送致スルコト

六 投票所ノ秩序ヲ維持スルコト

等ニ在ルナリ尙ホ管理者ハ必要ニ應ジ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得ルナリ

第二 投票立會人

投票立會人ハ投票所ニ參會シテ投票ニ立會フヘキモノニシテ郡、市長カ各投票區内ノ選舉人中ヨリ三名乃至五名以下ノ立會人ヲ選任スルモノトス而シテ立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其任ヲ辭スルコトヲ得サルモノナリ

第三 開票管理者

開票所ハ通常郡、市役所ニ設ケラルルモノナルカ故ニ郡、市長ヲ以テ開票管理者トス故ニ市長ハ一方ニ投票管理者ニシテ又開票管理者タルナリ而シテ其職務ハ

一 郡ニ於テハ投票函到達ノ翌日、市ニ於テハ投票ノ翌日開票立會人ノ立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スルコト(選舉法五五條)

疑問 此投票數ト投票人數トノ計算ノ場合ノ如キ事實上此總數ノ相符合セサルコト頗ル多カルヘキニ若シ斯ル場合ニ遭遇セハ如何ニ處スヘキヤハ條文ノ規定明瞭ナラス即チ右ノ投票函ノ分ハ之ヲ除キテ他ノ投票函ニ就テ點檢スヘキヤ將タ又一切ノ開票ヲ中止スヘキヤ或ハ右ノ顛末ヲ開票録ニ記入シ符合ノ如何ニ頓著ナク他ノ分ト併セテ點檢シテ選舉長ニ報告シ當日選舉訴訟又ハ當選訴訟起リタル場合ニハ「ニ決定ヲ裁判所ノ判決ニ仰クヘキヤノ疑アリ然レトモ正當ナル解釋ハ計算若シ符合セサルトキハ總ラ右ノ投票ヲ無効ト解釋スヘキナリ蓋シ然ラサレハ計算ハ無意義ニ歸スレハナリ

二 假投票ヲ調査シ開票立會人ノ意見ヲ聽キ其受理如何ヲ決定スルコト

三 投票ヲ開票立會人ト共ニ點檢スルコト

四 開票立會人ノ意見ヲ聽キ投票ノ效力ヲ決定スルコト

選舉法上無効ナル投票左ノ如シ

イ 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

ロ 一投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載セルモノ
ハ 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
ニ 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
ホ・被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ(但官位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記
入シタルモノハ此限ニ在ラス)

五 開票録ヲ調査スルコト
六 開票ノ結果ヲ選舉長ニ報告スルコト
等ナリ

第四 開票立會人

名ノ示ス如ク開票ニ立會フモノニテ其數ハ三名以上七名以下トス而シテ地方長官選舉人ヨリ
之ヲ選任スルモノナリ但市長ハ投票管理者ト開票管理者トヲ兼スルカ故ニ市ノ投票立會人ハ
同時ニ開票管理者タルナリ

第五 選舉會

選舉會ハ道廳及各府縣毎ニ之ヲ設ケ地方長官ヲ以テ選舉長トシ各選舉區内ニ於ケル選舉人中
ヨリ選任シタル選舉立會人ト共ニ其事務ヲ執行セシムルモノニテ要スルニ郡市部開票ノ結果
ヲ調査スルモノナリ

第六 選舉長

地方長官之ニ當リ選舉ニ關スル事務ヲ統轄スルモノナリ其事務ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 投票、開票ノ監督ヲ爲スコト
- 二 選舉會ノ場所及日時ノ指定ヲ爲スコト
- 三 選舉會ノ場所及日時ヲ告示スルコト
- 四 選舉立會人ノ選任ヲ爲スコト
- 五 選舉會ノ開閉ヲ爲スコト
- 六 報告書ノ調査ヲ爲スコト
- 七 當選者ノ決定及告知ヲ爲スコト
- 八 當選證書ヲ付與スルコト
- 九 當選人ノ告示及報告ヲ爲スコト
- 十 選舉會ノ取締ヲ爲スコト
- 十一 尙ホ選舉ナキトキ若クハ不足スルトキハ更ニ選舉ヲ行ハシムルコト
- 十二 訴訟ノ判決ニ依リ當選無効ト爲リタルトキ若クハ選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレ
タル結果トシテ其當選無効ト爲リタルトキ必要ナル處置ヲ爲スコト

第七 選舉立會人

選舉長ハ各選舉區内ノ選舉人中ヨリ三名乃至七名ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會開會ノ期日ヨリ三日前ニ當人ニ之ヲ通知シ選舉會ノ當日選舉會ニ參會セシムルモノトス又立會人ハ其任ヲ辭シ得サルモ指定ノ時刻ニ至リ參會セス又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ選舉長臨時ニ選舉人中ヨリ選任シテ補充スヘキモノナリ

第五項 當選人

當選人ヲ定ムルニハ過半數ノ投票ヲ得タルヲ必要ト爲シ若クハ選舉人ノ數ヲ議員ノ數ニテ除シテ得タル商數ノ投票ヲ得ルヲ必要ト爲ス例アリト雖モ我選舉法ハ有效投票ノ比較的最モ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者ト爲スコトセリ但最少數ノ制限アリテ選舉區内ノ議員ノ數ヲ以テ選舉人簿ニ記載セラレタル者ノ總數ヲ除シ之ヨリ得タル數ノ五分ノ一以上ノ得票アルコトヲ必要ト爲セリ又當選ハ定ムルニ當リ得票ノ數同シキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤シテ其順位ヲ定ムルモノナリ又當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ二十日以内ニ届出ヘキモノニシテ若シ之ヲ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做サルナリ是ニ於テ當選人ハ承諾ニ因リ議員タルノ資格ヲ得ルモノナリト說ク人アリト雖モ議員ノ選舉ハ契約ニ非スシテ一方行爲ナルカ故ニ當選人ノ承諾ハ一ノ解除條件ト認ムヘキモノナリ隨テ議員タルノ資格ハ選舉ノ時ニ得タルモノナリ是レ議員ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四箇年トスト定メラレ

タル所以ナリ固ヨリ地方長官ハ當選人カ承諾シタル當選證書ヲ付與スルモ是レ唯議員タルコトヲ證明スルニ止マリ之ニ因リテ議員タルノ資格カ發生スルモノニ非サルナリ

第六項 選舉訴訟、當選訴訟

選舉ノ效力(選舉ノ效力トハ選舉ノ規定ノ違背ノ場合ノミナラス投票ノ有效無效ノ問題モ含ム)ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ選舉訴訟ヲ控訴院ニ提出シ其判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得ルナリ又當選ヲ失ヒタル者カ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ當選人ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ當選訴訟ヲ控訴院ニ提出スルコトヲ得若シ當選ニ必要ナル得票定數ニ達シタリトノ理由ニ因リ出訴スルトキハ選舉長ヲ被告トシ再選舉告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得而シテ其判決ニ不服ナルトキハ大審院ニ上告スルヲ得ルナリ

右ノ裁判所ハ選舉ノ規定ニ違背スルカ爲メ當選人ノ結果ニ異動ヲ及ホス虞アル場合ニ限り其選舉ノ全部若クハ一部ノ無效ヲ判決スヘキモノニシテ其裁判ヲ爲ス場合ニハ檢事ヲシテ口頭辯論ニ立會ハシムルコトヲ得又其判決ノ謄本ハ之ヲ内務大臣ニ送付シ若シ議會開會中ナルトキハ併セテ衆議院議長ニ送付スヘキモノナリ

第三款 被選人ノ資格要件

- 衆議院議員ニ選ハルニハ左ノ資格要件ヲ具フルコトヲ必要トス
- 一 帝國臣民タル男子ニシテ選舉ノ期日ヨリ起算シ年齡三十歲以上ナルコト
 - 二 瑞典ハ二十五歲以上、英國ハ滿二十一歲以上、瑞西ハ滿二十歲以上又我地方議會ノ被選權モ滿二十五歲以上ニシテ與ヘラルルカ故ニ三十歲以上ハ高キニ過クルノ感アリ
 - 三 宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收稅官、警察官ニ非サルコト
 - 四 神官、神職、僧侶其他諸宗ノ教師、小學校教員タルカ又ハ此職ヲ能メテ三箇月ヲ經過セザルコト
 - 五 議員ト官吏トノ關係ニ就テハ原則トシテ官吏ノ議員ヲ兼スルヲ禁スル制度（北米、英、佛、伊、白、瑞西諸國其例ナリ）ト原則トシテ此兩者ノ兼務ヲ許シ例外トシテ特別ノ地位ノ官吏ノ議員ヲ兼スルコトヲ得スト定ムルモノトアリ而シテ我國ハ獨逸系統ノ諸國ニ倣ヒ此後ノ制度ヲ採用スルモノナリ

ル者ニ非サルコト

- 五 政府ノ爲メニ請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ非サルコト
 - 六 華族ノ戸主、官公私立學校ノ學生、生徒ニ非サルコト
 - 七 現役又ハ召集中ノ軍人ニ非サルコト
 - 八 選舉ニ關スル犯罪ニ因リ被選舉人タルコトヲ禁セラレタル者ニ非サルコト
 - 九 禁治產者、準禁治者、身代限ノ處分ヲ受ケテ債務ノ辨償ヲ了ヘタル者、家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ルマテノ者ニ非サルコト
 - 一〇 公權ヲ剝奪セラレタル者、公權停止中ノ者又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケテ裁判確定スルニ至ルマテノ者ニ非サルコト
- 其他尙ホ選舉事務ニ直接關係アル官吏又ハ吏員ハ其選舉區内ニ於テ被選人タルコトヲ得サルモノナリ又貴族院議員、府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得サルニ由リ衆議院議員ニ當選セラレタル場合ニ之ヲ承諾セントスルキハ其貴族院議員若クハ府縣會議員ノ地位ヲ辭セサルヲ得サルナリ其立法上ノ理由ハ一ハ二院制ヲ置クノ目的ヲ貫ク爲メニシテ他ハ地方ノ利害ニ依リテ國家ノ目的ヲ決スルコトアルヲ避クル爲メナリ又華族ノ戸主ハ衆議院議員ノ選舉ニ全ク關係スルヲ得サルニ由リ多額納稅者モ一方ニ貴族院議員ヲ互選スルコトヲ得ルカ故ニ衆議院議

員ノ選舉權、被選舉權ヲ有スヘキ者ニ非ナルカ如シト雖モ現行ノ選舉法ニ於テハ之ヲ禁セサルニ由リ多額納稅者モ亦衆議院議員ノ候補者ト爲ルコトヲ妨ケス然レトモ是レ華族ト同一ニ定ムヘキモノトス

茲ニ被選舉權ハ一ノ公權ナルヤ否ヤヲ附説センニ「ゲ、マイヤー」氏「ザイデル」氏其他多數ノ學者ハ被選舉權ハ一ノ資格ニシテ權利ニ非スト論シタルハ當ヲ得タルモノナリ即チ權ナル文字ヲ有スルモ市町村ノ公民權ト均シク其實權利ニ非サルナリ然ルニ學者中ニハ往往被選舉權ハ權利ニ非サルモ選舉權ハ權利ナリト論スル人ナキニ非スト雖モ選舉權トハ投票スル權ノ事ニシテ投票ヲ爲スコトハ選舉人カ國ノ機關トシテ行フ權限上ノ行爲ナルニ由リ是レ亦權利ト稱スヘキモノニ非サルナリ

第七節 帝國議會ノ議員

第一款 議員ノ權利

第一 質問權

議員ハ三十人以上ノ賛成者アルトキ政府ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得

第二 議案ノ發議權

議員ハ法律案上奏案若クハ建議案ニ付キ發議スルコトヲ得

第三 發言、表決ノ自由權

議員ハ憲法第五三條ニ依リ院內ニ於ケル發言及表決ニ對シ院外ニ於テ其實ヲ負フコトナシ但自己ノ發議ニ對シ院內ニ於テ責任ヲ負フヘキコトアルハ此限ニ在ラス

第四 身體ノ自由權

議員ハ憲法第五三條ニ依リ開期中ハ議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルルコトナシ然レトモ現行犯罪、内亂罪若クハ外患罪ヲ犯シタル者ハ此限ニ在ラサルナリ

第五 歳費及旅費ヲ受取ルノ權

議員ノ手當ハ歳費ニ限ルモノト日當ニ依ルモノトアリ我國ハ歳費主義ヲ執ル但議員ニシテ召集ニ應セサル者及官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受取ルコトヲ得サルモノナリ

第二款 議員ノ義務

第一 議員ハ自ラ出席スルコトヲ要シ代人ヲ使用スルコトヲ得サルモノナリ

若シ已ムヲ得サル事故アリテ缺席スルトキハ届出ヲ爲スヘク又數日繼續シテ出席セサル場合ニハ請假ノ許可ヲ受クヘキモノナリ

第二 議員ハ院內整理ノ權ニ服從セサルヘカラス

第三 議員ハ其地位ヲ利用シテ不正ナル行爲ヲ爲スヘカラサルノ義務ヲ有ス

第三款 議員ノ關係消滅

第一 任期滿限

貴族院議員ニシテ任期ヲ有スル者ハ七年、衆議院議員ハ四年ナリ但衆議院議員ニハ特別ノ明文アリテ議會ノ開會中任期滿了スルモ會期ノ了ルマテ其資格ヲ保ツモノト爲サレタリ

第二 死亡

第三 解散

第四 辭職

貴族院議員ノ辭職ハ勅裁ヲ經ヘキモノナリ

第五 被選資格ノ喪失

第六 除名

議員ハ懲罰ノ爲メ除名セラルルノミナラス貴族院令第一〇條ニハ議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルトキハ勅命ヲ以テ除名セラルルモノトセラレタリ

第八節 議會ノ召集

議會ノ召集トハ其實議會ノ議員ノ召集ヲ指スモノニシテ或ハ議員ニ對シ召集狀ヲ發スルノ例ヲ

リト雖モ我國ニテハ召集ノ詔勅ヲ官報ニ公布スルヲ以テ足レリト爲シ各議員ニ對シ別ニ召集狀ヲ發スルコトナシ此議員ヲ召集スルハ君主ノ大權ニ屬スルコトニテ議會自ラ召集ヲ待タスシテ集會スルコトヲ得ス若シ召集ヲ待タスシテ集會スルトキハ治安警察法ノ取締ノ適用ヲ受クヘキモノナリ

議會ノ召集ノ時期ニ付テハ議會ノ種類ニ由リテ異ナリ解散後ノ議會ハ解散後五箇月以内ニ必ス召集スヘク通常會ニ付テハ一定ノ時期ナキモ一年ニ一回必ス召集セサルヲ得サルナリ普通ノ臨時會ニ付テハ臨時緊急ノ事件生シタル場合ニ於テノミ之ヲ召集スヘキモノナリ

第九節 帝國議會ノ開會

開會トハ議會ヲ開クコトニテ之ニ由リテ議會ハ成立シ且議事ヲ開クノ狀態ニ至ルモノナリ故ニ會期ハ此開會ノ日ヨリ計算セラルルモノナリ開會ハ召集セラレタル後直チニ開クヘキモノナルヤ否ヤニ付テハ明文ナキカ爲メ一ノ疑問ニ屬スト雖モ議會ノ種類ニ依リテ之ヲ區別シテ考フヘキナリ臨時會ハ議會ノ性質上召集後直チニ開クヘキモノナリト雖モ通常會ハ翌年ノ通常豫算ヲ議スルカ爲メニ開クモノナルカ故ニ翌年ノ豫算ヲ議スルノ期間カ翌年度ノ始マル前ニ存スル以上ハ召集後何時開會スルモ差支ナキモノナリ

第十節 議會ノ閉會

議會ノ閉會トハ會期ノ終了ニ由リテ議會ヲ閉ツルコトヲ稱スルモノナリ而シテ閉會ノ效果トシテハ更ニ議會ノ行動ヲ止ムヘキノミナラス所謂會期不繼續ノ原則ニ依リ不議了ノ議案ハ總テ消滅シ又委員ハ總テ解任セラルルモノナリ故ニ一旦議會ヲ閉會シタル後更ニ議會ヲシテ議事ヲ爲サシメントスルトキハ召集、開會ノ手續ヲ爲スヘキハ勿論總テ議案ハ新ニ提出スヘキノナリ此閉會ニ關連シ會期終了シテ猶ホ閉會ノ命ナキ場合ニハ會期ノ延長ト看ルヘキノナリヤ或ハ議會ノ閉會ト認ムヘキノナリヤノ疑問アリト雖モ是レ我憲法ニ議會ヲ毎年一回召集スヘシトアルニ拘ハラズ若シ召集ナキトキハ如何ニスヘキヤノ問題ト同一ノ種類ニ屬スルモノナリ

第十一節 議會ノ停會

停會トハ議會ノ會期中議會ノ行動ヲ中止スルコトナリ故ニ停會中ハ兩院トモ本會議ハ勿論委員會モ開タコトヲ得ス又議會ノ行動ヲ止ムル點ニ於テハ停會モ閉會モ相類スト雖モ其兩者ノ間ニハ左ノ區別存スルモノナリ

一 其目的ヲ異ニス 閉會ハ會期ノ終了ニ因リテ其議會ヲ止ムルコトナリト雖モ停會ハ議會ノ行動當ヲ得タル場合ニ於テ之ヲシテ反省セシメントスルカ爲メニ爲スモノナリ

二 效果ニ於テ差異アリ 議會ハ閉會ニ因リテ其成立ヲ失ヒ更ニ議會ノ行動ヲ始ムルトキハ召集開會ノ手續ヲ取ラサルヲ得スト雖モ停會ノ場合ニハ會期中ニ之ヲ行フモノナルカ故ニ停會ノ期限過クレハ更ニ停會前ノ議事ヲ繼續スルコトヲ得ルナリ

三 閉會ノ場合ニハ不繼續ノ原則ニ依リテ議案ハ總テ消滅スルモ停會ノ場合ニハ此ノ如キ結果ヲ生セサルナリ

停會ハ此ノ如ク會期中ニ行フモノナルニ由リ其期限ノ制限ヲ設ケサルトキハ憲法ニ通常會ノ會期ヲ三箇月ト定メタルニ拘ハラズ停會ノ爲メニ之ヲ破ルノ虞アリ故ニ議院法第三三條ニ於テ停會ヲ命スルハ十五日以内ニ限ルモノトセリ尤モ我國ニテハ他國ニ於ケルカ如ク回数ノ制限ヲ設ケサルカ故ニ一會期中何回ニテモ停會ヲ命スルコトヲ得ルナリ此議會ノ停會ト區別スヘキハ貴族院ノ停會ナリ貴族院ハ解散セラルルコトナキカ故ニ衆議院解散セラレタルトキハ當然停會スルモノト定メラレタルニ止リ此停會ハ議會ノ停會トハ其目的、性質及ヒ效果ヲ異ニスルモノナリ即チ貴族院ノ停會ハ閉會ノ場合ト同一ノ效果ヲ生スルモノニテ會期不繼續ノ原則ハ此會ニモ適用サルルモノナリ又解散後五箇月以内ニ召集スル場合ニ於テモ當ニ衆議院ノミナラス貴族院ノ議員モ新ニ召集セラレサルナリ

第十二節 議院ノ休會

休會トハ停會ノ如ク君主ノ命ニ依ルコトナクシテ各議院各別ニ其決議ニ因リテ其議事ヲ中止スルコトヲ稱スルナリ故ニ會期中議事ヲ中止スル點ニ於テハ相類スト雖モ仍ホ此兩者ノ間ニハ左ノ區別存スルナリ

一 停會ハ國法上議會ノ議事ヲ中止スルコトナルモ休會ハ事實上其議事ヲ中止スルニ止マルモノナリ

二 停會中ハ本會議ノミナラス委員會モ之ヲ中止スト雖モ休會ハ單ニ本會議ノミヲ休止スルモノナリ

三 停會ノトキハ議事ヲ絕對ニ開クコトヲ得サルモ休會ノトキハ議事ヲ開クコトアルヲ妨ケサルナリ

四 停會ハ兩院同時ニ行ハルルモ休會ハ各院各別ニ自由ニ之ヲ行フモノナリ

五 停會ハ議會ノ反省ヲ促スカ爲メニ命セラルルコトナルモ休會ヲ爲スノ目的ハ議案ノ都合ニ依ルカ若クハ他ニ故意ヲ表シ若クハ弔意ヲ表スル意ニ出ツルモノナリ

第十三節 衆議院ノ解散

解散ハ必ス之ヲ衆議院ノミニ行フモノニ非スト雖モ我國ニ於テハ憲法第四五條ニ於テ衆議院ノミニ之ヲ命スルコトヲ得ルモノト爲セリ此解散ハ解散ヲ命セラレタル議院ノ成立ヲ失ハシムル

(四) 權限外ノ行爲ト權限内ノ行爲トヲ區別スルヲ要セス

適法行爲ハ形式實質共ニ適法ナラサルヘカラス權限外ノ行爲ハ其實質ニ於テ違法ナルト否トヲ問ハス形式上既ニ違法行爲ナリ權限内ノ行爲ハ權限内ナルカ故ニ常ニ適法ナルニアラス其實質上違法ナルニ於テハ亦違法行爲ナリ而シテ違法行爲ナル以上ハ官吏トシテノ行爲ニアラス一私人ノ行爲ト認ムヘキカ故ニ官吏賠償責任問題ヲ決スルニ付キ權限ノ内外ヲ以テ適法ト不適法トヲ區別スル標準トナスコトヲ得サルナリ

余ハ以上ノ前提ヲ以テ正當ナリト信スルカ故ニ當然ノ結論トシテ官吏カ公法上ノ關係ニ於テ權限外ノ行爲ニ因リ國家又ハ人民ニ損害ヲ與ヘタル場合ハ勿論權限内ナルモ實質ニ於テ違法ノ行爲ニ因リ損害ヲ與ヘタル場合ニハ官吏ハ一私人ノ行爲トシテ賠償責任アリト信ス蓋シ官吏カ國家機關ノ構成分子トシテ行爲カ客觀的ニ違法行爲ト決定セラレシ上ハ是レ即チ官吏トシテノ行爲ニアラス單ニ一私人トシテノ行爲ニ過キス而シテ違法行爲タル以上ハ其權限ノ内外ヲ區別スルノ理由ナキカ故ニ權限内ノ行爲ナリト雖モ違法行爲ト決定セラレシトキハ私人トシテ其實責任スヘキ理由アルカ故ナリ

而シテ次ニ起ルヘキ問題ハ官吏カ違法ノ行爲ニ因リ人民ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於テ國家ニ何等ノ責任ナキヤ否ヤニアリ思フニ國家ハ違法ノ行爲ヲ爲スヘキ權限ヲ官吏ニ付與シタルモノト認ムヘキ根據ナキ以上而シテ違法行法ハ官吏ノ行爲ニアラスシテ一私人ノ行爲ナリト認ムヘキ

理由アル以上此ノ如キ場合ニ於テ國家ニ責任アリト云フヲ得サルナリ要スルニ官吏カ公法上ノ違法行為ニ因リ國家又ハ人民ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ於テハ國家ニ賠償責任ナク一私人ノ行為トシテ官吏ニ責任アリト論結セサルヲ得サルナリ以上ノ所說ニ反對シ官吏カ權限外ノ行為ヲ爲シタル場合ニ於テハ一私人ノ行為トシテノ官吏ニ責任アルモ權限内ノ行為ナル以上ハ國家ハ違法ノ權限ヲ行使シ得ヘキ危險ヲ前提スルモノナルカ故ニ官吏ニ責任ナシト云フモノアレトモ既ニ客觀的ニ違法行為ト決定セラレシ以上ハ其權限内ノ行為ナルト權限外ノ行為ナルトヲ區別スヘキ理由ナキコト上述セル如クナルヲ以テ違法行為ニ因リ國家又ハ人民ニ對シ損害ヲ與ヘシ場合ニ於テハ常ニ一私人ノ行為トシテ官吏ニ賠償責任アリトセサルヘカラス

我現行法令中官吏カ人民及ヒ國家ニ對スル責任ニ付キ一般ノ準則ナシ唯特定ノ官吏ニ付キ其規定ノ存在セルモノアルノミ即チ人民ニ對スル責任關係トシテハ刑事訴訟法第十四條ニ於テ「被告ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ刑事、檢事、裁判所書記、執達吏、警察官又ハ巡査、憲兵ニ對シ要領ノ訴ヲ爲スコトヲ得」但此等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯セシトキハ此限ニアラス」ト規定セルカ如キ特定ノ官吏ニ付キ賠償責任ニ關スル規定ヲ設ケタルモノト云フヘク又會計法第二十六條ニ於テ「政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クヘシ」ト定メ同第二十七條ニ於テ「前條ノ官吏水火盜難又ハ其他ノ事故ニ由リ其保管スル所ノ現金若ク

ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其保管上避ケ得ヘカラナリシ事實ヲ會計檢査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其負擔ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス」ト規定セルカ如キ事項ノ存スルノミ

第四章 公共團體

前ニ行政ノ組織ヲ論スルニ當リ國家行政ノ組織ニハ直接機關ニ依ル制度、間接機關ニ依ル制度アリテ直接機關ニ依ル制度トハ主權者カ直接ニ人格ナキ機關ヲ設ケ之ニ依リ行政ヲ行フ制度ニシテ所謂官治制度ヲ謂ヒ間接機關ニ依ル制度トハ主權者カ直接ニ人格ナキ機關ヲ設クルニアラス人民ノ集合體ニ人格ヲ認メ一定ノ事務ヲ之ニ委任シ間接ニ國家行政ノ手段ニ供用スルノ制度ニシテ所謂自治制度ヲ謂フ而シテ官自治ノ兩制度ハ現今ノ法治國ニ於テ一般ニ併用セラレ我國モ亦此制度ニ依リ行政ヲ行ヘルコトハ既ニ之ヲ說述セリ而シテ官治機關タル官廳及ヒ官廳ヲ組織スル官吏等ノ説明モ亦既ニ之ヲ終ハリタルカ故ニ以下間接機關タル公共團體ニ付キ説明スヘシ

第一節 公共團體ノ性質

公共團體ハ國家事務ノ一部處理ヲ以テ其存立目的トナシ其事務ヲ處理スヘキ公法上ノ義務ヲ負

擔スル公法人ナリ

(一) 公共團體ハ國家事務ノ一部ヲ處理ス

國家ノ事務ハ其種類甚タ多ク且先天的ノ限界ナキカ故ニ社會ノ發達ト共ニ其範圍ヲ擴張スルハ自然ノ趨勢ニシテ主權者ハ此等ノ事務ヲ處理セシムルカ爲メ直接機關タル官廳ヲ以テ足レリトスヘキカ如シト雖モ官廳ノ事務ハ動モスレハ形式ニ流レ易キノ弊アルト同時ニ直接ニ利害關係アル人民ノ意思ヲ反映シテ周到適實ナル行政ヲ行フヲ得ス是レ即チ人民ノ集合體ヲシテ國家事務ノ一部ヲ處理セシメ以テ官治行政ノ缺陷ヲ補ハシムル所以ナリ而シテ公共團體ヲシテ處理セシムヘキ事務ノ實質上ノ標準ニ付テハ未タ一定セルモノナシ唯現今ニ於ケル事實上ノ趨勢ヲ述フレハ國家ノ全局ヨリ打算シ其存立上必要缺クヘカラサル政務例ヘハ外務、軍務等ニ關スル事項ハ之ヲ公共團體ニ委任セシム其他公共ノ安寧秩序ニ直接關係アル事項モ亦然リ乍併稱極のニ人民ノ福利ヲ増進セシムヘキ助長事務ハ原則トシテ之ヲ公共團體ニ委任ス而シテ公共團體ヲシテ處理スヘキ事務ノ範圍如何ハ寧ロ立法政策及ヒ政治論ノ範圍ニ屬スルカ故ニ敢テ述ヘス

(二) 公共團體ハ國家事務ノ處理ヲ以テ其存立ノ目的トナス

公共團體ハ國家ノ事務ノ一部ヲ處理スルヲ以テ其團體成立ノ根據トナスモノニシテ若シ其團體ノ處理スヘキ國家事務ヲ除却スルニ於テハ即チ其存立ヲ失フニ至ルヘキモノトス故ニ商事

會社ノ如キモノカ時トシテ國家事務ノ一部ヲ處理スルコトナキニアラスト雖モ斯ノ如キハ其會社存立ノ目的以外ノ附加の事務ニ屬シ斯ル事務ヲ除却スルモ其會社ハ依然其存立ヲ維持スヘキカ故ニ之ヲ以テ公共團體ト云フヲ得ス

(三) 公共團體ハ其存立目的タル事務ヲ處理スヘキ公法上ノ義務ヲ負擔ス

前ニ述ヘシカ如ク公共團體ハ國家事務ノ處理ヲ以テ其存立目的トナシ其事務ノ處理ヲ離レテハ團體ヲ維持シ得ヘキモノニアラサルト同時ニ公共團體ハ國家行政ノ手段トシテ認メラル機關ナルカ故ニ其事務ヲ行フヘキ公法上ノ義務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ私法上ノ契約ニ因リ國家事務ヲ處理スルコトアル會社ノ如キハ斯ノ如キ公法上ノ義務ヲ負擔セサルカ故ニ固リ之ヲ公共團體ナリト云フヲ得ス

要スルニ公共團體ハ行政機關トシテ國家事務ヲ處理スヘキ公法上ノ義務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ其存立目的タル國家事務ハ任意的ノモノニアラスシテ法令ノ範圍内ニ於テ必ス之ヲ行ハサルヘカラサル積極的ノ義務アルモノトス

以上ヲ以テ大體ニ於テ公共團體ノ性質ヲ明カニシタリト雖モ尙特ニ注意ヲ喚起スヘキ事項二三アリ

(一) 公共團體ハ國家事務ヲ其存立目的トスト説明セリト雖モ事務ノ實質ノ如キハ判明ニ此兩者ヲ區別スヘキ標準トナルモノニアラス例ヘハ水害豫防組合即チ水害防禦ノ爲メニスル堤防

淺深砂防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノノ爲メ設置スル公共團體ノ如キ其事務ノ實質ニ於テ水害防禦ノ爲メニスル堤防淺深砂防等ノ工事ヲ爲ス私法人アリトセハ事務ノ實質ニ於テ更ニ異ナル所ナケレハナリ而シテ前ニ述ヘシカ如ク國家ノ事務ハ先天的ニ限定セラレタルモノニアラスシテ唯現行法規ニ依リ果シテ國家ノ事務ニ屬スルヤ否ヤヲ見ルヘク其事務ノ實質ニ依リ直チニ國家ノ事業ト否トヲ區別シ得ヘキモノニアラサルナリ又(二)團體カ強制命令ノ權限ヲ行使シ得ルヤ否ヤモ亦公共團體ト否トヲ區別スヘキ理論上ノ標準トナシ得ヘキモノニアラス如何トナレハ國家ノ事務ハ其範圍廣汎ニシテ諸種ノ事務ヲ包含スルカ故ニ事務ノ性質上強制命令ノ權限行使ヲ必要トスルモノト否ラサルモノトアリ單ニ強制命令權限ノ有無ヲ以テ公共團體ト否トヲ區別セントスルハ即チ國家ノ事務ハ凡テ命令權ヲ行使ヲ必要トスト云フニ同シク其誤謬ナルコト明カナリ唯現行法上公共團體ノ多數ハ命令權ヲ行使スルモノナルコトヲ注意スヘ例ヘハ府縣郡市町村ノ如キハ勿論商業會議所ノ如キモ其決議ヲ以テ職務ヲ怠リ若クハ不正ノ行爲アル議員ニ過怠金ヲ科スルヲ得ヘク又經費若クハ過怠金ヲ完納セサル者ニ對シ國稅徵收法ニ依リ徵收スルヲ得ルカ如キ又水利組合カ其事業ノ爲メニ夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルヲ得ルカ如キ皆其例ナリ

終ニ公共團體ト官廳トノ區別ヲ一言センニ公共團體、官廳共ニ國家ノ行政機關ナルニ至リテハ即チ同一ナレトモ公共團體ハ公法人ニシテ人格ヲ有スレトモ官廳ハ原則トシテ人格ヲ有セ

ス公共團體ハ其自身權利主體タルコトヲ得ト雖モ官廳ハ之ニ反シ形式上官廳ノ有スルカ如ク見ユル權利ハ即チ國家ノ權利ニシテ官廳其自身トシテハ權利ノ主體タリ得サルコト明カナリ又公共團體ノ事務ハ其存立目的タル團體ノ事務ニシテ同時ニ國家事務ナリト雖モ官廳ノ事務ハ國家ノ事務ニシテ官廳自體ノ事務ニアラス是レ公共團體ト官廳トノ區別セラルル要點ナリトス

第二節 公共團體ノ種別

(一) 設立ニ依ル區別

(イ) 法規ニ依リ當然設立セラルルモノ 別ニ人民ノ特定ノ行爲ヲ俟タシテ法令ノ結果當然設立セラルル團體ニシテ例ヘハ府縣郡市町村ノ如シ

(ロ) 人民ノ行爲ヲ俟テ始メテ設立セラルルモノ 法令ノ結果當然設立セラレスシテ人民ノ特定ノ行爲ヲ俟テ始メテ設立スル公共團體ニシテ例ヘハ商業會議所ノ如シ即チ商業會議所ヲ設立セントスルトキハ先ツ主務大臣ニ發起ノ申請ヲ爲シ發起認可ヲ得タルトキハ設立認可ヲ申請シ其認可ヲ得タルトキ設立セラルルモノナリ普通水利組合ノ如キモ亦此種ニ屬ス可テ普通水利組合ハ組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ請願アリタルトキ又ハ組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具備アリタルトキ府縣知事ニ於テ公益上必要アリト認

メ委員ヲ命シ設立手續ヲ爲スヘキモノナレハナリ

(二) 加入ノ義務ニ依ル區別

(イ) 法規ニ依リ當然加入ノ義務アルモノ 加入義務ノ發生ニ付キ人民ノ行爲ヲ條件トセタルモノヲ謂フ例ヘハ地方團體ハ之ニ屬シ團體ノ地域内ニ在ル者ハ法規ニ依リ當然加入スヘキ義務アルモノトス

(ロ) 人民ノ行爲ヲ條件トシ加入ノ義務ヲ生スルモノ 法令ニ依リ當然加入ノ義務アルニアルスシテ人民ノ一定ノ行爲ヲ條件トシ團體ヲ設クシメ同時ニ他ノ人民ニ對シ加入ノ義務ヲ生スルモノヲ謂フ例ヘハ普通水利組合ノ如シ一定ノ手續ヲ經テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ設立シタルトキハ組合事業ノ爲メ其利益ヲ受クル土地所有者ハ凡テ其組合ニ加入スルノ義務ヲ負フモノナレハナリ

人民ノ行爲ヲ條件トシ加入ノ義務ヲ生スル公共團體ニ付テモ特別ノ事情アル者ニ付加入ノ義務ヲ免除スヘキ規定ノ存スルモノト存セサルモノトノ二種別アリ

之ヲ要スルニ公共團體ハ人民ノ集合體ニ人格ヲ認メ國家事務ノ一部ヲ處理セシメ以テ行政ノ機關トナスモノナルヲ以テ團體ノ存立ヲ維持スルノ必要アルカ故ニ強制加入ハ公共團體ノ性質上當然ノ事情ニシテ加入脱退ヲ人民ノ任意トナスカ如キハ公共團體トシテ認ラ得サルナリ

(三) 事務ノ範圍ニ依ル區別

(イ) 普通公共團體 前ニ官廳類別ノ條ニ於テ説明セシ普通官廳ニ類シ事務ノ範圍ニ付キ廣キ推定ヲ受クヘキ團體ナリ例ヘハ地方自治體ノ如シ

(ロ) 特別公共團體 特別官廳ノ如ク事務ノ範圍ニ付キ狹キ推定ヲ受クヘキ公共團體ヲ謂フ例ヘハ水利組合、商業會議所ノ如キヲ謂フ

普通公共團體ニ在リテハ一定地域内ノ住民ヲ凡テ其團體ノ構成分子トシ地域ニ依リ構成分子ノ資格ヲ定ムル外他ノ條件ヲ必要トセサルモ特別公共團體ハ一定地域内ノ住民中特殊ノ條件ニ該當スル人民ニ限リ其構成分子トナスモノナリ例令商業會議所ノ構成分子ハ一定ノ地域内ニ主タル營業所又ハ事務所ヲ有スルノミナラス尙ホ會議所法第九條ニ定ムル資格要件ヲ具備スル者ヲ以テ組織シ水利組合ハ其構成分子ヲ地區内ニ住スル土地所有者又ハ土地及ヒ家屋ノ所有者ニ限定スルカ如シ

乍特特別公共團體ニアリテモ例外トシテ地域以外其構成分子ニ付特殊ノ條件ヲ定メサルモノナキニ非ス彼ノ學校組合ノ如キハ特別公共團體ナレトモ其組合ノ構成分子ハ區域内ノ一般人民ニシテ別ニ資格上其他ノ制限ナキカ如シ

以上ノ外階級ノ有無ニ依リ及ヒ執行機關ノ種類ニ依リ公共團體ヲ區別スルコトヲ得ヘキモ今ハ之ヲ省略ス

第三節 自治ノ觀念

自治ニ相對スル觀念ハ自治ナリ自治ヲ説明セントスルニ當リテハ先ツ自治ヲ知ラサルヘカラス
自治トハ國家カ直接ニ人格ナキ機關ニ依リ其事務ヲ行フヲ意味シ自治ノ要素ハ(一)國家自體
ノ行政ヲ行フモノナルコト(二)人格ナキ機關ニ依リ直接ニ行ハルルコトニアリ故ニ公共團體
カ其生存目的トシテ行政ハ之ヲ自治ト云フヲ得ス如何トナレハ曩ニ定義セシ如ク公共團體
ハ國家事務ノ一部處理ヲ以テ其存立目的トナシ其事務ヲ行フヘキ公法上ノ義務ヲ負擔セル公法
人ニシテ(一)其事務ハ國家ノ方面ヨリ觀ルトキハ國家自體ノ事務ナリト云フヲ得ヘシト雖モ
公共團體ノ方面ヨリ觀ルトキハ團體自體ノ事務ナリ故ニ此點ニ於テ自治ト區別セサルヘカラス
(二)公共團體ハ官廳ト等シク行爲機關ノ一ナリト雖モ官廳ハ人格ナク之ニ反シテ公共團體ハ公
法上ノ人格者ナリ故ニ人格アル機關ニ依リ行ハルル所ノ公共團體ノ行政ハ人格ナキ機關ニ依リ
直接ニ行ハルル自治行政ト區別セサルヘカラス斯ノ如ク行政法上國家カ官廳ニ依リ行政ヲ行フ
關係ヨリ公共團體ニ依リ行政ヲ行フ關係ヲ區別セサルヘカラス是レ即チ自治ノ觀念ヲ研究スル
ノ必要アル所以ナリ

抑モ自治ノ根源ハ英國ニ在リ英國ニ於ケル自治ノ觀念ハ其範圍頗ル廣汎ニシテ單ニ行政ノ範圍

ニ付キ之ヲ謂フニ止マラス立法、司法ノ範圍ニ付テモ亦之ヲ謂ヒ人民カ消極的ニ被治者ノ地位
ニ在ルニ止マラス尙ホ進シテ積極的ニ政務ニ干與スル關係ヲ稱シテ自治ト云ヘリ例ヘハ司法ノ
範圍ニ於テ一私人カ裁判ニ干與スル陪審制ヲ自治ト云ヘルカ如キ又立法ノ範圍ニアリテ人民カ
議會ノ分子トシテ法規設定ニ參與スルカ如キ其他行政ノ範圍ニ於テ人民カ政務ニ參與スル凡テ
ノ關係ヲ自治ト云フナリ然レトモ斯ノ如キハ行政法上ニ於ケル自治ノ觀念ト云フヲ得ス行政法
上ノ觀念トシテ自治ノ意義ヲ解決スルノ端緒ヲ啓キシ者ハ「グナイスト」氏ニシテ其自治ニ關
スル定義ニ曰ク

自治トハ國家ノ法律ニ從ヒ地方ニ關スル國家ノ行政ヲ地方税ノ支辨ニ依リ名譽職ヲ以テ處理
スルノ謂ナリ

ト此說ハ自治ニ對スル廣汎ナル英國ノ觀念ヲ打破スルノ功アリシト雖モ未ダ自治ノ觀念トシテ
正鵠ヲ得タルモノト云フヲ得ス此定義ニ關シ從來學者ノ非難スル要點ハ左ノ如シ

第一 名譽職ヲ以テ事務ヲ處理スルハ自治ノ要素ニアラス自治、自治ノ區別セラルル要點ハ國
家カ自己ノ事務トシテ官廳ニ依リ行フト團體カ自己ノ事務トシテ事務ヲ行フノ點ニアリ故ニ
團體カ其事務ヲ行フニ當リ名譽職ニ依ルト有給職ニ依ルトハ全ク別箇ノ問題ニシテ若シ斯ノ
如ク斷言セハ有給吏員ヲ以テ事務ヲ行フ英國ノ救貧組合ノ如キモ之ヲ自治ト云ヒ得サルハ勿
論我邦ニ於ケル市町村ノ如キ有給吏員ヲモ置クコトヲ得ルカ故ニ有給吏員ヲ設クル市町村ノ

行政ハ之ヲ自治ニアラスト云ハサルヘカラサルニ至ラン

第二 自治ハ地方行政ニノミ限局セラルヘキ觀念ニアラス

地方團體ハ公共團體ノ重要ナルモノナリト雖モ尙ホ其他特別ノ事務ヲ有スル諸種ノ公共團體アリ而シテ其等シク公共團體ナル以上其行政ノ官治行政ト異ナル所同一ナルカ故ニ單ニ地方團體ニノミ觀念ヲ限局セントスルカ如キハ不可ナリ

第三 其費用ヲ地方ニ負擔セシムルノ點モ亦自治ノ要素トナスヨ得ス

何トナレハ國庫又ハ上級ノ團體ヨリ行政ノ費用ヲ補助スルコトナキニアラス而シテ其補助ヲ受タルト否トハ當該公共團體ノ行政關係ヲ變更スルモノト認ムルヲ得サレハナリ

第四 地方ノ租税ニノミ依ルトナスハ狹キニ失ス

地方團體ノ自治ニ付テ云フトキハ其事務ヲ行フニ當リ主トシテ其地域内ノ收入ニ依ルハ疑ナシ然レトモ租税ノミニ限ルカ如キハ不當ニ狹隘ナル定義ヲ下セシモノト云ハサルヘカラス蓋シ地方團體ハ租税以外ニ手数料、使用料等ノ如キ其他ノ財源ヲ有スレハナリ

以上ノ四點ハ殆ト凡テノ學者ノ批難スル所ニシテ余モ亦其見ヲ同ウスト雖モ假ニ地方團體ノミニ付キ自治ノ觀念ヲ定メントセハ氏ノ定義ノ如キ其要素ヲ集メ得タルモノト云フヲ得サルモ巧ニ其要素ヲ列舉セシモノト云ハサルヲ得ス如何トナレハ

一 公共團體カ其事務ヲ行フニ當リ有給吏員ニ依ルモ何等ノ支障ナシト雖モ本來自治ノ因テ生

セシ政治上ノ理由ハ可及の實際的行政ヲ行フニアリ人民ヲシテ事務ノ衝ニ當ラシメ以テ公共心ヲ養成セシムルト同時ニ其責任ヲ知ラシムルニアルヲ以テ寧ロ生業ノ傍ラ其職ヲ奉セシムル所以ニシテ且官治事務ニ比シテ簡易ナルカ故ニ名譽職ヲ以テ行ハシムルモノナレハナリ

二 且自己ニ直接利害關係アル政務ヲ行フニ當リ其費用ヲ當該地域ノ住民ニ負擔セシムルハ自ラ費用ヲ節約シ散漫ナル行政ヲ防止スル所以ニシテ最も地方ノ實際ニ適應セル行政ヲ行フコトヲ得ヘクシテ事實上地方團體ハ何レノ國ニ於テモ主トシテ地方ノ收入ヲ以テ支辨セルカ故ニ自治ノ常素トシテ必スシモ不可ナリト云フヘカラス

予ハ自治ノ觀念ヲ定義シテ次ノ如ク云ハント欲ス

自治ハ法令ノ範圍内ニ於テ國家ノ事務ヲ自己ノ存立目的トシテ行フ公共團體ノ行政關係ヲ謂フ

左ニ之ヲ分析説明スヘシ

第一 自治ノ主體ハ公共團體ナリ

自治ニ關スル英國ノ觀念ノ如ク人民ノ政務ニ參與スル關係ヲ以テ自治ナリトセハ自治ノ主體ハ團體ニアラスシ一私人ナリ然レトモ一私人ハ行政ノ主體トナリ得サルカ故ニ自治ノ主體ハ公共團體ナリト云フ所以ナリ而シテ其公共團體ナル以上地方團體ナルト否トハ固ヨリ問フ所ニアラス

第二 自治ノ内容タル事務ハ團體自體ノ事務ナリ

團體自體ノ事務ナルヲ要スルカ故ニ團體員各個人ノ利益ノ爲メニ行フ事務ノ如キヲ謂フモノニアラサルヤ勿論ナリ

第三 自治ハ國家ノ法規ニ依リテ生ス

國家ニシテ若シルヲ事務ヲ直接機關ニ依リ團體ニ委任セシテ行フ場合ニハ行政關係ハ凡テノ官治ニシテ自治ノ關係存スヘキ餘地ナシ唯國家カ其事務ノ一部ヲ割キ之ヲ團體ニ委任スルニ依リ團體自體ノ事務ヲ生スルナリ事實上人民ノ集合體カ其團體員共同ノ事務ヲ處理スト雖モ法令ニ依リ國家ノ事務ノ一部トシテ認メラルルニアラサレハ行政法上ノ自治ト見ルヲ得ス單ニ一ノ事實トシテ見ルヘキナリ

又自治ハ法令ノ範圍内ニ存スヘキモノニシテ團體ノ存立目的タル事務ニ付キ絕對ニ自由處理ヲ認容セラルルモノニアラス而シテ自治ノ範圍ノ廣狹ハ國家カ其機關トシテ團體ヲ認ムルニ當リ適當ノ範圍ニ於テ認ムルモノナルカ故ニ必スシモ一様ナルモノニアラス之ヲ我地方團體ニ例證セハ市町村ハ最も自治ノ範圍廣ク府縣郡ハ比較的狹隘ナルカ如シ

第四節 公共團體ノ事務

公共團體ハ一定範圍ノ事務ヲ以テ其存立目的トナシ其事務ヲ行フヘキ公法上ノ義務ヲ負擔スル

コトハ既ニ之ヲ述ヘタリ是ニ於テ公共團體ノ事務ノ範圍ハ如何ニシテ決定セラルヘキカ及公共團體ノ事務ハ國家ニ對シ凡テ一同ノ關係ノ下ニアリヤ否ヤノ二點ヲ説明セサルヘカラス

第一 國家ノ事務ノ先天的ノ限界ナキカ如ク公共團體ノ事務ニモ亦先天的ノ限界ナシ唯法令ノ

範圍内ニ於テ其事務ヲ有スルノミ然レトモ本來公共團體ハ或範圍ノ人民ノ集合體ノ爲メニ適切ナル行政ヲ行ヒ官治行政ノ形式ニ流ルルノ弊ヲ防クノ精神ニ出ツルカ故ニ立法ノ精神上自ラ事務ノ範圍ニ限界ヲ生スルハ勿論ナリ例ヘハ外交軍事ノ如キ國家自體ノ存立上必要已ムヘカラサル事務其他全國書ニ出ツヘキ事務ハ之ヲ公共團體ニ委スルコトヲ得ヘカラサレハナリ然レトモ司法事務ノ如キ現今何レノ國モ之ヲ官治事務ノ範圍ニ屬セシメシニ拘ハラス往時ニアリテハ公共團體ノ事務ト爲セシ國ナキニアラス蓋シ時勢ノ推移ト共ニ官治事務ト自治事務トノ間ニ範圍ノ伸縮アルハ當然ナリ

第二 要スルニ公共團體ノ事務ノ範圍ハ法規ニ依リテ定マル而シテ國家ト公共團體トノ關係上

當事者ヲ區別シテ觀察スルコトヲ得先ツ固有事務ト委任事務トニ付キ述フヘシ

(イ) 學者公共團體ノ事務ヲ區別シテ固有事務及委任事務トナス此區別ノ標準ハ如何シテ之ヲ定ムヘキヤ或論者曰ク固有事務ハ國家ノ委任ヲ俟タス公共團體カ先天的ノ有スル事務ニシテ委任事務ハ國家ヨリ委任セラレ始メテ生スル事務ナリト此說ハ個人ノ權利ニ關シ法律ニ依ラサル先天的權利アリトナス說ト其論理ヲ一ニスルモノニシテ公共團體特ニ地方團體

ハ法律ノ創設セシモノニアラス自然ノ結果トシテ生セシモノナリト云ヒ其甚ダシキハ國家以前ニ於テ存在セシモノナリト云フニアリ要スルニ公共團體ハ法律ニ依リ生セシモノニアラス自然ニ存立發達セシモノニシテ其沿革上必ス行ハサルヘカサル事務ヲ有ス斯ノ如キ事務ハ即チ固有事務ニ外ナラス然ルニ斯ノ如キ沿革上ノ根據ナク行政ノ便宜上國家カ公共團體ヲシテ行ハシムル事務アリ斯ノ如キ事務ハ即チ委任事務ナリト云フニアリ然レトモ此說ハ根本ニ於テ大ナル誤謬ニ陷レリ何トナレハ歐洲諸國ニ於テ古代既ニ一種ノ地方團體存在シ公共ノ事務ヲ處理セシハ事實ナリト雖モ斯ノ如キ團體ハ現今ノ公共團體タル市町村等ト異ナリ全ク一ノ國家ヲ成セシモノナリ而シテ假ニ之ヲ國家内ノ團體ナリト認メ得ヘシトナスモ法規ニ依リ國家ノ事務ヲ處理セシムル爲メ行政機關ノ一トシテ人格ヲ認メラレシモノニアラサルカ故ニ單ニ一ノ事實タルニ止マリ之ヲ公共團體ナリト云フヲ得ス況ヤ我國ニ於ケル地方團體ノ如キ殆ト全ク法規ノ設定ニ依リ始メテ存立シ沿革上根據ナキニ於テハ固ヨリ自然ニ存在セシモノト云フヲ得ス斯ノ如ク公共團體ハ法律ニ依リ始メテ生スルモノトナス以上其事務ノ凡テカ國家ノ委任ニ依ルヤ言フ俟サルナリ故ニ前述セシ說ニ依リ固有事務ト委任事務トノ區別ヲ説明スルヲ得ス

或ハ固有事務ハ公共團體自體ニ委任セラレシ事務ニシテ委任事務ハ特ニ團體ノ機關ニ委任セラレシモノナリト稱スル者アリ勿論國家ノ事務ニシテ公共團體自體ニ委任セララルモノ

及團體ノ機關ニ委任セララルモノアリト雖モ團體ノ機關ニ委任セシ場合ニ於テハ其機關ハ直接ニ國家ノ機關トシテ行動スルモノナルカ故ニ官廳ト同一ノ地位ニ立ツモノニシテ其事務ヲ以テ團體自體ノ事務トナスヲ得タルノ結果公共團體ノ事務ノ區別ト認ムルヲ得ス

其他國家カ自治制ヲ設クル精神ハ國家ノ全般ニ關スル外交、軍務、財務等ノ事務ヲ除キ内政ヲ適實ニ行ハントスルニアルヲ以テ自治體ノ内政及之ヲ行フニ必要ナル機關ノ組織、事務處理ノ方法及團體ノ財政ニ關スル事務其他地方的必要アル事務ハ其固有事務ニシテ其以外ニ於テ特ニ國家カ便宜上團體ニ委任スル所ノ事務ハ即チ委任事務ナリト云フ者アリ此論旨ハ大體ニ於テ固有事務ト委任事務トノ區別スルノ標準ヲ示セリト雖モ地方的必要アル事務ノ範圍如何ハ頗ハ漠然タル嫌ナキヲ得ス予ハ固有事務及委任事務ノ區別ノ標準ニ付キ次ノ説明ヲ穩當ナリト信ス

團體ノ事務中國國家カ行政機關ノ一トシテ人格ヲ認ムルニ當リ當然付與スルモノアリ又成立後特別ニ付與スルモノアリ前者ハ即チ固有事務ニシテ後者ハ即チ委任事務ナリ例ヘハ府縣制第二條ニ於テ法律命令ノ範圍内ニ於テ其公共事務云云ト云ヘル其公共事務ハ即チ府縣ノ固有事務ニシテ並ニ從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ト云ヘルハ即チ府縣ノ委任事務ヲ指示セルモノト云フヘシ

(ロ) 公共團體ノ事務ノ第二分類タル必要事務及隨意事務ニ付キ説明スヘシ

公共團體ハ國家ノ事務ヲ其存立目的トシテ處理スル公法上ノ義務ヲ負擔スルモノナルカ故ニ苟モ公共團體ノ行フヘキ事務ハ凡テ行政上ノ必要事務ニシテ之ヲ行フト否トノ自由アルモノト云フヲ得ス若シ全然之ヲ行フト否トノ自由アル事務アリトセハ其事務ハ即チ公共團體ノ事務ニアラサルナリ故ニ必要事務ト隨意事務トノ區別ヲ事務ヲ行フノ義務アリヤ否ヤノ標準ニ求メントスルカ如キハ公共團體ノ根本觀念ヲ覆スモノト云ハサルヲ得ス是故ニ區別ノ標準ハ之ヲ他ニ求メサルヘカラス公共團體ノ事務ハ凡テ必要事務ニシテ之ヲ行フ義務アリト雖モ公共事務中之ヲ行フノ必要アリヤ否ヤカ法規ニ依リ決定セラレ裁量ノ餘地ナキモノアリ又必要アリヤ否ヤヲ決定スル裁量ノ餘地ヲ團體ニ認ムルモノアリ前者ハ即チ學者ノ所謂必要事務ニシテ若シ正確ニ云フトキハ依法必要事務ト云フヘク後者ハ學者ノ所謂隨意事務ニシテ正確ニ云フトキハ即チ裁量必要事務ト云ハサルヘカラス官廳ニ付テ之ヲ云フモ處分ヲ行フニ當リ當然法令ニ依リ處分ヲ行フヘク裁量ノ餘地ヲ存セサルモノアリ又如何ナル處分ヲ行フヘキヤヲ確然一定セシ官廳ノ自由裁量ニ委スルモノアリ人格ナキ機關ノ事務ニ付キ尙ホ然リ況ヤ人格アル公共團體ニ對シテハ一定範圍ノ事務ニ付キ其必要アリヤ否ヤヲ自由裁量ニ委スルニアラサレハ團體ノ人格ヲ認メ行政ノ適實ヲ期スル精神ヲ一貫シ難シ然レトモ團體ニ委スヘキ事務中必ス之ヲ行ハシムヘキ必要アルモノアリ斯ノ如キ事務モ尙ホ自由裁量ニ委スルニ於テハ公共團體トノ連續ヲ絶ツニ至ルヘシ是レ即チ依法必要事務

ト裁量必要事務トノ區別ヲ生スル所以ナリ

今之ヲ具體的ニ例示セハ威化法ニ依リ府縣ニ威化院設置ノ義務ヲ負ハシムルカ如キハ即チ府縣ノ依法必要事務ニシテ府縣ハ必ス之ヲ設置セサルヘカラス之ニ反シテ府縣制ノ公共事務ニ屬スル大半ハ裁量必要事務ニシテ果シテ公共事務トシテ必要アリヤ否ヤハ團體自ラ決定シ得ヘキモノトス故ニ注意スヘキハ固有事務ハ必スシモ裁量必要事務ナラス委任事務ハ必スシモ依法必要事務ナラサルコト是ナリ

第五章 地方團體

前ニ公共團體ニ共通ナル性質、種類、自治及其事務ヲ論明セシカ故ニ以下公共團體中最モ普通ニシテ最重要ナル地方團體ニ付キ説明シ次テ他ノ公共團體ノ說述ニ移ラントス地方團體ハ國家事務ノ一部處理ヲ以テ其存立目的トナシ其事務ヲ履行スヘキ公法上ノ義務ヲ負擔スル公法人ニシテ法規ニ依リ當然設立セラレ一定地域内ノ人民カ當然加入ノ義務ヲ負擔スルモノニシテ事務ノ範圍ニ付キ廣キ推定ヲ受テヘキ普通公共團體ナリ而シテ一定ノ地域ヲ主タル要素トナス點ニ於テ特別公共團體ト區別セラルルモノトス

地方團體ハ官治行政ノ缺陷ヲ補充シ地方ニ適切ナル行政ヲ行フカ爲メ設ケラルルモノニシテ實際ノ必要上各國概ネ二級若シハ三級ノ團體アリ英國ノ如キハ「バリッシュ」ミニニシタル、ギ

ロー」コルボレイト、ターウンス」ヲ最下級ノ地方團體トシ其上ニ「デストリクト」ナル中級團體アリ最上級ノ團體ヲ「カウンチー」ト云フ。

佛國ニテハ「デバーマン」「コンミュン」ノ二級アリ

我現行法ノ認ムル地方團體ノ主要ナルモノハ府縣、郡、市町村ニシテ即チ三級ニ分タル市ハ郡ト對立シテ府縣ノ下ニ立チ町村ハ合シテ郡ヲ成シ其下ニ在ル最下級ノ團體ナリ今地方團體ノ種類ニ依リ之ヲ分チテ説明スヘシ

第一節 市町村

第一款 市町村ノ基礎

一 地域

市町村ハ國家事務ノ一部處理ヲ以テ其存立目的トナシ其事務ヲ處理スル爲メ一定地域内ノ人民ニ對シ命令權ヲ行使スルコトヲ得其一定地域ハ一方ニ於テ其團體ノ命令權ノ行ハルヘキ範圍ナルト同時ニ他方ニ於テハ國ノ行政區劃ナリ而シテ市町村カ公法人ト認メラレシハ法規ノ結果ナリト雖モ固ヨリ慣行ニ根據スルモノナルカ故ニ從來ノ區域ヲ存シ之ヲ變更セサルヲ以テ原則トナシ其變更ヲ要スヘキ場合ニ關スル手續ハ慎重ヲ期シ嚴格ニ法律ニ於テ之ヲ定ム（市制、町村制三）即チ市町村ノ境界ヲ變更スル場合ニ付テハ變更ニ付キ利害關係ヲ有スル町

村會及地主ノ意見ヲ聽キ郡參事會又ハ府縣參事會之ヲ議決シ町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係ヲ有スル市町村會及、郡參事會ノ意見ヲ聽キ府縣參事會之ヲ議決セシ上内務大臣ノ許可ヲ受クヘキモノトセリ而シテ境界變更トハ市町村自體ノ存立ニ關係ナクシテ其地域ノ増減セラルル場合ヲ謂ヒ廢置分合トハ地域ノ増減ニシテ其存立ニ影響スル場合ヲ謂フ

二 住民

市町村ハ一定範圍内ニ於ケル人民ヲ以テ其構成要素トス住民ノ意義如何市町村内ニ住居ヲ占ムル者ヲ謂フトハ法律ノ解釋ヲ與フル所ナリ乍併住居ヲ占ムルトハ如何ナル意義ナリヤ明瞭ナラス民法中各人生活ノ本據ヲ以テ住居トナスノ規定アリト雖モ生活ノ本據ト否トヲ區別スヘキ標準ハ未タ明カナリト云フヲ得ス且直チニ民法ノ規定ヲ援用シ得サルモノアルカ故ニ要スルニ事實ノ認定ニ依リ之ヲ定ムルノ外ナシ

市町村住民ヲ分チテ市町村公民及公民以外ノ住民（普通住民）ノ二トス公民ハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

- 一 帝國臣民タルコト
- 二 公權ヲ有スル獨立ノ男子ナルコト
- 三 二個年以上市町村ノ住民タルコト
- 四 二個年以上市町村ノ負擔ヲ分任スルコト

五 二個年以上其市町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接賦税年額二圓以上ヲ納ムルコト
六 公費ヲ以テ救助ヲ受ケ二個年ヲ經過セサル者ニアラサルコト

即チ公民ハ住民中權利義務ノ分量多キ階級ノ人民ヲ指稱スルモノニシテ住民以外別ニ公民ナル一階級ノ存在スルニハアラサルナリ公權ヲ有スルトハ積極的ノ意義アルニアラス公權ヲ剝奪セラレシ如キモノニアラサルヲ謂ヒ獨立トハ滿二十五歳以上ニシテ一月ヲ構ヘ治産ノ禁ヲ受ケサルモノヲ謂フ

抑モ市町村公民ハ團體機關ノ組織ニ參與シ名譽職ヲ負擔スヘキ權義ヲ有スルモノナルカ故ニ團體ニ對シ利害關係ヲ有スルコト大ナルモノニシテ且財産上及智能上相當ノ資格ヲ有スルモノナルヲ必要トス以上ノ要件ハ皆此必要ニ基クモノナリ

外國ニ於テハ別ニ公民ノ資格ニ付キ法律上ノ要件ヲ定ムルコトナク一定ノ手續ヲ履行セシメ以テ公民トナスノ制度アリト雖モ斯ノ如キハ徒ラニ形式ニ流レ恆産アリ恆心アル住民ヲシテ團體機關ノ組織ニ參與セシムルノ精神ニ反スルカ故ニ採用セサリシハ其當ヲ得タリト云フヘキナリ

乍併一定ノ要件ヲ定ムル結果地方區區ノ實情ニ通セサルコトナキニアラス故ニ二個年ノ期間ニ付キ特ニ除外例ヲ設クルコトヲ許容セリ

尙ホ前記公民權取得ノ資格以外特別ノ原因ニ依リ公民トナリ得ル場合アリ(市制五三、五八、

町村制五六、六二)市町村ノ一般住民ハ市町村ノ營造物及財産ヲ共用スルノ權利ヲ有スルト同時ニ市町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ負フモノトシ公民タル住民ハ其以外選舉ニ參與シ名譽職ニ選舉セララルノ權義ヲ有スルモノトス是レ團體住民ノ權義ナリ
公民權ノ喪失停止ニ關シ市制、町村制ニ詳細ナル規定アレトモ今ハ煩ヲ避ケテ之ヲ略ス

第二款 市町村ノ機關

市町村ハ法人ナリ故ニ其意思ヲ決定シ及其意思ヲ外部ニ代表シ執行スル機關ナカルヘカラス
第一 議決機關

(イ) 町村ノ議決機關

町村ノ議決機關即チ意思機關ハ町村會ナリ

一 町村會ノ組織

町村會ハ選舉ニ依リ組織セララル町村團體ノ議會ニシテ町村會議員ノ員數ハ町村人口ノ多寡ニ應シ八人乃至三十人トシ公民權停止中ノ者其他陸海軍ノ現役ニ服スルモノヲ除クノ外町村公民ハ凡テ選舉權ヲ有ス

選舉ハ二級選舉ヲ以テ原則トス即チ選舉人中直接町村税ノ納額選舉人全員ノ納額ノ二分ノ一二相當スル者ヲ一級トシ其他ノ選舉人ヲ二級トシ每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス乍

併住民寡少ナル町村其他特別ノ事情アリテ選舉人ヲ二級ニ分チ難キ町村ニアリテハ特別ノ方法ニ依リ選舉ヲ行フコトヲ得而シテ其特別ハ町村條例ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス

町村公民ハ凡テ被選舉權ヲ有ス但町村附屬府縣郡ノ官吏有給ノ町村吏員檢察、警察官吏、神官、僧侶、小學校教員等ハ被選舉權ヲ有セス此等ハ其地位ヲ惡用シテ町村治ヲ紊亂シ不當ノ強制ヲ行ヒ或ハ宗教ト政治ヲ混亂シ教育界ニ政治上ノ紛爭ヲ誘致スル弊ヲ防止スルノ精神ニ基クモノナリ其他父子兄弟ノ縁故アル者ハ同時ニ町村會議員タリ得サルコト町村長若クハ助役ト父子兄弟ノ縁故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得サルコト等ノ制限アリ是レ亦町村議決機關ノ公正ヲ維持スルノ精神ニ外ナラス

又代言人ニアラスシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シ事ヲ辨スルコトヲ以テ業トナス者ハ被選舉權ヲ有セス是レ品位ニ基ク制限ナリ

前述セシ町村附屬府縣郡ノ官吏、檢察、警察官吏以外ノ官吏ハ町村會議員ノ被選舉權ヲ有スト雖モ本來官吏トシテ絕對服從義務ヲ負ヒ忠實ニ其本務ヲ盡スヘキモノナルカ故ニ其當選ニ應セントスル場合ニハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘキモノトス是レ官吏服務規律上ヨリ生スル制限ナリ町村會議員ノ選舉ニ關スル手續ハ町村制第十六條乃至第三十一條ニ規定セリ今其大體ヲ説明スレバ議員ノ任期ハ六年ニシテ三年毎ニ各級其二分ノ一ヲ改選

ス是レ即チ定期改選ナリ此他議員中缺員アル場合ニ於テハ補缺選舉ヲ行フ補缺選舉ハ定期改選ト同時ニ行フヲ以テ原則トスト雖モ缺員ノ數多キ場合及町村ノ議決機關又ハ執行機關若クハ直近上級監督官廳タル郡長ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ定期ニ關セス之ヲ行フコトヲ得

選舉權ノ有無ヲ公證スル爲メ町村長ハ選舉原簿及選舉人名簿ヲ調製セサルヘカラス而シテ選舉人名簿ノ正確ト選舉權ノ神聖ヲ保持スル爲メ一定ノ期間内關係者ノ縱覽ニ供シ異議アル者ニ對シ訴願ノ途ヲ開ケリスノ如クシテ名簿確定後選舉執行ノ公告ヲ爲ス選舉ノ順序ハ下級ヨリ初メ上級ニ及フヘキモノトセリ是レ一人ノ重複シテ當選スルヲ防クノ精神ニ外ナラス選舉會ノ開閉取締ノ事務ヲ行フ者ヲ選舉掛トス選舉人中ヨリ選任スヘキモノニシテ名譽職トス選舉ハ匿名投票ヲ以テ行フ投票ノ受理及效力ハ選舉掛決定ノ權限ヲ有シ無効投票ノ標準ハ第二十三條ニ於テ之ヲ定ム

選舉ハ代人ヲ許ササルヲ原則トス又町村ノ區域廣大ナルカ人口過多ナル場合ニ在テハ選舉本會ノ外別ニ選舉分會ヲ設クルコトヲ得分會ニ關スル選舉ノ手續取締等ハ凡テ本會ノ例ニ依ル當選決定ノ標準ハ第二十六條、當選ノ諸重複當選ニ關シテハ第二十八條ニ規定アリ選舉ノ效力ニ對シ異議アル場合ニ付テノ救済ハ第二十九條ニ之ヲ定ム即チ選舉人ニ於テ異議アルトキハ町村長ニ訴願スヘク郡長ニ於テ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ハ

ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フヲ得ルモノトス

町村會議員ノ選舉ニ關スル罰則ニ付テハ明治二十三年法律第三十九號ヲ參照スヘシ

二 町村會ノ職務權限

町村ハ府縣郡ト異ナリ中央政府トノ關係比較的密接ナラサルカ故ニ自治ノ範圍モ亦比較的廣濶ナリ從テ其意思機關タル町村會カ決定シ得ヘキ事項ノ範圍モ亦廣シ即チ町村會ハ町村制ニ準據シ町村ノ公共事務即チ固有事務及町村制發布以前委任セラレ及發布後委任セラレ若クハ委任セララルヘキ事件ヲ議決スルノ權限ヲ有ス發布前ノ委任ハ委任ノ形式ニ何等ノ制限ナシト雖モ發布後ノ委任ハ必ス法律又ハ勅令ニ依ラサルヘカラス故ニ省令、府縣令ヲ以テ町村會議決權限ノ範圍ヲ擴張スルコトヲ得ザルモノト解セザルヘカラス今町村會ノ議決スヘキ事件ノ概目ヲ摘録スレハ

- 一 町村條例及規則ノ設定、變更
- 二 町村費ヲ以テ支辨スヘキ事業(第六十九條ノ事務以外)
- 三 歳入出豫算、豫算外ノ支出、豫算超過ノ支出
- 四 決算報告ノ認定
- 五 使用料、手数料、町村稅及夫役現品ノ賦課徵收法(法律勅令ニ定ムルモノヲ除ク)

六 町村有不動產ノ處分及讓渡

七 基本財産ノ處分

八 豫算以外ノ義務負擔及權利ノ棄却

九 町村有財産及營造物ノ管理方法

十 町村吏員ノ身元保證金ノ徵否其金額ノ決定

十一 町村ニ關係スル訴訟和解

以上ハ町村會ノ議決スヘキ主要ノ事項トス其他尙ホ

一 町村吏員ノ選舉 例ヘハ町村會内部ノ處理機關タル議長、代理者、書記及執行機

關タル町村長及補助機關タル助役、收入役、附屬吏員、區長及其代理者、委員(五

三、六二乃至六三)ノ選舉ノ如シ

二 町村行政ノ執行監督 町村長及附屬吏員カ行フ執行ヲ監督シ其手段トシテ執行機

關ヲシテ報告ヲ提出セシメ又ハ町村會自ラ書類ノ檢査ヲ行フコトヲ得ルモノトス

三 監督官廳ニ對シ意見書ヲ提出シ又ハ其諮問ニ應答スルコト 町村會ハ町村ノ公益

ニ關スル事件ニ付キ其意見ヲ監督官廳ニ對シ開陳スルコトヲ得又監督官廳ヨリ主動

的ニ諮問スル場合ニアリテハ之ニ答申スヘキモノトス而シテ官廳ノ諮問事項モ亦自

四 訴願ノ裁決 町村住民及公民タル權利ノ有無、選舉人名簿ノ正否其他町村行政ニ關スル訴願ヲ裁決ス

以上ノ外機關内部ノ職權トシテハ町村制第三十九條以下第四十九條ニ規定セル議長ノ選任、會議ノ招集、處務規程ノ外尙ホ町村會ハ會議細則ヲ設クルコトヲ得ヘク其細則ニハ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

茲ニ町村會ノ説明ヲ終ルニ臨ミ町村會ノ性質ニ付キ一言セサルヘカラス前ニ説明セシ如ク町村會ハ町村團體ノ議決機關ニシテ町村ノ意思ヲ決定スルモノナリ故ニ外部ニ對シ町村ヲ代表シ執行ノ責ニ任スルモノニアラス然ルニ町村制第三十二條ニ於テ「町村會ハ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セララルル事件ヲ議決スルモノトス」ト規定シ市制町村制理由書ニ於テ市會町村會ハ市町村ノ代表者ナリ其權限ハ市町村ノ事務ニ止マリ云云ト説明セルハ大ナル誤謬ナリト云ハサルヘカラス是レ全ク團體ノ意思ト行爲トヲ區別シ意思ノ代表ヲ選舉權者ノ代表ニ附會シ以テ斯ノ如キ誤解ニ陷リシモノナルヘシ代表ハ外部ニ對スル關係ナリ機關相互ノ關係ニ於テ執行機關ニ對シ選舉民ノ意思ヲ代表スト云フカ如キハ誤レリ

(ロ) 市ノ議決機關

市會ノ組織及其職務權限ハ大體ニ於テ町村會ト同一ナルカ故ニ其詳説ヲ省キ唯其差異ア

ル點ヲ述フルニ止メントス

市會議員ノ員數ハ三十人以上六十人ヲ以テ定限トス人口ノ多寡ニ依リ其中亦小定限アリ(市制一二)市條例ニ依リ小定限ハ之ヲ破フルコトヲ得レトモ六十人ノ最大限ヲ超過スルヲ許サス又市會議員ノ選舉モ町村會議員ノ選舉ト同ク階級選舉ノ方法ニ依ルト雖モ町村ト異ナリ選舉人中直接市税ノ納額最モ多キ者ヲ合セ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ相當スヘキモノヲ一級トシ一般選舉人ノ外直接市税ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルヘキ者ヲ二級トシ其餘ノ選舉人ヲ三級トシ每級各別ニ議員三分ノ一ヲ選舉ス即チ組織ニ關シ市會ト町村會ト異ナル點ハ一ハ三級選舉ニ依リ他ハ二級選舉ニ依ル點ニアリ而シテ斯ノ如ク區別セシ所以ハ市ト町村ニ於テハ住民財産上ノ懸隔差等アルカ故ニ相當ニ階級ヲ増加スルノ必要アルカ故ナリ職務權限ニ至リテハ殆ト相同シ

第二 執行機關

(イ) 町村ノ執行機關

一 其組織

町村ノ執行機關ハ單獨制ニシテ町村長一名之ニ當ル町村長ハ町村會ニ於テ之ヲ選舉ス其被選資格ハ町村公民ニシテ年齡滿三十歲以上、町村會議員ノ選舉權ヲ有スルモノナルコトヲ要ス而シテ町村會議員ノ被選舉權ナキ者即チ町村制第十五條ニ掲タル種類ノ官公

吏、僧侶等ハ亦町村長タルコトヲ得ス是レ町村會議員ニ付キ述ヘタルト同一ノ理由ニ基キ執行機關ノ公正ヲ保ツノ精神ニ出ツ町村長ヲ選舉セシトキハ府縣知事ノ認可ヲ受ケザルヘカラス蓋シ町村ノ執行機關ハ固ヨリ團體自體ノ執行機關ナリト雖モ官治行政ト自治行政トノ調和ヲ保チ町村團體ノ機關ヲ官治行政ノ機關トシテ利用スルノ必要アルカ故ニ執行機關ノ選任ニ付キ官廳ノ認可ヲ要スル所以ナリ若シ府縣知事ニ於テ認可ヲ與フヘカラスト認ムルトキハ參事會ノ意見ニ服從スルノ必要ナシト雖モ必ス府縣參事會ノ意見ヲ徵スルヲ要ス面シテ知事不認可セシ場合ニ町村ノ執行機關又ハ議決機關ニ於テ不服ナルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得ルノ餘地ヲ存セリ是レ一方ニ於テ官廳カ自治ノ範圍ニ干渉スルノ適當ナルヲ防止セントスルノ趣旨ニ出ヅルモノトス

町村ノ執行機關タル町村長ノ主要ナル補助機關ハ町村助役ナリ助役ハ一名ヲ以テ原則トスト雖モ町村條例ヲ以テ此定員ヲ增加スルコトヲ得助役ノ選舉、其被選資格、認可等ハ凡テ町村長ニ付キ説明セシト同一ナルカ故ニ敢テ説明セス

二 其職權

町村長ハ町村團體ノ執行機關トシテ町村行政全般ニ關シ施設ノ責任任ス町村行政ノ範圍ハ廣汎ナルカ故ニ唯町村長カ執行機關トシテ有スル主要ナル權限ニ付キ略述スヘシ

(一) 町村會ノ議事ヲ準備スルコト 議案ヲ發シ其他町村會ノ會議ニ付キ必要ナル準備

行為ヲ爲ス權限ヲ謂フ

(二) 町村會ノ議決ヲ執行スルコト 但町村長ハ町村會ノ議決ニ對シ全然何等ノ故障ヲ申立ツルコトナクシテ之ヲ執行セサルヘカラサル義務ヲ負擔スルモノニアラス(一)

町村會ノ議決違法越權ナリト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ若クハ監督官廳ノ指揮ニ依リ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付スルコトヲ得而シテ再議ニ付スルモ議決機關ニシテ其議決ヲ變更セサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得ヘク其結果府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許セリ(二) 町村會ノ議決公益ヲ害スト認ムルトキハ執行ヲ停止シ再議ニ付スルコト及ヒ郡參事會ノ裁決ヲ請フヘキコトハ違法越權ノ場合ニ付キ述ヘシト異ナルコトナシ唯事公益問題ニ關スルカ故ニ不服アル者ヲシテ行政裁判所ニ出訴スルヲ許ササルノミ而シテ何レノ場合ヲ問ハス再議ニ付スルニハ必ス其理由ヲ開示スルヲ要ス

(三) 町村ノ財産及其設置ニ係ル營造物ノ管理若シ營造物ニ付キ別ニ管理者アルトキハ其事務監督ノ任ニ當ルコト 歲入ノ管理モ亦此中ニ包含ス

(四) 會計出納ノ監視及收入支出ノ命令 收入役ニ對シ豫算其他町村會ノ議決ニ準據シ收支命令ヲ發シ其收支命令ニ依ル收入役ノ出納ノ正確ナリヤ否ヤヲ監査スルノ權限ヲ有ス

(五) 町村ノ權利保護 町村長ハ町村團體ニ屬スル權利保全ノ責ニ任セサルヘカラス町村ノ諸證書、公文書類ノ保管モ亦權利保護ノ爲メ必要ナルコト多シ而シテ權利ハ公法上ノ權利ナルト私法上ノ權利ナルトヲ問ハサルナリ

(六) 町村吏員及使丁ノ監督 町村長ハ其補助機關タル吏員以下ヲ監督シ職務ノ忠實公正ヲ保持スルノ責任アルト同時ニ懲戒處分ヲ行フコトヲ得懲戒ノ程度ハ譴責及過怠金五圓以上ニ上ルヲ得ス

(七) 訴訟和解ニ付キ町村ヲ代表スルコト

(八) 町村税、手数料其他公課ノ賦課徴收 法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ依リ町村税、使用料、手数料及夫役現品ヲ賦課徴收スルノ權限モ亦町村長ニ屬ス

以上ハ町村長カ町村行政ニ付キ町村團體ノ執行機關トシテ有スル職權ナルカ其他尙ホ町村長ハ中央行政ノ機關トシテ及府縣、郡團體ノ行政事務ノ爲メ其執行機關トナルコトアリ斯ル場合ニ於テハ其委任ノ範圍内ニ於テ其職權ヲ有ス

(ロ) 市ノ執行機關

其組織

市ノ執行機關ハ町村ノ執行機關ト異ナリ合議制トス市參事會即チ是ナリ市參事會ハ市長、助役、名譽職參事會員ヲ以テ組織ス市長ハ一名、助役ハ府縣ニ依リ一名乃至三名、

名譽職參事會員ハ六名乃至十二名ヲ定員トスト雖モ助役及名譽職參事會員ノ員數ハ市條例ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得地方團體ハ地方ニ適切ナル行政ヲ行フ爲メ之ヲ認ムルモノナルカ故ニ其機關ハ合議制ニ依ルヲ以テ最も適當ナリトスト雖モ合議制ハ獨任制ニ比シ動モスレハ複雜ニ涉ルノ弊アルカ故ニ町村ニアリテハ簡易アル方法ニ依ルヲ可トスルノミナラス町村ハ市ニ比較シ機關ヲ組織セシムヘキ適任者ヲ得ルコト困難ナルカ故ニ獨任制ヲ採リ市ノ合議制ニ依リシ所以ナリ

市長ノ選任ハ內務大臣ノ命ニ依リ市會ニ於テ其候補者三名ヲ推薦シ裁可ヲ經ヘキモノトス又助役、名譽職參事會員ハ市會ニ於テ之ヲ選舉シ府縣知事ノ認可ヲ受クルヲ要ス市長、助役其ニ有給ニシテ其任期モ亦六年トス而シテ市長、助役ハ市民ニアラスト雖モ被選舉資格ヲ有シ就任スルトキハ同時ニ市民タルノ權利ヲ取得ス名譽職參事會員ノ任期ハ四年ニシテ市民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ノ中ニ付キ市會ニ於テ之ヲ選舉ス市執行機關ノ選任ニ付キ官治機關ノ干與ヲ要件トセルハ市參事會ハ法律命令其他監督官廳ノ命令ニ依リ國ノ事務及上級團體ノ事務ニ付キ其執行ノ責ニ任シ公益上重要ナル關係アルカ故ナリ

二 其職權

市ヲ代表シ市會ノ議決ヲ執行シ市全般ノ行政事務ヲ擔任スルハ其權限ニシテ其主要ナル

モノハ先ニ町村長ノ職權トシテ説明セント大略相同シ

市長ハ市參事會ヲ召集シ其議長トナリ市參事會ノ議事ヲ準備シ其議決ヲ確實ニ執行シ市參事會ノ名ヲ以テ外部ト交渉スルノ職權ヲ有スル外急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會ヲ召集スルノ暇ナキトキ市參事會ノ事務ヲ專決處分スルコトヲ得但此場合ニ於テハ必ス次期ノ市參事會ニ其處分ヲ報告スルヲ要ス又市參事會ノ議決ニシテ違法、越權又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ自己ノ意見ニ因リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ議決ノ執行ヲ停止シ府縣參事會ノ裁決ヲ請フコトヲ得若シ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル關係者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但違法越權ヲ理由トシ執行ヲ停止セシ場合ニ限ル

要スルニ市長ハ町村長ト異ナリ市ノ執行機關自體ニアラスシテ市ノ執行機關ヲ構成スル一分子ニ過キス例外ノ場合ヲ除ク外單ニ市參事會ノ執行ヲ現實ニ行フノ職權ヲ有スルニ止マルモノトス唯國又ハ府縣ノ行政事務ヲ擔任スル場合ニ於テハ其地位略ホ町村長ト異ナルコトナシ

第三款 市町村ノ財務

市町村ハ公共團體トシテ一定地域内ニ於テ其固有事務及委任事務ヲ處理セサルヘカラス從テ其處理ニ必要ナル收入ヲ必要トス先ツ其收入ヲ説明シ次テ支出ニ及ハン

第一 市町村ノ財産及收入

市町村ハ其所有ノ不動産及積立金穀等ヲ以テ基本財産トシ之ヲ維持スルノ義務ヲ負擔ス基本財産トハ其財産ヨリ生スル收入ハ之ヲ經費ニ支出スルコトヲ得ト雖モ其本體ノ費消ヲ許ササル財産ヲ謂ヒ市町村ノ基礎ヲ確實ナラシムルノ目的ヲ以テ維持セシムル財産ナリ

凡テ市町村有財産ハ市町村公共事務ノ爲メ存スルモノナルカ故ニ全市町村ノ爲メニ之ヲ管理シ共用スルヲ以テ原則トス乍併從來ノ慣行ニ依リ市町村住民中特定ノ人民ニシテ市町村有財産ヲ使用スル權利ヲ有スル者及民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ特ニ其權利者ノミニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス

市町村ニハ上述セシ財産ヨリ生スル收入ノ外使用料、手数料、科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ市町村ニ屬スル收入アリテ此等ノ收入ヲ以テ其支出ニ充テ尙ホ不足アル場合ニ於テ町村稅及夫役、現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得ヘキモノトス故ニ財産ヨリ生スル收入、使用料、手数料ハ市町村ノ原則的收入ニシテ市町村稅、夫役、現品ハ市町村ノ例外的收入ナリ今各個ニ付キ之ヲ略說セン

一 使用料 市町村條例ノ規定ニ依準シ特ニ市町村有財産ヲ使用スル權利者及其用財産ニ付キ利益ヲ受クル者ヨリ徵收スル收入ナリ

二 手数料 國ノ事務ニ關スル手数料ト其性質ヲ同ウシ市町村カ一個人又ハ數個人ノ爲メ特

ニ爲シタル事務ニ關シ利益ヲ受ケタル當事者ヨリ納付セシムル收入ナリ

三 科料 使用料、手数料其他市町村公課ノ納入ヲ強制スル爲メ意納者ヨリ徴收スルモノナリ

四 過怠金 市町村長、助役、委員其他市町村吏員ノ職務上ノ義務違背ニ對スル懲戒トシテ收入スルモノナリ

五 市町村税 市町村税トシテ賦課シ得ヘキ税目ハ國稅府縣稅ノ附加稅及直接又ハ間接ノ特別稅ニシテ附加稅ハ直接國稅即チ地租、所得稅、營業稅又ハ直接府縣稅即チ地稅割、戶數割、家屋稅、營業稅、雜種稅等ニ附加スルモノニシテ均一ノ稅率ヲ以テ市町村ノ全部ヨリ徴收スルヲ以テ原則トス但郡府縣參事會ノ許可ヲ受タルトキハ均一ノ稅率ニ依ラスシテ賦課スルコトヲ得特別稅ハ國稅、府縣稅ヲ本體トシ之ヲ附加シ徴收スルニアラスシテ特ニ稅目ヲ起シ課稅スルモノニシテ附加稅ヲ以テ支辨ニ得サル場合ニ賦課スヘキ課稅ナリトス

市町村稅ヲ負擔スヘキ者ハ其住民ナルコト勿論ナルカ住居ヲ構フルニ至ラスト雖モ三個月以上市町村內ニ滞在スル者ハ納稅義務ヲ負フ又住居ヲ構ヘス且三個月以上滞在セサルモ市町村內ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者ハ其財產、營業ニ對シ賦課スル租稅ヲ負擔セサルヘカラス

六 夫役現品 近世ノ經濟狀態ヨリシテ人民ニ賦課スヘキ公課ハ金錢ヲ以テ之ヲ徴收スルヲ

原則トス乍併單純ナル町村又ハ急迫ノ場合等ニアリテハ勞役ヲ命シ現品ヲ徴收スルヲ以テ最モ適切ナル方法トナス是レ市町村ニ對シ公共事業ヲ興シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スル爲メ納稅者ニ夫役現品ノ賦課ヲ認ムル所以ナリ乍併學藝、美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルハ公平ナル負擔ヲ爲サシムルノ精神ニ反スルカ故ニ之ヲ除外シ且急迫已ムヲ得サル場合ニアラサレハ直接町村稅ニ比例シ金錢ニ算出シ賦課スヘキモノトセリ

七 公債 市制町村制ハ市町村ニ起債ノ權限ヲ認ム蓋シ財政上其必要アルヲ認ムルニ出ツ乍併起債ニ對シ嚴格ナル制限ヲ付スルニアラサレハ濫債ノ弊ヲ生シ却テ財政ヲ紊亂スルノ虞アルカ故ニ市町村ノ爲メ永遠ノ利益トナルヘキ支出、天災時變等ノ爲メ已ムヲ得サル支出又ハ舊債元額ヲ償還スル爲メ必要ナル支出ニシテ經常歲入ノ増加ヲ他ノ收入ニ求ムルノ住民ニ對シ苛重ニ失スル場合ニ限り起債シ得ルモノトセリ而シテ三年以内ニ於テ償還ノ初期ヲ定メ三十年以内ニ償還ヲ了スヘキモノトセリ

八 一時借入金 廣義ニ解スルトキハ一時借入金モ亦公債ナリ乍併一時借入金ハ年度内ニ於テ貸借關係ノ終了スヘキモノニシテ數年度ニ渉ルモノニアラサルカ故ニ公債ト異ナリ其取締モ亦甚タ嚴ナラス

第二 市町村ノ支出

市町村ハ其必要ナル支出及従前法律命令ニ依リテ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依リテ賦課

セラルル支出ヲ負擔スルノ義務アリトハ市制、町村制第八十八條ノ明定スル所ニシテ要スルニ市町村ハ其固有事務及委任事務ヲ處理スル爲メ費用ヲ支出セサルヘカラス而シテ先ニ市町村事務ニ付キ團體自ラ其必要ノ有無ヲ決定シ得ルモノナリヤ否ヤニ依リ必要事務ト隨意事務トニ區別シタリ此事務ノ區別ハ又經費ノ支出ニ付キ義務の支出ト任意の支出トノ別ヲ生ス所謂必要事務ハ團體ノ意思ヲ問ハス其必要決定セラレ居ルモノナルカ故ニ市町村ハ義務の支出ヲ爲スヘキモノニシテ若シ其費用ヲ豫算ニ掲ケス支出セザルトキハ監督官廳ハ其支出額ヲ豫算表ニ追加シ又ハ臨時支出セシムルコトヲ得是レ所謂強制豫算、強制支出ナリ之ニ反シ所謂隨意事務ハ之ヲ行フト否トノ自由ヲ團體ニ一任セルモノナルカ故ニ其支出モ亦任意ナリ乍併隨意事務ニ付キ不當ノ支出ヲ爲スコトアラハ延テ團體ノ財政ヲ擾亂スルノ虞アルカ故ニ法律勅令ニ依リテ負擔スル義務ニアラスシテ五ヶ年以上ニ涉リ新ニ市町村住民ニ負擔ヲ課スル市町村會ノ議決ハ必ス府縣、郡參事會ノ許可ヲ經サルヘカラサルモノトセリ

第三 市町村ノ會計

市町村ノ會計モ其形式順序略ホ國家ノ會計ニ同シク先ツ歲入出豫算ノ調製ニ始マリ現實ノ收入支出ヲ爲シ收支決算ニ終ル令其概要ヲ述フヘシ

市參事會町村長ハ會計年度二ヶ月前ニ於テ一年度ノ收支豫算ヲ調製シ市町村會ノ議決ニ付シ監督官廳ニ報告セサルヘカラス豫算ニ掲記セサル費用又ハ豫算見積金額ニ超過セシ費用ハ市

町村會ノ認定ヲ經ルニアラサレハ之ヲ支出スルヲ許サス但市町村會ノ認定ニ依リ豫備費ヲ設ケアル場合ニ於テ市町村會ノ否定セサル費途ニ充ツル場合ハ此限ニ在ラス而シテ現實ノ收入支出ハ市町村長以外別ニ收入役ヲ以テ之ヲ行ハシム蓋シ參事會、町村長ハ市町村ノ收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スルノ職務ヲ有スルカ故ニ收支命令者以外別ニ收入役ヲ設クルニアラサレハ市町村財務ノ公正ヲ期シ難キカ故ナリ而シテ收入役ハ市參事會、町村長又ハ監督官廳ノ命令アルニアラサレハ支出スルコトヲ得タルハ勿論其命令アルモ尙ホ其命令ノ豫算上及法令上正當ナリヤ否ヤヲ審査スルノ義務ヲ負擔ス

收入役ハ豫算ニ依リ現實收支ノ結果ヲ明カニスル爲メ會計年度終了後三ヶ月内ニ決算ヲ終ヘ市參事會、町村長ニ提出シ市參事會、町村長ハ之ヲ議決機關ノ認定ニ付シ然ル後之ヲ監督官廳ニ報告スルヲ以テ市町村會計ノ順序トナス

第四款 市町村ノ監督

市町村ハ官廳ト同シク國家行政ノ機關ナルカ故ニ行政ノ適法ニシテ公正ナルヲ期セントセハ之ヲ監督ノ必要アルハ當然ナリ要スルニ市町村ニ對スル監督ノ必要アル所以ハ官廳ニ對シ監督ノ必要アルト其精神ニ於テ毫モ異ナルコトナシ

第一 市町村ノ監督機關

市ニ對シテハ二次ノ監督機關アリ即チ府縣知事、内務大臣はナリ町村ニ對シテハ三次ノ監督機關アリ即チ郡長、府縣知事、内務大臣はナリ以上ヲ普通監督機關トス

此他郡府縣參事會カ市町村會ノ議決ニ對シ許否ノ權限ヲ有スル場合アルト同時ニ大藏大臣ハ起債等ニ付キ内務大臣ト共ニ許否ノ權限ヲ有ス故ニ郡、府縣參事會、大藏大臣ハ市町村ノ特別監督機關ナリトス

第二 監督ノ種類

先ニ官廳ノ監督ヲ論スルニ當リ官廳ニ對スル監督ヲ一、事前監督、事後監督ニ、直接監督、間接監督ニ、積極監督、消極監督ニ區別シ得ヘキコトヲ述ヘタリ市町村ノ監督手段ニ付テモ亦此區別ヲ爲スコトヲ得即チ市町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務ノ錯亂澁滞セサルヤヲ監視スル爲メ事務ノ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢閲スルカ如キハ事前監督ニシテ又積極的監督ナリ之ト異ナリ市町村會ノ議決ヲ違法、越權又ハ公益ヲ害スル場合ニ監督官廳カ其議決ヲ取消又ハ變更ヲ命スル場合ノ如キハ是レ事後監督ニシテ又同時ニ消極監督ナリト云フヘキナリ而シテ監督官廳カ上述セシ場合ノ如ク直接ニ事務ノ現況ヲ觀察シ出納ヲ檢査スル場合ノ如キハ直接監督ト云フヘク監督官廳ノ監督行為ニ對シ不服アル者カ訴願、訴訟ヲ提起スル場合ニ於テ行政裁判所其他ノ機關カ裁決ヲ爲スカ如キハ結局市町村行政ノ適法公正ヲ期スル手段ナルヲ以テ間接監督ト云フコトヲ得ヘシ

十一 忌避 忌避トハ訴訟當事者ヨリ判事書記ノ職務執行ノ禁止ヲ求ムルノ意思表示ナリ忌避ノ原因ハ判事ニ付キテハ前掲甲第一乃至第四ニ於ケル除外ノ原因及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ情況之ナリ又書記ニ付キテハ前掲乙ノ原因及ヒ偏頗ナル處分ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ情況之ナリ執達吏ニ付キテハ法律ニ忌避ノ原因及ヒ手續ヲ規定セス惟フニ執達吏ノ民事ニ關スル職務ハ送達及ヒ強制執行ニシテ送達ニ關シテハ偏頗ナル行為ヲナシ得ル場合甚タ稀ナルノミナラス元來執達吏ノ職務ト判事書記ノ職務トハ全然其性質ヲ異ニスルモノニシテ且強制執行ニ關シテハ忌避ヲ許ストキハ債務者ハ名ヲ忌避ニ藉リテ濫リニ執行行為ノ妨害ヲ爲スノ弊ヲ生スヘク又民訴法第五三二條ニ執達吏ノ損害賠償義務ノ規定アリテ此規定ハ執達吏ノ偏頗ナル行動ヲ警ムルニ足ルヘケレハ執達吏ニ付キテハ忌避ノ規定ヲ置クノ要ナシトノ法意ニ出ツルモノナルヘシ

忌避申請之ニ對スル裁判及ヒ忌避セラレタル職員ノ爲スヘキ手續ハ民訴法第三五條乃至第三九條第四一條ニ規定スル所ナレハ右法條ニ就キテ之ヲ知ルヘシ而シテ偏頗ノ原因ニ基ク忌避ハ訴訟當事者カ其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ忌避スヘキ職員ノ面前ニテ事件ニ關スル申立ヲ爲シ或ハ相手方ノ申立ニ對シテ陳述ヲ爲シタルトキハ之ヲ主張スルノ權利ヲ失フモノナリ(第三四條第二項)之ニ反シテ除外ノ原因ニ基ク忌避ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス之ヲ爲スコトヲ得忌避ノ申請ヲ採用スル決定ニ對シテハ行使ヲ禁セラレタル職員ト雖モ不服ヲ申立

ツル能ハス申請ヲ却下シタル決定ハ申請者ヨリ即時抗告ヲ以テ攻擊スルコトヲ得

十二 忌避ノ原因ニ付キ職員ヨリ申出アリタル場合及ヒ他ノ事由ニ依リ除斥ノ疑アル場合此場合ニハ裁判所ハ當該職員ノ申出ニ對シテ或ハ疑アル點ヲ調査シテ裁判ヲ爲スモノトス當該職員ノ申出以外ノ事由(例ヘハ他ノ職員ヨリ注意アリタルトキ)ニ基キテ調査スル場合ニハ一種ノ職權調査、忌避ノ申請ト當該職員自身ノ申出ニ基キテ調査スル場合ハ即チ申立ニ基キテ裁判スルモノナリ忌避ノ申請ニ對スル裁判以外ノ裁判ヲ爲スニ當リテハ當事者ヲ審訊スルノ要ナク又其裁判ハ當事者ニ送達スルノ要ナキモノナリ(民訴法第四〇條)故ニ當該職員ノ申出若クハ前顯ノ疑ニ基キテ職員ノ能力ヲ調査スル場合ハ裁判所内部ノ關係ニ止マルモノトス從テ此裁判ニ對シテハ上訴ノ道ナキモノナリ

第三章 訴訟行爲ノ方式用語場所及ヒ時間

(二六) 訴訟行爲ノ方式 我訴訟法ハ次章ニ説明スル如ク口頭辯論主義ヲ訴訟行爲ノ原則トシテ採用セルカ故ニ訴訟行爲ノ方式モ亦口頭演述ヲ以テスルヲ原則トス然レトモ例外トシテハ訴訟行爲ノ方式トシテ必ス書面ヲ用ユルコトヲ要スル場合ト書面ト口頭演述トノ二者ヲ必要トスル場合ト單ニ書面ヲ用ユルコトヲ許ス場合トノ三者アリ

甲 訴訟當事者ノ行爲ノ方式 當事者ノ行爲中地方裁判所以上ニ於テハ訴ヲ提起スルニハ文書

ヲ以テスルコトヲ要ス訴狀、上訴狀ノ提出是ナリ區裁判所ニ於テハ訴ハ書面ヲ以テスルヲ要セス其他ニ於テ文書ヲ要スル場合ヲ例示セハ關席判決ニ對スル故障ノ申立(第二五六條)判決ヲ受クヘキ事項ノ申立(第二二二條)及ヒ第二二五條ニ規定スル陳述ノ如シ區裁判所ニ於テハ以上ノ陳述ニ付キ書面ヲ要セス而シテ第二二三條ノ陳述ハ書面ヲ以テスルノ外猶法廷ニ於テ口頭ノ演述ヲ爲スニ非サレハ效力ヲ生セス強制執行ニ關シテハ不動產ノ競賣申立ハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス債權差押ノ申請ノ如キハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

乙 裁判所其他ノ訴訟機關ノ行爲ノ方式(一) 呼出即チ當事者訴訟代理人、證人鑑定人ノ呼出ハ法律ニ一定ノ形式ヲ定メタル呼出狀ニ依リ之ヲ爲ス(第一六一條第二九二條等)(二) 口頭辯論ニ於ケル審理行爲ハ口頭ノ演述ヲ以テ之ヲ爲ス(三) 裁判ハ文書ニ表示スルヲ原則トス(第二三六條以下)(四) 送達行爲ニ付キテハ第一三六條以下ニ(五) 調書ニ付キテハ第一三〇條以下ニ(六) 執行行爲ニ付キテハ第五四〇條以下ニ各其方式ヲ規定ス

(二七) 用語 用語ハ口頭演述ニ於ケルト文書ニ於ケルトヲ問ハス日本語ナルコトヲ要ス(裁判法一一五條)然レトモ外國人カ當事者タル場合ニハ之ヲ審問スルニ當リ外國語ヲ用ユルコトヲ得證人鑑定人カ外國人ナルトキハ之ヲ審問スルニハ外國語ヲ以テセサルヘカス外國語ヲ用ヒタル場合ニ於テハ之ヲ翻譯シテ日本語ヲ以テ調書ヲ作成スルコトヲ要ス外國語ニ依リ審問スルトキハ通事ヲ用ユルコトヲ得

(二八) 場所 訴訟行為ハ司法行政上裁判所ノ公廷ト定メタル場所ニ於テ爲スヲ原則トシ正當ノ理由ナクシテ此場所以外ニ於テ爲シタル訴訟行為ハ瑕疵アルモノトス然レモ機證ノ如キハ性質上裁判所以外ニ於テ爲スヲ通例トス又證人鑑定人當事者本人ノ疾病ノ爲メ出頭スル能ハサルトキハ其所在ニ就キ之ヲ訊問スルハ即チ正當ノ理由アル場合ニシテ法律ニ規定スルモノ(第三一八條第三三二條)ナリ皇族ハ法律上其所在ニ就キテ訊問セサルヘカラス(第二九六條)證人鑑定人ヲ臨檢ノ場所ニ於テ訊問スルコトハ事件ノ審理上適當ナリトスルトキ(即チ正當ノ理由)之ヲ許ス(民法ニハ明文ナシ刑訴法第一一〇條ニハ此點ニ付キ明文アリ)

(二九) 時期 訴訟行為ニハ時期ニ制限ナクシテ之ヲ爲シ得ルモノト一定ノ時期ニ於テスルニ非サレハ爲スコトヲ得サルモノトアリ訴狀ノ提出ニ付テハ全然時期ニ制限ナシ其他ノ準備書面ハ訴訟ノ繫屬中ハ何時ニテモ之ヲ提出スルコトヲ得辯論行為ハ期日ニ於テスルニ非サレハ之ヲ爲ス能ハス上訴行為ノ如キハ一定ノ期間ニ於テスルニ非サレハ不適法トシテ却下セラルヘキモノナリ

期日トハ訴訟關係者(裁判所其機關當事者法定代理人訴訟代理人等)カ相會合シテ訴訟行為ヲ爲ス爲メ裁判所又ハ其機關ノ定ムル時間ヲ謂フ口頭辯論期日證據開示期日ノ如キハ其重要ナル者ナリ期日ハ日及ヒ時ヲ以テ定ムルモノナレトモ之ヲ開始スルニ當リテハ既ニ定メタル時ト寸毫ノ差異ナキコトヲ要セズ例ヘハ明治四十三年五月一日午前九時ヲ以テ期日ト定メタルモ同日

ノ午前十一時若タハ午後二時ニ之ヲ開始スルハ違法ニ非ス然レトモ指定ノ時前ニ開始スルニハ當事者ノ承諾ヲ要ス

期間トハ關係者カ訴訟行為ヲ單獨ニテ爲ス爲メニ定メタル時間ニシテ始期ト終期トノ定マレルモノヲ云フ例ヘハ答辯書提出期間上訴期間ノ如シ期間ニハ數種ノ別アリ其重要ナルモノヲ法定期間裁定期間ノ別及ヒ不變期間非不變期間ノ別トス法定期間トハ法律ノ定ムルモノヲ云ス例ヘハ第九〇條ニ規定スル保證ヲ立ツヘキ期間ノ如シ不變期間トハ合意ヲ以テ伸縮スル能ハサル期間ヲ謂ヒ合意ヲ以テ伸縮シ得ルモノヲ非不變期間ト謂フ上訴期間再審訴ノ期間ノ如シ

期日ト期間トノ差異ハ下ノ如シ(一)期間ニハ法定ノモノト裁定ノモノト兩種アリ期日ハ常ニ裁定ノモノナリ(裁定トハ裁判所若タハ其機關ノ定ムルコトヲ謂フ)(二)期間ニハ不變更ノモノアレトモ期日ニハ不變更ノモノナシ(三)期間ハ始期終期ヲ有ス期日ニハ始期アレトモ終期ナシ(四)期日ハ訴訟關係者カ合同シテ訴訟行為ヲ爲スヘキ時間ナリ期間ハ訴訟關係者カ單獨ニテ訴訟行為ヲ爲スヘキ時間ナリ(五)期日ハ開始前ニ存スルモノニシテ之ヲ開始スルニハ司法機關ノ特別ノ行動ヲ要ス例ヘハ事件ノ呼上又ハ訊問ノ如シ期間ハ進行前ニ存スルコトナク其發生ト同時ニ進行スルモノナリ(六)期日ノ開始ハ常ニ訴訟行為ニ伴フモノニシテ辯論ヲ延期スル場合ニ於テモ開始ノ行為ノ外延期決定ナル訴訟行為アルモノナリ期間ハ進行スルモ訴訟行為

ノ成立セサルコトアルカ故ニ期間ハ常ニ訴訟行為ヲ伴フモノト謂フヘカラス例ヘハ上訴ナクシテ上訴期間ノ經過シタルカ如シ(七)期日ノ懈怠ハ訴訟費用負擔ノ原因トナルコトアリ期間ノ懈怠ハ右ノ如キ結果ヲ生セス(八)期日ハ日及ヒ時ヲ以テ定ムルモノナリ期間ハ時又ハ日ヲ以テ定ムルモノナリ(九)期日ハ通知シタル後ニアラサレハ之ヲ開始スル能ハス期間ハ通知セサルモ進行スルモノアリ上訴期間ノ如シ

訴訟ノ繫屬中ト雖モ訴訟行為ノ時期ニ消極的制限アルモノアリ換言セハ一定ノ時間ニハ訴訟行為ヲ許ササルモノアリ例ヘハ日曜日、夜間、一般ノ祝祭日ニハ訴訟行為及ヒ執行行為ヲ爲スヲ許ササルカ如シ(第一五〇條第五三九條)訴訟法ハ夜間ニ期日ヲ開始スルヲ禁セスト雖モ司法行政上特別ノ事情アラサル以上ハ之ヲ許ササルモノトセリ

第四章 訴訟主義

三〇 訴訟主義トハ何ソヤ訴訟主義トハ訴訟ノ審理裁判ニ關シテ適用スヘキ原則ヲ謂フ

不告不理ハ訴訟上ノ大原則ニシテ民事訴訟ハ時代ノ新古ヲ問ハス國土ノ東西ヲ論セス此原則ノ支配スル所タリ糾問彈劾ノ兩制ハ刑事ニ於テハ古キ沿革ヲ有シ彈劾ニ初マリ糾問ニ變シ折中ノ制度(訴追ノ權ヲ一般人民ニ有セシメスシテ法定ノ機關ニ委スル制度)ニ進化シタルモノナレトモ民事訴訟ニ於テハ右ノ如キ沿革ナシ私權ノ保護ヲ裁判所ニ求ムルト犯罪ノ被害者カ犯人

ノ處罰ヲ裁判所ニ求ムルトハ現時ノ法理ニ於テハ劃然タル區別アルモノナレトモ古代ニ於テハ此兩思想ハ混同セラレタリ故ニ犯罪ノ被害者ノ訴ニ依リテ刑事ノ審判ヲ開始スルヲ以テ彈劾制ノ一形態ナリトセハ古來民事訴訟ハ彈劾制ヲ以テ實現シ且發達シタリト云フヲ得ヘク而シテ彈劾ハ糾問ト同シク之ヲ訴訟主義トシテ觀察スルハ誤謬ノ見解ニ非サレトモ從來民事訴訟法學者ハ民事訴訟ニ於テハ彈劾ナル觀察ヲ認メサルモノナリ彈劾トハ權利ノ保護ヲ求ムルノ義ニ非スシテ罪惡ノ處罰ヲ求ムルノ觀念ナレハ民事訴訟ニ於テハ想像スヘカラサルモノナレハナリ糾問トハ訴ヲ俟タスシテ罪ヲ治ムルヲ云フモノナレハ民事訴訟ニハ糾問ナルモノアルコトナシ國家機關カ訴ヲ俟タスシテ進ンテ私權ノ保護ヲ與フルカ如キコトハ古來各國其例ナキモノナレハ糾問ニ類似スル主義モ亦民事訴訟ニハ存スルコトナシ今左ニ民事訴訟ノ主要ナル主義ノ要點ヲ説述セン

三一 (一)本人訴訟主義代理訴訟主義 本人訴訟主義トハ訴訟能力ヲ有スル當事者ハ自ら訴訟行為ヲ爲シ得ルモノナリトスル原則ヲ云フ但此主義ハ訴訟代理人ヲ使用スルコトヲ禁スルモノニ非ス

代理訴訟主義トハ當事者自ら訴訟行為ヲ爲スヲ得ス法律ニ定メタル資格ヲ有スル者ヲシテ代理訴訟上ノ行為ヲ爲サシムル主義ヲ謂フ此主義ニ於テハ當事者本人ハ裁判所ノ訊問ヲ受クルコトアリト雖モ自ら攻撃防禦ノ方法ヲ施用スル能ハサルカ故ニ此主義ヲ強制代理主義ト稱ス

此兩主義ハ各有力ナル證據アリ本人訴訟主義ハ個人ノ自由ヲ尊重スルモノニシテ此點ニ於テ代理訴訟主義ニ優レルモノナリ權利主體カ其權利ノ保護ヲ求ムルニ必要ナル行為ヲ躬ラ爲スヲ得ヘキハ當然ニシテ之ヲ禁スルハ普通ノ事理ニ反シ個人ノ自由ヲ束縛スルモノト謂ハサルヘカラス之レ強制代理主義ノ缺點トスル處ナリ然レトモ強制代理主義ハ文化ノ程度ノ進ミタル社會ニアリテハ必要ナルモノナリ進步シタル社會ニ在リテハ社會的現象複雜ヲ極ムルニ從ヒ専門的智識ノ數ヲ増シ是等ノ智識ハ相聯係シツツ各一定ノ方向ニ進ムカ故ニ通常人ノ解スル能ハサルモノ多シ法律上ノ智識ハ單一ナルモノニアラスシテ數多ノ分科アリ且一科ニ通曉スルモノ其智識ヲ以テシテハ他科ノ内容ヲ窺知スル能ハサルモノナリ而シテ手續法ニ關スル智識ハ實體法ニ關スル智識ト全ク趣ヲ異ニスルヲ以テ實體法ニ通曉スルモノ手續ノ運用ヲ爲ス能ハサルモノナリ普通人ハ實體法ノ概念ヲ有スルヲ稀ナレハ手續法ニ通曉スル者ハ極メテ少ナシト云ハサルヘカラス故ニ通常人カ自ラ訴訟行為ヲ爲ストキハ訴訟手續ヲ知ラサルヨリシテ勝訴スヘキ事件ニ付キテモ販訴ノ不幸ヲ受タルハ自然ノ數ト云フヘシ殊ニ訴訟ニ於ケル實際ノ行動ニハ微妙ナル掛引ヲ要スルモノ多ク手續法ニ關スル机上ノ智識ノミニテハ頼ムニ足ラサルモノニシテ幾多ノ練摩ヲ經テ始メテ訴訟上權利ヲ伸張スルニ付キ遺憾ナキヲ得ヘキナリ之レ通常人ヲシテ自ラ訴訟ニ當ラシムルハ甚タ危險ナリトスル理由ナリ事件ヲ訴訟ノ専門家ニ委ネ以テ權利ノ伸張ヲ爲サシムルハ勝ツヘクシテ敗ルルノ危險ナキノミナラス無益ノ手數時間ヲ省キ事件ノ進行終結ヲ迅速

ナラシムルノ鴻益アリ之ヲ以テ多數ノ立法例ハ強制代理主義ヲ採用セリ然レトモ訴訟物ノ價額ノ輕微ナルニ拘ラス代理人ニ依リテ訴訟ヲ爲ササルヘカラスルモノトスルトキハ得失償ハサルノ結果ヲ生スルヲ以テ強制代理主義ヲ採レル立法例ニ於テモ此主義ハ合議裁判所ノ訴訟手續ニ於テ行ハルルモノニシテ區裁判所ノ訴訟手續ニ於テハ本人訴訟主義ヲ採レリ我訴訟法ハ絕對的ニ本人訴訟主義ヲ採用シタルヲ以テ如何ナル審級ニ於テモ訴訟當事者ハ代理人ニ依ラス訴訟行為ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ

三二 (二) 雙方審理主義 一方審理主義 雙方審理主義トハ訴訟當事者雙方ヲ審訊シテ裁判ヲ爲スノ主義ナリ一方審理主義トハ當事者一方ノ主張ニ基キ裁判ヲ爲スノ主義ヲ謂フ片言ヲ聽キテ訟ヲ斷セストハ古來ノ格言ニシテ訴訟ヲ審理スルニ當リテハ原被雙方ノ主張ヲ聽キ其證據ヲ審查スルニアラスハ事實ノ真相ヲ得ヘカラス公平ナル判斷ヲ下ス能ハサルモノナリ然レトモ訴訟ノ如何ナル種類ヲ問ハス又如何ナル場合ニ於テモ當事者雙方ヲ審問シタル後ニアラサレハ裁判ヲ下ス能ハストスルトキハ無益ノ費用ヲ増サシメ事件ノ延滞ヲ來クシ且當事者一方ノ爲ニ不公平ノ結果ヲ生シ又鷄ヲ割クニ牛刀ヲ用ユルノ愚ヲ演スルニ等シキ場合ノ生スルヲ以テ我訴訟法ハ歐洲諸國ノ訴訟法ニ同シテ原則トシテ雙方審理主義ヲ採用シ例外トシテ一方審理主義ヲ認メタリ例外ニ屬スルモノハ開席判決ノ手續及ヒ決定命令ヲ以テ裁判スル手續之ナリ開席判決手續トハ訴訟當事者ノ一方カ口頭辯論期日ニ欠席シタル場合ニ於テ出席シタル他ノ一方ノ主張ヲ

聽キ裁判ヲ爲スノ手續ナリ此場合ニハ證據調ヲ爲サス出席シタル當事者ノ出張スル事實ニ付キ
テハ相手方ノ自白シタルモノト看做シ裁判ヲ爲スモノナリ又訴訟手續ノ進行中決定命令ヲ爲ス
場合ニ於テハ一方ノ陳述ノミニ基キ裁判スルコトヲ得ルモノナリ又決定ニ依リテ實體上ノ裁判
ヲナス場合ニ於テモ簡易迅速ヲ要スルコトキハ一方審理主義ヲ採レリ例ヘハ支那命令(民法第
三八二條)破産決定(舊商法第九七八條)ノ如シ

三三(三)當事者同等主義當事者不同等主義 同等主義又ハ平等主義トハ訴訟手續上原告被告
ノ地位ニ優劣ノ差異ナク訴訟手續上ノ權利ノ同等ナルヲ謂フ

不同等主義又ハ不對等主義トハ訴訟手續上當事者ノ一方カ他ノ一方ノ有セサル權利ヲ有シ或ハ
又他ノ一方ノ負ハサル義務ヲ負フコト即チ其地位ニ高低アルヲ謂フ公平ナル裁判ヲ與ヘントセ
ハ當事者ノ地位ヲ同等ナラシムルコトヲ要ス刑事訴訟ハ刑事訴訟ノ性質上民事訴訟ト異ル所アル
ヲ以テ(即チ公益ノ保護ヲ)又私人カ原告ト爲ラス國家ノ代表者タル檢察官カ原告トナルヲ以テ不同
等主義ヲ採用セリ民事訴訟法ハ同等主義ヲ採用セリ而シテ例外ト見ルヘキ規定アリ同法第八八
條一項ノ規定ニシテ原告タル外國人及ヒ原告ノ從參加人タル外國人ハ被告ノ求ニ依リ訴訟費用
ノ保證ヲ立ツヘキコト之ナリ被告及ヒ其從參加人タル外國人ハ保證ノ義務ヲ負フ事ナシ然レト
モ同條第二項ハ保證ノ義務ナキ場合ヲ數多列舉シタルヲ以テ外國人ノ保證ヲ立ツルコトハ實際
ニ於テハ極メテ稀ナルモノトス雙方審理主義ハ訴訟當事者雙方カ何レモ辯論行ヲ爲シ得ル點

ニ於テ觀察セハ同等主義ノ適用ナリト云フヲ得ヘキモ雙方審理主義ハ裁判ノ精確ヲ得セシムル
コトヲ直接ノ目的トスル主義ナリ同等主義ハ當事者ノ權利義務ヲ主眼トシテ立ツル主義ニシテ
裁判ヲ下ササル場合ニ於テモ訴訟當事者ニ對スル取扱ハ同等ナルヘキモノナルヲ以テ同等主義
ト雙方審理主義トハ區別シテ説明スルヲ便利トス

三四(四)口頭審理主義書面審理主義 口頭審理主義又簡單ニ口頭主義ト稱シ訴訟主體カ口
頭ヲ以テ其行爲ヲ交通スルヲ云フ書面審理主義又簡單ニ書面主義ト稱シ訴訟主體カ文面ニ藉
リテ其行爲ヲ交通スルヲ謂フ當事者カ裁判所公庭ニ於テ口頭ヲ以テ辯論ヲ爲シ裁判官モ亦口頭
ヲ以テ審問スルコトハ口頭主義ノ骨髄ナリ口頭主義ハ一、當事者ノ意思ヲ明瞭ニ表示シ得ルノ
點ニ於テ二、事實ノ真相ヲ發見スルニ便利ナルノ點ニ於テ三、審理裁判ヲ迅速ニ爲スヲ得ルノ
點ニ於テ書面主義ニ優ルモノトレトモ當事者カ錯誤ノ陳述ヲ爲シ或ハ裁判所カ當事者ノ陳述ヲ
誤解シ此錯誤若クハ誤解ニ基キ裁判ヲ爲スコトアルハ此主義ノ缺點トスル所ナリ此缺點ヨリ生
スル弊害少カラシメンカ爲メ法律ハ重要ナル事項ノ陳述ヲ書面ニ基カシメ若クハ書面ヲ以テ
明確ナラシムルノ規定ヲ設ケタリ(第二二條第二三條)又重要ナラサル事項或ハ迅速ヲ要
スル事項ニ付キテハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判スルヲ得ヘキモノトセリ判決裁判所ハ口頭辯論ヲ
經テ裁判スヘキコト決定裁判所ハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判スヘキコトヲ原則トセリ

三五(五)法定序列主義辯論一貫主義 法定序列主義トハ法律ニ訴訟行爲ノ順序ヲ定メ此順序

ニ反スル訴訟行為ヲ許ササルノ主義ヲ謂フ辯論一貫主義トハ法定ノ順序ニ反シテ爲シタル訴訟行為ト雖モ法律上效力ヲ有セシムルノ主義ヲ謂フ書面審理主義ヲ採用セハ法定序列主義ヲ採用セサルヘカラス何者順序ニ關セシメシテ書面ノ提出ヲ許ストキハ往往其趣旨ヲ解スル能ハサル場合ヲ生シ且訴訟關係ヲ錯雜セシムヘケレハナリ口頭審理主義ト辯論一貫主義トヲ伴ハシムルハ便利ナルコト多シ然レトモ時機ニ後レテ攻撃防禦ノ方法ヲ提出シ訴訟ノ落着ヲ遲延セシムルコトアルヲ以テ此弊ニ備ヘン爲メ我訴訟法ハ時機ニ後レテ提出シタル攻撃防禦ノ方法及ヒ證據方法ヲ一定ノ條件ノ下ニ却下スルコトヲ得ルノ規定ヲ置キ以テ辯論一貫主義ヲ採用セリ(民訴法第二一〇條第二一四條參照)

三六(六)干涉主義不干渉主義 干涉主義ハ又職權進行主義ト稱シ訴訟ノ進行及ヒ終局ニ必要ナル行為(訴訟材料ノ蒐集ハ其重要ナルモノ)ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ爲シ當事者ノ意思如何ニ拘ハラサルノ主義ヲ謂フ不干渉主義ハ又當事者進行主義ト稱シ訴訟ノ進行及ヒ終局ハ一ニ當事者ノ意思ニ委ネ裁判所ノ干涉スルコトナク訴訟材料ハ當事者ノ提出ニ俟ツノ主義ヲ謂フ不干渉主義ハ又辯論主義ト稱ス裁判ノ内容、事實、證據方法ヲ當事者ノ辯論ノ結果ニノミ採ルヘキモノトスルヨリシテ此稱呼ヲ生セシナリ

民事訴訟ハ其性質上不干渉主義ヲ以テ支配スヘキモノナリ唯人事訴訟ノ如キ公益ニ重大ノ影響ヲ及ホス訴訟ニハ干涉主義ヲ適用スヘキモノトス我訴訟法ハ不干渉主義ヲ以テ原則トシ人事訴

訟ニ關シテ干涉主義ヲ採用セリ不干渉主義ノ適用ヲ示セハ一、訴訟ノ開始進行ハ當事者ノ要求ニ基キテ之ヲ爲スヘク訴ナクシテ裁判所ハ訴訟手續ヲ開始スル能ハス又縱令訴ノ提起アルモ當事者力審理ヲ休止セント欲シタルトキハ之ニ反シテ裁判所ハ進ンテ事件ヲ審判スル能ハス二、當事者ノ申立サル事項ハ裁判所ノ判斷ノ資料ニ供スル能ハス三、當事者ノ申立サル事物ヲ當事者ニ歸セシムル能ハス四、裁判所ハ當事者間ニ爭ナキ事實ニ反對ナル事實ヲ認定スル能ハス五、被告ノ認諾アル場合ニハ原告ノ請求ノ真ニ存在セサル場合ト雖モ認諾ニ基キ裁判ヲ爲ササルヘカラス(第一一〇條第一一一條第二三一條等參照)而シテ我訴訟法ハ此主義ニ對シテ數多ノ例外ヲ認メタリ下ノ如シ一、公益ニ關スル訴訟即チ婚姻、養子縁組、親子關係事件等ニ於テハ事實ノ真相ヲ無視シテ親族關係ヲ斷テ若クハ親族關係ヲ定ムルカ如キハ大ニ公益ニ害アルヲ以テ人事訴訟ニ於テハ當事者ノ申立サル事項ト雖モ職權ヲ以テ取調ヲナシ事實ノ真相ニ適スル裁判ヲナスヘキモノトス(人事訴訟手續法第一四條第二六條第三七條參照)二、裁判所ハ容易ニ證據原因ノ存在ヲ知り得ヘキトキハ當事者ノ申立ナキモ證據調ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ハ檢證鑑定ノ如シ(民訴法第一一七條)三、訴訟費用ノ負擔ヲ命スル裁判ハ當事者ノ申立ナキモ之ヲ爲スヘキモノナリ(第二三一條第二項)四、假執行ノ宣言ハ職權ヲ以テ爲ササルヘカラサル場合アリ第五〇一條ニ規定スル所ナリ

三七(七)處分權主義不處分主義 處分權主義トハ訴訟物ノ處分ヲ當事者ノ自由ニ委ヌルノ

主義ヲ謂フ不變更主義トハ訴訟物ニ付キ當事者ノ處分ヲ認メサルノ主義ヲ謂フ民事訴訟ハ私益ヲ目的トスルモノナルカ故ニ不變更主義ニ從ハシムルノ要ナク又訴訟物ニ付キ當事者ノ處分ヲ禁スヘキ理由ナシ處分權主義ト不干渉主義トハ密接ノ關係アリ後者ハ訴訟ノ進行ニ付キ當事者ニ自由ヲ有セシムルヲ謂ヒ前者ハ訴訟物自體ニ付キ當事者ノ自由處分ヲ許スヲ謂フ兩者ハ其基礎トスル所當事者ノ自由ニ在ルノ點ニ於テハ相同シキヲ以テ不干渉主義或ハ辯論主義ト處分權主義ト同一物トシテ説明スル學者アリ余輩ハ之ヲ區別スルヲ以テ説明上宜シキヲ得タルモノト信ス何者不干渉主義ハ裁判所ノ職權ニ於ケル制限ノ方面ヨリシテ立論スルモノニシテ處分權主義ハ當事者ノ訴訟物ニ對スル權能ノ方面ヨリシテ立論スルモノナレハナリ請求ノ放棄認諾和解ヲ爲スヲ得ルハ此主義ノ適用ナリ訴ノ取下ハ寧ロ不干渉主義ノ適用ナリト稱スヘキ歟

三八(八)直接審理主義間接審理主義 直接審理主義トハ裁判所ト訴訟材料トノ間ニ直接ノ關係ヲ有セシムルノ主義ヲ謂ヒ間接審理主義トハ裁判所カ或ルモノノ媒介ニ依リテ訴訟材料ヲ審理スルヲ得ルノ主義ヲ謂フ多クノ學者ハ直接審理主義トハ裁判所ト證據方法トノ間ニ直接ノ關係ヲ有セシムル原則ナリト説明シ他ノ學者ハ此原則ハ裁判所ト證據方法トノ關係ニ其適用ヲ限局スヘキモノニ非ス裁判所ト認識事實トノ關係ニモ適用スヘキモノナリト論セリ前説ハ狹キニ失スルノ缺點アリ後説ハ誤解ヲ生シ易キ瑕疵アリ訴訟ニ於テ認識スヘキ事實ノ重要ナルモノハ訴ノ原因タル事實ナリ此事實ハ證據方法以外ノ手續ニ依リテ裁判所ト認識スルコトヲ得ルモノ

ナリ例ヘハ自白ニ依リテ或事實ヲ認識スルカ如シ(民事訴訟法ニ依レハ自白ノ證據トセス)又當事者雙方ノ辯論ヲ綜合シテ或ル事實ヲ認識スルカ如シ前説ニ依レハ證據方法以外ノ手續ニ依リテ事實ヲ認識スル場合ニハ直接審理主義ノ適用ナシト云ハサルヘカラス然レトモ證據方法モノノ訴訟材料ナレハ之ヲ直接ニ審查シタル結果事實ヲ認識スルヲ直接審理ナリトセハ他ノ訴訟材料ヲ直接ニ審查シタル結果事實ヲ認識ヲ得ル場合モ亦同シク直接審理ナリト謂ハサルヘカラス之レ前説ハ狹キニ失スト謂フ所以ナリ又訴ノ原因タル事實ハ多クハ過去ノ事實ナリ訴訟ノ審理ヲ爲スニ當リ訴ノ原因タル事實ノ存否ヲ定ムルニハ訴訟材料ニ依ラサルヘカラス然ルニ後説ノ立言ニ依レハ裁判所ヲシテ事實ト直接ノ關係ヲ有セシムルヲ直接審理ナリトスルヲ以テ此説ハ媒介スルモノナクシテ裁判所カ過去ノ事實ヲ認知スル場合アルコトヲ豫想セルモノノ如ク解セラレル嫌アリ然レトモ所謂神通力ヲ有スル者ニアラスンハ能ク臆ルヘキモノナクシテ過去ノ事實ヲ洞察スルヲ得ンヤ故ニ余輩ハ直接審理主義トハ裁判所カ他ノ機關若クハ他ノ證據方法ノ介在ナクシテ證據方法其他ノ訴訟材料ニ接觸スルノ主義ナリト解スルモノナリ民事訴訟法ハ原則トシテ直接審理主義ヲ採用シ例外トシテ間接審理主義ヲ認メタリ所謂例外ヲ示セハ受命判事ノ取調ヘタル證人ノ調書ヲ證據トスル場合第二審裁判所カ第一審裁判所ノ爲シタル檢證ニ付キテノ調書ヲ證據トスル場合ノ如シ又民事訴訟法第二六六條以下ニ規定スル準備手續ノ如キハ間接審理ノ重要ナルモノナリ

三九 (九)自由心證主義法定證據主義 自由心證主義トハ證據ノ判斷ヲ裁判官ノ心證判斷ニ委
ネ法律ニ證據カ裁判官ヲ羈束スル效力アルコトヲ定メサル主義ヲ謂フ法定證據主義トハ法律カ
證據ノ效力ヲ特定シ其證據ノ表示スル所ニ反スル事實認定ヲ爲スコトヲ許ササル主義ノ利トスル
事訴訟法第二一七條ハ自由心證主義ヲ標榜セリ右兩主義ハ各得失アリ自由心證主義ノ利トスル
所ハ各事件ノ事情ニ從ヒ適切ナル事實認定ヲ爲スコトヲ得セシムルニアリ其弊トスル所ハ裁判
官ヲシテ專横ニ流ルルヲ抑ユル能ハサルニアリ詳言スレハ薄弱ナル證據ニ依リテ重大ナル事實
ヲ認定シ或ハ明確ナル證據ヲ捨テテ顯サルノ弊ヲ生スルコト之ナリ法定證據主義ニハ斯ノ如キ
弊害ヲ生スルコトナシト雖モ奸譎ノ徒ヨシテ豫メ證據ヲ作成シテ之ニ依リ裁判官ヲシテ眞實ニ
反スル事實認定ヲ爲ササルヲ得サラシムルノ弊ヲ生スルモノナリ自由心證主義ハ法官其人ヲ得
レハ危險少キカ故ニ事實ノ真相ヲ得ルヲ以テ主眼トスル訴訟審判ノ理想トシテハ尊重スヘキモ
ノナリ我訴訟法カ此主義ト不干渉主義及ヒ次ニ說明スル形式的事實確定主義ヲ併用セルハ理論
ノ根本ニ於テ矛盾アルモノニアラサル歟自由心證主義ハ事實ノ真相ニ達スルヲ以テ本領トスル
モノナリ然ルニ不干渉主義ハ當事者間ニ爭ナキ場合ニハ裁判所ノ進テ事實ノ真相ヲ究ムルコト
ヲ許サス形式的事實確定主義亦同シ惟フニ私益ノ保護ニ關シテハ常ニ事實ノ真相ニ達スルコト
ヲ要セサルモノナリ此目的ヲ達セントセハ却テ當事者ニ不利ヲ來タスコトアリ之レ民事訴訟ニ
於テ原則トシテ不干渉主義形式的事實確定主義ヲ立ツル所以ニシテ此兩主義ヲ標準トシテ自由

心證主義ヲ活動セシメントスルノ注意ナレハ以上三主義ノ併立ハ理論ノ矛盾ト云フヘカサル
ナリ自由心證主義ヲ無制限ニ擴張スヘキモノトセハ即チ此主義ヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ裁
判所ヲシテ事實ノ真相ヲ得セシメサルヘカラストスル主義ナリトセハ不干渉主義及ヒ形式的事
實確定主義ト矛盾スルモノナリト云フヲ得ヘキナリ此三主義ヲ調和スル規定ハ第一一二條第一
一七條第三六〇條ニ存スナリ

四〇 (十)實體的眞實發見主義形式的事實定立主義 實體的眞實發見主義トハ當事者ノ主張如
何ニ拘ハラズ訴訟ノ内容タル事實ノ眞正ヲ發見スルコトヲ目的トスル主義ヲ謂フ形式的事實定
立主義トハ當事者ノ主張ニ相應スル事實ヲ確定スル主義ヲ謂フ實體的事實發見主義ト干渉主義
ト又形式的事實定立主義ト不干渉主義トハ各表裏ノ關係ヲ有スルモノナリ即チ不干渉主義ノ裏
面ハ形式的事實定立主義ニシテ又實體的事實發見主義ノ表面ハ干渉主義ナリ形式的事實定立主
義ニ於テハ裁判所ハ提出セラレタル訴訟材料ニ包含スル事實ヲ判定スルノ職責アルノミ當事者
間ノ法律關係ノ眞ノ狀態如何ヲ顧慮スルノ要アルコトナシ實體的眞實發見主義ニ於テハ當事者
ノ提出スル訴訟材料ニ依リテ考數スヘキハ勿論ナルモ此材料以外ニ必要ナル材料ノ存スルトキ
ハ裁判所ハ之ヲ採酌シテ以テ事實ノ眞正ヲ確定セサルヘカラス民事訴訟法ハ形式的事實定立主
義ヲ採リ人事訴訟手續法及ヒ刑事訴訟法ハ實體的眞實發見主義ヲ採レリ

四一 (十一)單級審判主義複級審判主義 單級審判主義トハ事實及ヒ法律ニ關スル訴訟ノ審理

ヲ一審級ニ止メ事件ヲ覆審スル上級裁判所ヲ存セサルノ主義ヲ謂フ複級審判主義トハ上下數級ノ裁判所ヲ置キ同一事件ヲ下級裁判所ヨリ順次上級裁判所ニ繫屬セシメ審判セシムルノ主義ヲ謂フ權利ノ保護ヲ完カラシメントセハ複級審判主義ニ依ラサルヘカラス裁判官ハ神ニ非ス誤判妄斷ノ必無ヲ期スヘカラス況ンヤ裁判官ノ多數ヲ要スル現時ノ制度ノ下ニ於テ悉ク學識優秀經驗豐富ノ人ヲ以テ之ニ任セシコトハ不可能ナリト云ハサルヘカラスハ於テヤ故ニ文明諸國ハ孰レモ複級審判主義ヲ採用セリ我民事訴訟法ニ依レハ判決裁判所ハ三級審トシ第一級審及ヒ第二級審ヲ事實及ヒ法律ノ裁判所トシ第三級審ヲ法律裁判所トセリ又決定裁判所ハ二級審トシ第一級審及ヒ第二級審共ニ事實並ニ法律ノ裁判ヲナスモノタリ而シテ第二級審ニ於ケル裁判ノ結果獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキハ其上級審ニ抗告スルコトヲ許セリ之レ外形上三級審制度ノ如クナレトモ其實ニ二級審制度ニ外ナラサルナリ何者第二級審ノ裁判ノ結果生シタル獨立ノ抗告理由ノ原因タル裁判ハ第一審ニ於テハ成立セサルモノナレハナリ此點ニ付テハ抗告ノ部ニ於テ更ニ説明スヘシ

四二 (十二) 公開審理主義秘密審理主義 公開審理主義トハ訴訟當事者以外ノ者ヲシテ自由ニ訴訟ノ審理裁判ヲ傍聴セシムルヲ云フ秘密審理主義トハ訴訟當事者以外ノ者ニ對シテハ審理裁判ヲ秘密ニシ傍聴ヲ許ササルヲ謂フ學者公開審理ヲ公衆公開ト當事者公開トニ區別シ前者ハ一般公衆ニ審判ノ傍聴ヲ許スヲ謂ヒ後者ハ當事者カ審判ノ手續ニ立會ヒ得ルヲ謂フトセリ然レト

モ直接審理雙方審理口頭審理ノ諸主義ヲ採用スル以上ハ訴訟當事者ハ當然審判ニ立會フヘキモノナルカ故ニ以上三主義ノ併行セラルル訴訟制度ノ下ニ於テハ特ニ當事者公開主義ヲ立ツルノ要アルヲ見サルナリ之ヲ以テ余輩ハ公開審理主義(或ハ公開審判主義)ヲ公衆公開ノ義ニ解セリ公開主義ハ司法機關ノ行動ヲ公衆ノ監視ニ開セシムルモノニシテ司法機關ノ行為ノ公平ト注意ノ深密トヲ保障スルモノナリ秘密審理主義ハ公衆ノ監視ナキ爲メ司法機關ヲシテ專横ニ流レノ公平ノ處置ヲ爲スノ弊ヲ護シ易キモノナリ又公開主義ハ當事者及ヒ證人鑑定人等ヲシテ無耻ノ行動ヲ爲スヲ憚ラシムルノ利益アリ民事訴訟法ハ審判公開主義ヲ採用セリ(憲法第五九條民事訴訟法第一二九條第五號)而シテ此原則ハ事實審及ヒ法律審ニ通シテ適用アルモノナリ而シテ此主義ノ例外タルハ一、受訴裁判所ノ公廷以外ニ於テ訴訟行為ヲ爲ス場合二、書面審理ヲ爲ス場合三、裁判ノ評議(裁判法第一二一條例ヘハ檢證)四、裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムル場合(憲法第五九條但書裁判法第一〇五條)之ナリ裁判所ノ決議ヲ以テ審理公開ヲ禁スルヲ得ル(判決言渡ノ公開ヲ禁スル場合ナシ)ニハ訴訟ノ審理ヲ公開セハ安寧秩序風俗ヲ害スルノ虞アルコトヲ要スルナリ例ヘハ審理上軍機ノ秘密ヲ洩ラスノ危險アラハ之レ安寧ヲ害スルノ虞アル場合ナリ安寧トハ國家カ外國及ヒ内部ニ對スルノ關係ニ於テ其存立ヲ維持シ得ルヲ謂フ又例ヘハ事件ノ審理上裁判所ノ内外ヲ問ハス騷擾喧囂ヲ來スノ兆アラハ之レ秩序ヲ害スル虞アル場合ナリ秩序トハ平穩ナル生活ノ妨害セラレサルヲ謂フ又例ヘハ淫靡猥褻ノ醜狀ヲ曝露シ人ヲシテ羞

汚ノ念ニ堪ヘサラシムル結果ヲ生スルコトハ之レ風俗ヲ害スルモノナリ風俗トハ人民ヲシテ品行上ノ謹嚴清操ヲ保タシムルヲ謂フモノナレトモ主トシテ男女ノ情事ニ關スルモノナリ(新聞紙法第四一條參照)安寧ト秩序トハ其本質ヲ同シタスルモノナリトノ說ト此兩者ハ全ク相異ルモノナリトノ說トアリ獨逸裁判所構成法第一七三條ノ如キハ前說ヲ採用シタルモノナリ(公開カ秩序殊ニ安寧ヲ害スルコト或ハ風俗ヲ害スルコトヲ顧慮セシムルトキ Wenn sie (Öffentlichkeit) eine Gefährdung der öffentlichen Ordnung insbesondere der Staatsharheit, oder eine Gefährdung der Stilleheit besorgen lässt ヲアツ)

四三 (十三)裁判有償主義裁判無償主義 裁判有償主義トハ裁判機關及ヒ執行機關ノ行為ニ付キ一定ノ手数料其他ノ必要ナル費用ヲ徵收スルノ主義ヲ謂フ手数料トハ訴訟用紙之ナリ其他ノ必要ナル費用トハ例ヘハ證人鑑定人ニ支給スヘキ旅費日當等證據調ノ費用ノ如シ無償主義トハ裁判及ヒ強制執行ニ依リ私權ノ保護ヲ與フルニ付キ何等ノ費用ヲモ徵收セザルノ主義ヲ謂フ裁判有償ハ實際ノ必要ヨリ生スル制度ニシテ濫訴ノ弊ヲ防クニ有效ナルモノナリ又有償主義ハ國庫ノ爲メ一ノ財源ヲ供給スルモノナリ之ヲ以テ各國何レモ民事訴訟ニ付キ裁判有償主義ヲ採用シタルモノニシテ我國モ亦民事訴訟ニ付キテ有償主義ヲ採レリ所謂裁判有償ト訴訟費用ノ負擔義務トヲ混同スヘカラス裁判有償ハ權利保護ノ對價ヲ徵收スルヲ謂フモノナリ訴訟費用ノ負擔ハ相手方ヲシテ訴訟行為ヲ爲スノ必要ニ至ラシメタル敗訴者ニ義務ヲ負ハシムルヲ謂フナリ

ハ解釋の條理ニ依リ審判ヲ爲ス可ク而シテ民事訴訟ノ如ク放任主義ニ依ラス職權ヲ以テ必要ナル證據調ヲ爲シ以テ審判ヲ爲シ得ヘキコトハ今日判例ニ於テモ認ムル所ナリトス、刑事訴訟法第二二一條第二三六條及ヒ第二五八條ノ規定ニ因リ私訴ノ審理ハ公訴ノ辯論終結後ニ之ヲ爲ス可キモノニシテ公訴ノ本案ニ付キ有罪ノ判決ヲ爲スト無罪又ハ免訴ノ判決ヲ爲ストニ拘ラス私訴ノ本案ニ付キ判決ヲ爲ス可キモノトス(刑訴法五條、二二五條)故ニ私訴ノ附帶請求ニ付テハ犯罪事實ヲ原因ト爲ス可キモ犯罪ノ成立ハ私訴判決ノ條件ニ非ス從テ裁判所ハ職權ヲ以テ私訴ノ原因ヲ變更スルコトヲ得ヘシ、然レトモ公訴ノ本案ニ付キ裁判ヲ爲サシテ公訴ノ受理又ハ管轄違ヲ言渡シタルトキハ私訴ニ付テモ亦却下ノ裁判ヲ爲ス可キモノトス何トナレハ公訴ノ受理、管轄違言渡ノ判決ハ私訴附帶ノ條件タル公訴ニ付キ適法ナル提起ナク從テ私訴附帶ノ條件ヲ缺クモノト認ムル判決ナルヲ以テナリ

(第四) 私訴附帶ノ時期 刑事訴訟法第四條ノ規定ニ因レハ私訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ公訴ニ附帶シ請求シ得ヘキヲ以テ第二審ニ至リ始メテ私訴ヲ提起スルモ差支ナシ唯豫審中ニ私訴ヲ提起シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ從來議論アル所ナレトモ前示第四條力概括の規定ナルト檢察官告訴人ニ起訴ノ通知ヲ爲スト(刑訴法六五條)豫審ニ於テ民事原告人ニ宣誓ヲ爲サシメサルト(同法一二三條)豫審ノ有罪決定ヲ被害者ニ告知スル訴訟法ノ規定ナキトニヨリ按スレハ豫審ニ於テ私訴ヲ審理スル權限ハナキモ私訴ハ豫審中ト雖モ有效ニ提起シ得ヘキモノ

ト解釋スルヲ穩當ナリト信ス從テ豫審ニ於テ被告事件ヲ公判ニ付スルトキハ私訴狀ヲ公判ニ廻送ス可ク公判ハ其訴狀ニ基キ私訴ニ關スル手續ヲ爲ス可キモノトス

私訴ヲ民事裁判所ヨリ刑事裁判所ニ移シ又ハ刑事裁判所ヨリ民事裁判所ニ移スコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ刑事訴訟法中ニ規定ナキモ民事訴訟法第一九八條第一項ニ依リ私訴ノ本案ニ付キ被告ノ第一口頭辯論ノ始マルマデハ被告ノ承諾ナクシテ之ヲ取下ケ公訴ニ附帶セシムルコトヲ得ヘク又其口頭辯論ノ終結ニ至ルマデハ被告ノ承諾ヲ得テ之ヲ取下ケ公訴ニ附帶セシムルコトヲ得ヘク又公訴ニ附帶シタル私訴モ同様ニ取下ケ民事裁判所ニ提起シ得ヘキモノト解釋スルヲ相當ナリト思料ス反對説ニ於テ私訴ノ取下ヲ拋棄ト同一視スルカ如キハ固ヨリ理由ナシ(私訴權消滅ノ説明參照)

(第五) 私訴附帶ノ效果 私訴ヲ公訴ニ附帶シ請求スルトキハ(一)私訴ノ原因タル事實證明ノ簡便ナルコト(二)民事刑事ノ裁判ノ抵觸ヲ來ス憂ナキコト(三)訴訟手續ノ簡易迅速ナルコト等ノ間接ノ便益アルノミナラス尙法律上左ノ效果ヲ生ス

(一) 私訴ノ方式 ニ付テハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス口頭又ハ書面ヲ以テ爲スコトヲ得ヘク又民事訴訟用印紙ノ貼用ヲ要セス(刑施設六〇條參照)但シ私訴判決執行ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ニ從フヲ以テ執行力アル判決正本ヲ求ムル申立ニ付テハ相當印紙ヲ貼用スヘキモノトス(刑訴法三三條、民事訴訟用印紙法六條參照)

(二) 私訴ノ管轄(1)事物管轄ニ付テハ民事訴訟ニ依ルトキハ裁判所構成法第一四條第二六條ノ規定ニ從フ可キモ公訴ニ附帶スルトキハ訴訟物ノ價額ニ制限セラレズ公訴ノ繫屬スル裁判所ノ管轄ニ屬ス(刑訴法四條)(2)審級ニ關スル管轄即チ職務管轄ニ付テモ必シモ第一審裁判所ヲ經ルコトヲ要セス公訴カ第二審裁判所ニ繫屬スルトキハ直チニ第二審裁判所ニ提起スルコトヲ得(同法四條)但シ私訴ヲ直ニ第二審裁判所ニ提起シタルトキハ控訴ヲ爲スコトヲ得ス上

告ヲ爲スノ外ナシ又大審院ノ特別權限ニ屬スル事件ニ私訴ヲ附帶スルトキハ上訴スルコトヲ得サルコト勿論ナリトス(3)土地管轄ニ付テモ民事訴訟法ニ依レハ被告人ノ住所地又ハ不動産所在地等ノ裁判所ヲ管轄裁判所ト爲セトモ公訴ニ附帶請求スルトキハ被告人ノ所在地又ハ犯罪地等ヲ裁判籍トスル結果ヲ生ス(民訴法一〇條、二二條、刑訴法二六條等)

(三) 私訴ノ上訴及ヒ故障ノ期間 モ亦民事訴訟法ニ依ル可キ特別除外ノ規定ナキヲ以テ前ニ述ヘタル如ク刑事訴訟法ノ規定ニ依ル可キモノニシテ控訴ハ五日上告抗告故障ハ孰レモ三日ナリトス(刑訴法二五二條、二七一條、二九五條、二九九條、及民訴法四〇〇條、四三七條、四六六條、二五五條參照)

(四) 再審 ニ付テハ其理由及ヒ訴權者ニ付キ刑事訴訟法ニ制限アルヲ以テ私訴ハ獨立シテ再審ヲ求ムルコトヲ得サレトモ(刑訴法三〇一條三〇二條)公訴ニ付キ再審ノ理由アリト認ムルトキハ原判決ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲サシムルモノトス(同法三〇七條)從

テ民事訴訟法ノ取消ノ訴又ハ原狀回復ノ訴ヲ許サス(民事訴訟法四編參照)
(五) 假差押假處分 民事訴訟法第七三七條及ヒ第七五五條ニ依ル假差押及ヒ假處分ハ附帶私訴ニ付テハ之ヲ行フコトヲ得サル可シ故ニ公訴ニ關スル物件差押ノ結果ヲ利用スルノ外ナシ

第二節 私訴權ノ發生

公訴私訴共ニ犯罪行為ニ起因スルヲ以テ一般ニ私訴權ハ國家科刑權ノ發生ト同時ニ發生スルモノナリ然レトモ前ニ述ヘタル如ク公訴權ハ必シモ科刑權ト同時ニ發生スルモノニ非サルヲ以テ私訴權ノ發生ハ必スシモ公訴權ノ發生ト相伴フモノニ非ス例ヘハ刑法第二〇九條ノ過失傷害罪ニ付テ公訴權ハ告訴ヲ待テ發生スレトモ私訴權ハ告訴ノ有無ニ關セス發生スルヲ以テ公訴權發生前ト雖モ獨立シテ民事裁判所ニ損害賠償ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ、又私訴ヲ公訴ニ附帶シ刑事裁判所ニ向テ請求スルニハ前ニ説明シタル如ク公訴提起ヲ前提トスルヲ以テ所謂附帶私訴權ハ公訴提起後ニ發生スルモノトス而シテ公訴提起即チ公訴權ノ行使ハ必シモ公訴權ノ發生ト時期ヲ同ウスルモノニ非サルヲ以テ附帶私訴權モ亦必シモ公訴權ノ發生ト共ニ發生スルモノニ非サルナリ要スルニ一般ノ私訴權ハ本來民事ノ訴權ニシテ犯罪ニ因リ財產身體等ヲ毀損セラルト同時ニ發生スルモノニシテ必シモ刑事ノ訴權ナル公訴權ト共ニ發生スルモノニ非ナレトモ附帶私訴權即チ公訴ニ附帶シ私權ヲ主張スル刑事訴訟法上ノ權利ハ公訴權ノ行使ニ伴ヒ發生

スルモノト謂フ可シ(刑訴法二條四條)

第三節 私訴權ノ消滅

私訴權ハ又必スシモ公訴權ト共ニ消滅スルモノニ非ス公訴權存スルモ私訴權消滅スルコトアリ私訴權存スルモ公訴權消滅スルコトアリ唯時効ニ付テハ公訴權ト同時ニ消滅スルコトアルニ過キス私訴權消滅原因ハ刑事訴訟法第七條ノ規定ニ依リ左ノ數種トス

(第一) 拋棄又ハ和解

茲ニイフ拋棄トハ私訴ノ目的タル私權ヲ消滅セシムル權利者ノ單獨行為ニシテ相手方ハ之ニ因リ其義務ヲ免除セラルルモノトス又和解トハ當事者カ互ニ讓歩ノ上權利ノ一部ヲ拋棄シ以テ爭ヲ止ムル合意ニシテ双方行為ナリ

(第二) 確定判決

此ニイフ確定判決トハ私訴ノ本案ニ付テノ確定判決ヲ云フ公訴ニ付テノ確定判決カ私訴權ヲ消滅セシメサルコトハ刑事訴訟法第九條第二項ノ規定ニ因ルモ明カナリ要スルニ私訴ニ付テモ一事不再理ノ原則ハ適用セラルルモノトス一事不再理ノ理由トナル確定判決ノ條件ニ付テハ公訴ニ付テノ説明ヲ參照セハ自ラ明カナル可シ

(第三) 時効

私訴ノ時効ハ公訴ニ附帶シタルトキト民事裁判所ニ訴ヘタルトキトヲ問ハス公訴ノ時効ト同一ニシテ其時効期間及ヒ其起算點又ハ時効中斷ノ原因等總テ公訴ト同一ナリ(刑訴法八條乃至一二條)但公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡確定シタルトキハ犯罪事實カ公認セラレタルヲ以テ私訴ノ時効ハ民法規定ノ時効ノ例ニ從フ事トナシタリ(刑訴法九條二項民法七二四條參照)或ハ公訴ニ付キ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタルトキモ亦私訴ノ時効ハ第五條ノ規定ニヨリ民法ノ規定ニ從フ(キモノト説クモノアレトモ第九條二項ニ特ニ「刑ノ言渡アリタルトキ」ト規定シタルヲ以テ其他ノ場合ニハ公訴ト同一ノ時効ニ依ル可キコト明カナリ故ニ第五條ハ犯罪ヲ原因トセス他ニ不法行為又ハ所有權ノ主張ヲ理由トシテ賠償又ハ返還ヲ請求シ得ルトノ法意ナリト解釋スルヲ相當ナリト信ス

時効經過後ハ犯罪ヲ理由トシテ私訴ノ請求ヲ爲スコトヲ得サレトモ相手方ハ犯罪事實ニ基クモノナルコトヲ抗辯ノ方法トシテ主張スルコトハ妨ナシ又中斷ノ原因トシテ第十一條ニ規定シタルモノハ公訴ニ付テノ手續ヲ云フモノニシテ私訴ニ付テノ手續ヲ云フモノニ非ス從テ私訴ヲ獨立シテ民事訴訟ニ依リ請求スルモ時効ヲ中斷セサルモノトス(刑訴法九條一項)私訴ノ訴カ公訴ノ時効ヲ中斷スルコトナキハ勿論ナリトス

以上ノ如ク原則トシテ私訴ノ時効ヲ公訴ト同一ニ規定スルコトニ付テハ立法上可否ノ論アリト雖モ之ヲ同一ニ規定シタル理由ハ若シ公訴權消滅後モ犯罪ヲ理由トシテ私訴ヲ請求シ得ルトセ

ハ公訴時効設定ノ趣旨ニ反スル故ナリト説明スルコトヲ得ヘシ

前ニ時効以外ノ場合ニハ公訴權消滅原因ハ私訴消滅ノ原因トナラサルコトヲ述ヘタリ尙各場合ニ付キ簡單ニ之ヲ説明センニ(一)被告人死亡シタルトキハ私訴權ハ民法ノ規定ニ依リ被告人ノ相続人ニ對シ存在スルモノトス私訴ヲ公訴ニ附帶請求シタル後被告人死亡シタルトキハ私訴關係ノ存否ニ付キ議論アリ第一審繫屬中ナレハ私訴關係モ消滅シ第一審ヲ經テ第二審繫屬中ナレハ私訴關係消滅セストノ說ヲ穩當トス故ニ附帶私訴ノ訴訟關係カ被告人死亡ト共ニ消滅スル場合ニハ更ニ民事裁判所ニ其相続人ニ對シ私訴ヲ提起スルノ外ナキモノト信ス(民訴法一七八條一八一條刑訴法二〇〇條參照)(二)告訴ノ拋棄ハ犯罪事實ヲ消滅セシムルモノニ非ス從テ犯罪事實ニ基ク私訴權ヲ消滅セシメサルモノトス(三)公訴ノ確定判決カ私訴權ヲ消滅セシメサルコトハ前掲第九條第二項及ヒ第五條ニ關スル說明ニ依リ明カナリ(四)刑ノ廢止及ヒ大赦ハ公訴權ヲ消滅セシムルモノ犯罪行為自體ノ存在ヲ消滅セシムルモノニ非ス故ニ之ニ基ク私訴權ヲ消滅セシムルモノニ非ス(刑訴法第二二五條)

第四部 訴訟行為

第一章 訴訟行為通論

第一節 訴訟行為ノ概念

(第一) 刑事訴訟ハ前ニ説明シタル如ク裁判所當事者及ヒ第三者ノ意思表示ヨリ成立スルモノナリ此等ノ意思表示ニシテ刑事訴訟上ノ效果ヲ生セシムルモノヲ刑事訴訟行為即チ訴訟行為ト稱ス故ニ訴訟上ノ效果ヲ生セシムヘキ訴訟關係人ノ意思表示ヲ訴訟行為ト謂フコトヲ得ヘシ從テ刑事ニ於ケル訴訟行為ハ刑事訴訟上ノ效果ヲ生セシムルモノニシテ實體法タル刑法上ノ效果ヲ生スルモノニ非ス

訴訟行為ハ法律行為ナリヤ否ヤニ付キ議論ノ存スル所ナレトモ凡ソ法律上ノ效果ヲ生スル行為ハ之ヲ不法行為ト適法行為トニ區別シ得ヘキモノナリ而シテ訴訟行為ハ訴訟法規ニ遵據シテ爲ス所ノ意思表示ニシテ訴訟法上ノ效果ヲ生スルモノナルヲ以テ之ヲ法律行為ト謂フコトヲ得ヘシ

(第二) 訴訟行為ハ意思表示ナルヲ以テ表示者カ意思能力ヲ有スルコトヲ必要トス故ニ表示者カ第三者ノ暴力ニ基キ爲シタル動作又ハ心神喪失ノ際爲シタル動作ハ訴訟行為ノ要件ヲ缺如スルモノトス然シ意思表示ノ動機ニ付キ瑕疵アリト雖モ訴訟行為ノ成立ニ妨ナシ

(第三) 訴訟行為ハ之ヲ取消シ又訴訟上ノ權利ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルヲ原則トス只訴訟法カ明文ヲ以テ之ヲ認容シタル場合又ハ訴訟法ノ解釋上之ヲ認容スルモノト認ムル場合ハ例外トス法律カ認許スル場合ニ非ズレハ取消又ハ拋棄ハ訴訟法上何等ノ效力ヲ生セサルモノトス、法律カ明文ヲ掲ケタル場合トハ例ヘハ裁判所カ勾留狀ヲ取消シ保釋責付ノ言渡ヲ取消シ(刑訴

8

法八六條一五六條一六〇條) 檢事以外ノ上訴者カ上訴ヲ取下クルカ如シ(刑訴法二四六條)又解釋上取消カ有效ナリト認メラルハ裁判所カ期日ノ指定證據調ノ申請ニ關スル決定ヲ取消シ一旦終結シタル審理ヲ再開スル場合ノ如キ當事者カ證據調ノ申立ヲ取消ス場合ノ如シ而シテ訴訟法上ノ權利ハ訴訟關係人ノ利益ノミニ關シ公益ノ爲メ強制スル場合ニ非レハ拋棄スルコトヲ得ヘシ例ヘハ呼出ヲ受クル權利(刑訴法二二三條二項) 證據調濟後ノ辯論權(同法二二〇條) 證言ノ拒絕權(同法一二五條) 旅費日當ノ請求權(同法一三四條) 等ノ如キハ之ヲ拋棄シ得ヘキモ強制辯護權ノ如キハ之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

(第四) 訴訟行為ニ條件ヲ付スルコトヲ得ルヤ換言スレハ條件ヲ付シタル訴訟行為ハ有效ナリヤ否ヤニ付テハ議論區區ナリト雖モ全部有效説ナキヲ以テ全部無效説ト限定無效説トニ區別スルコトヲ得ヘシ(一) 全部無效説ハ訴訟行為ハ不確定ナルヲ許サス故ニ條件ヲ付シタル訴訟行為ハ總テ無効ナリト説明シ(二) 限定無效説ハ或ハ訴訟又ハ訴訟階段ノ開始進行ニ關スル訴訟行為ニ條件ヲ付スルモ無効ナレトモ證據調ノ申請ノ如キハ條件ヲ付スルモ有效ナリト説明シ或ハ起訴公判開始決定又判決ニハ條件ヲ付スルコトヲ得サルモ其他ノ訴訟行為ニハ條件ヲ付スルモ有效ナリト説明ス訴訟進行上ノ便宜問題トシテハ全部無効説ヲ贊スルモ余ハ寧ロ告訴ニ關シテ説明シタル如ク條件ノ性質種類ニ因リ訴訟行為ヲ無効トシ又ハ條件自體ヲ無効トスルヲ可ナリト信ス

第二節 訴訟行為の時

刑事訴訟ニ於ケル裁判所ノ行為ハ日時ニ付テ拘束セラレサルヲ原則トシ日曜日タルト大祭日タルトヲ區別スル必要ナキモノトス此日曜日大祭日等ニハ公判ノ開廷ヲ爲ササルヲ通常トスレトモ豫審ノ取調ノ如キ檢事ノ起訴ノ如キ訴訟行為ハ日曜日祭日等ニモ之ヲ爲スノ必要ヲ見ルコト屢屢ナリトス唯時ニ關シテハ夜間ニ家宅搜索ヲ爲スコトヲ得サルコト(刑訴法七八條一〇四條)夜間症達ヲ爲ササルコトヲ原則トスル如キ制限アルモノトス(民訴法一五〇條參照)

刑事訴訟法ニ於テ休暇ト稱ス可キモノハ一月一日ヨリ三日迄十二月二十九日ヨリ三十一日迄(明治六年一月太政官布告二號參照)年中ノ祭日、祝日(同年十月太政官布告三四四號)毎週ノ土曜日午後及ヒ日曜日(同九年三月太政官達二七號參照)ナリトス(尙裁構法一二七條、一二九號參照)要スルニ休暇日ニハ判事檢事等ハ職務セサルコトヲ得ルト云フニ過キス職務スルコトヲ得ストノ意ニ非ス次ニ證明スル期間ノ計算ニ法律上ノ效果ヲ有スルコトアルニ過キス裁判所及ヒ訴訟關係人ノ訴訟行為ニ關係アル日時ハ期日及ヒ期間ナリ

第一期日

期日トハ訴訟主體カ其ニ訴訟行為ヲ爲ス可キ時期ヲ云フ面シテ裁判所又ハ判事之ヲ指定スルモノトス例ヘハ公判期日又ハ證人訊問ノ期日ノ如キ是ナリ此期日ノ指定ハ前ニ述ヘタル如ク一年

中如何ナル日時ニテモ可ナリ唯裁判所ノ休暇日ニハ之ヲ指定セサルコトヲ通常トシ又夜間ニ付テ制限セラルコトアルノミ又期日ノ指定ニ付テハ猶豫期間ヲ存スルコトヲ要スル場合ト否トアリ(刑訴法一一五條未項、二一五條)一旦指定シタル期日ハ之ヲ變更スルコトヲ得ルモノトス刑事訴訟法ニ於テハ之ニ一旦開廷ノ上辯論ヲ延期スル場合ト開廷前二期日ヲ變更スル場合トアリ辯論ノ續行ハ勿論期日ノ變更ニ非ラス(民訴法一六九條參照)

期日ヲ懈怠スルトキハ(イ)被告人ハ場合ニ因リ勾引セラレ保證金ヲ沒收セラレ又ハ關席判決ヲ受クルコトアリ(刑訴法一五四條、一七八條二二六條等(ロ)辯護人ハ其期日ニ於テ辯護權ヲ失フモ豫審事件ニ於テハ單ニ證據調ヲ爲ス場合ノ外公判ヲ爲スコトヲ得ス(ハ)法律上代理人ハ辯論干與ノ權ヲ失ヒ(ニ)證人鑑定人ハ費用賠償罰金ノ言渡ヲ受ケ證人ハ場合ニ因リ勾引セララルコトアリ(ホ)判事檢事書記ハ常ニ公判開廷ニ必要ナルヲ以テ訴訟法上失權ノ結果ヲ生セス(刑訴法一七六條)

第二期間

期間トハ之ヲ概言スレハ訴訟主體カ訴訟ニ關シ遵守ス可キ時ノ間隔ナリ面シテ期間ニハ訴訟主體カ訴訟行為ヲ爲シ又ハ爲ササル爲メニ遵守スヘキモノアリ又訴訟主體ニ時ノ猶豫ヲ與フル性質ノモノアリ

訴訟主體特ニ當事者カ訴訟行為ニ付キ遵守ス可キ期間ヲ當事者期間或ハ行為期間ト稱スルコト

アリ例へハ上訴故障申立ノ期間ノ如シ又訴訟主體ニ時ノ猶豫ヲ與フル性質ノ期間ヲ中間期間、猶豫期間或ハ呼出期間ト稱スルコトアリ即チ被告人證人等ノ呼出ニ付キ少クモ二十四時間又ハ二日間ノ猶豫ヲ與フルカ如キ場合はナリ(刑訴法一二五條一二五條等)

期間ハ豫メ法律ヲ以テ之ヲ一定シタル場合アリ又裁判所ヲ以テ各場合ニ之ヲ定メシムル場合アリ前者ヲ法定期間ト云ヒ後者ヲ裁定期間ト云フコトアリ上訴故障ノ期間ノ如キハ裁判所カ伸縮ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ前者ニ屬シ呼出ノ猶豫期間ノ如キハ最短期ヲ法律ニテ定ムルノミナルヲ以テ其以上ノ猶豫期間ヲ存スルコト否トハ裁判所ノ自由ニ定ムルコトヲ得ルヲ以テ後者ニ屬ス上訴故障ノ期間ノ如キハ之ヲ伸縮スルコトヲ許ササルヲ以テ之ヲ不變期間ト稱スルコトアリ(民訴法一六八條參照)

第一六條ニ海陸路八里毎ニ又ハ八里未滿三里以上ノ場合ニハ期間ニ一日ノ猶豫ヲ與フルコトトシタリ此猶豫期間ヲ附加期間ト稱スルコトアリ此猶豫ハ法定期間ニモ適用セラル可シ開席判決ノ場合ニハ議論ナキモ對席判決ノ上訴期間ニ適用アルヤ否ヤニ付テハ議論分レタリ

期間ノ計算ニ付テハ第一五條ニ之ヲ規定シタリ即チ一日ハ二十四時間一月ハ三十日、一年ハ曆ニ從フコトトシ其(1)始期ニ付テハ時ヲ以テスル場合ハ即時ヨリ起算シ其他ハ翌日ヨリ起算ス(2)終期ニ付テハ最終ノ日カ休暇ニ當ル場合ハ之ヲ期間ニ算入セス休暇ノ翌日ヲ以テ最終日トナスヲ原則トシ時數ノ期間ハ例外トシ最終日カ休暇ニ當ルモ之ヲ算入スルモノトス、期間ノ最終日

以外ニ休暇アルモ期間ニ算入スルコトハ勿論ナリトス

第三 原狀回復

期間ヲ懈怠スルトキハ訴訟上ノ失權ヲ來タスモノナレトモ特ニ裁判所職員ノ爲メニ設ケタル期間ヲ裁判所職員カ懈怠スルトモ失權ヲ來タスコトナシ例へハ第一六一條、第二〇四條、第二一〇條等規定ノ期間ノ如キ是ナリ

現行法第二四七條、第二四八條及第二三四條ノ規定ニ因リ上訴及ヒ故障期間ヲ懈怠シ失權シタル場合ニハ左ノ二條件ヲ具備スルコトヲ疏明スルトキハ原狀回復即チ一旦失ヒタル權利ヲ回復セシム

(第一) 實體的條件 トシテハ天災其他避ク可カラサル事變即チ所謂不可抗力ノ爲メニ期間ヲ經過シタルコトヲ要ス、不可抗力ノ事實アリヤ否ヤハ故障又ハ上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ノ認定如何ニ存スヘキモ懈怠者ニ假住所ノ選定届出ヲ爲ササル如キ過失アル爲メニ送達ヲ知ラサル場合ノ如キハ不可抗力ナリト云フ可キモノニ非ス但送達機關ノ過失ニ基ク場合ハ不可抗力ノ事實アリト謂フ可キモノナラン

(第二) 形式的條件 トシテハ障礙ノ止ミタル日ヨリ上訴又ハ故障期間内ニ書面ヲ以テ上訴又ハ故障ヲ申立ツルコトヲ要ス、檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニ獨立ノ上訴ヲ爲スコトヲ得レトモ被告人ノ爲メニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得サル可シ又被告人ノ法定代理人又ハ辯護人カ被

告人ノ爲メニ上訴ニ付キ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ議論アル所ナレトモ此等ノ者ハ自己ノ上訴權ヲ行使スルコトヲ得ルモノニシテ其上訴權行使ノ期間經過後ニ復被告ノ權利ヲ代テ行使シ得ルモノニ非スト信ス、要スルニ原狀回復ノ申立ト上訴故障ノ申立ハ孰レモ障礙ノ止ミタル日ヨリ法定期間内ニ於テ爲スコキモノニシテ原狀回復ノ申立ヲ許可シタルトキハ之ト同時ニ爲シタル上訴故障ノ申立ハ一般ニ適法ナル上訴故障ト同一ノ效果ヲ生スルモノトス

原狀回復申立後其申立ヲ許可スル決定ヲ爲ス手續ハ第二四八條ニ之ヲ規定シタルモノ讀明瞭ナルヲ以テ其説明ハ之ヲ省略ス

第三節 訴訟行為ノ場所

訴訟行為ハ裁判所所在地ニ於ケル裁判所内ニ於テ行ハル可キコトヲ原則トス(刑訴法一〇三條)此原則ハ公判ノ審判行為特ニ法律カ當事者在廷ノ上ニテ爲スコトヲ必要トシタル訴訟行為ニハ嚴格ニ適用セラルルモ其他ノ場合ニハ公判ニ於テハ裁判所外ニ行ハルコトアリ例ヘハ證人ヲ裁判所ニ召喚スルコト能ハサル場合又ハ檢證搜索等ヲ爲ス場合ノ如シ豫審判事ノ審理行為モ亦裁判所内ニ於テ行ハルコトヲ原則トスレトモ前例ノ場合ハ固ヨリ被告人ノ訊問モ裁判所外ニ於テ爲スコトヲ必要ヲ認メタルトキハ裁判所外ニ於テ爲スコトヲ得ヘシ(刑訴法九二條)但シ法律カ

裁判所外ニ於テ爲スコトヲ認許シタルト雖モ其裁判所ノ管轄區域ヲ脱出スルコトヲ得サルモノトス尙此外執達更ノ手ヲ經テ爲ス書類ノ送達又ハ檢事ノ指揮ニ因リ爲ス令狀ノ執行ノ如キ通常裁判所外又ハ其管轄區域外ニ於テ行ハルモノトス

第四節 訴訟行為ノ形式

訴訟行為ハ書面又ハ口頭ヲ以テスルコトヲ要スル場合ト臨檢、搜索、差押等ノ強制的行為トアリ口頭又ハ書面ヲ以テスルコトヲ要スル場合ニハ日本語ヲ用ユ可シ若シ日本語ヲ使用シ得サル場合ニハ譯文又ハ通事ヲ以テ日本語ニ改ムルモノトス(裁構法一一五條一一八條)而シテ書面ヲ必要トスル場合ニハ刑訴法第二〇條乃至第二一條第二項ノ規定ニ依リ其他被告人ノ訊問調書ニ付テハ刑訴法第九五條第九六條第一〇一條ノ規定ニ依リ公判始末書ハ同法第二〇九條第二一條ノ規定ニ依ルカ如キ特別ノ書面ニ特別ノ形式ヲ要スルコトアリ

臨檢、搜索、差押等ノ行為ニ付テハ其結果ヲ書面ニ依リ明確ニスルコトヲ要ス其書面ノ形式ニ付テハ前示刑訴法第二〇條第二一條ノ形式ノ外尙ホ各別ノ規定ニ遵フ可キモノトス(刑訴法九二條一〇六條七七條等)

第五節 訴訟條件

第一項 訴訟條件ノ意義

刑事訴訟關係ヲ一ノ法律關係ト見レハ此法律關係カ適法ニ成立スルニハ如何ナル事實ノ存在ヲ必要トスルヤノ問題ヲ生スヘシ又刑事訴訟關係ヲ法律關係ノ進行發展スルモノト見レハ此法律關係カ適法ニ進行發展スルニハ如何ナル事實ノ存否ヲ必要トスルヤノ問題ヲ生スヘシ此刑事訴訟關係ヲ適法ニ成立發展セシムル爲メニ存在スルコトヲ必要トスル事實ヲ刑事訴訟ノ條件トイフ或ハ略言シテ單ニ訴訟條件トイフ

訴訟條件ヲ缺クトキハ檢事ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス假令公訴ヲ提起スルモ裁判所ハ科刑權ノ存在及ヒ範圍ニ付キ判決ヲナスコトヲ得ス公訴ヲ受理セストノ判決ヲナスヘシ又訴訟關係ノ發展ニ必要ナル訴訟條件ヲ缺クトキハ其訴訟ハ發展進行スルコトヲ得サルヘシ例ヘハ上訴申立ニ付テノ不變期間ヲ經過シタル後上訴ヲ申立ツルモ上訴審ニ於ケル訴訟關係ハ適法ニ發展スルコト能ハス裁判所ハ科刑權ノ存否ニ付キ判決ヲナスシテ上訴棄却ノ裁判ヲナスカ如シ

訴訟條件ハ或行爲ヲ犯罪トシテ處分スル爲メニ存在スルコトヲ必要トスル事實ト區別セサルヘカラス此犯罪行爲以外ニ存在スルコトヲ必要トスル事實ヲ處罰條件ト稱ス此處罰條件ヲ缺クトキハ國家ノ科刑請求權ハ發生セサルモノナリ例ヘハ刑法第一〇九條第二項ニ於テ自己所有ノ建造物等ヲ燒燬シタルモ公共ノ危險ヲ生スヘキ事實存在セサル場合ノ如シ此公共ノ危險ヲ生スヘ

キ事實ハ處罰條件ナリ

法律ニヨリ要求セラレタル或事實カ訴訟條件ニ屬スルヤ將タ又處罰條件ニ屬スルヤヲ決スルコトハ理論上實際上其ニ重要ナリトス(一)法規ノ上ヨリ區別スレハ訴訟條件ハ刑事訴訟法ノ規定ニ屬シ處罰條件ハ刑法ノ規定ニ屬スル面シテ或法規カ刑法ノ規定ニ屬スルヤ又ハ訴訟法ノ規定ニ屬スルヤハ各法規ノ性質ヨリ區別スルノ外ナキモノトス、刑法ハ如何ナル事實カ法律上ノ結果トシテ刑罰ト連結スヘキヤ國家ノ科刑權ハ如何ナル場合ニ發動休止スヘキヤヲ規定ス之ヲ別言スレハ刑法ハ國家ノ科刑權ノ成立消滅及ヒ範圍ヲ規定スルモノナリ之ニ反シテ刑事訴訟法ハ刑法ニ規定セラレタル科刑權ヲ確定實行ス可キ手續ヲ規定シタルモノニシテ刑事訴訟ニ關與スヘキ人及ヒ機關ヲ指定シ面シテ其行爲ノ形式及ヒ效力ヲ規定スル總テノ法規ハ之ヲ刑事訴訟法トイフヘシ故ニ一ノ法規カ刑法ノ規定ニ屬スルト同時ニ刑事訴訟法ノ法規ニ屬スルコトハ不可能ノコトナリ(二)處罰條件缺クルトキハ其效果トシテ科刑權ノ存在ヲ妨ケ訴訟條件缺クルトキハ科刑權ノ實體ヲ判定スヘキ有效ナル訴訟ノ存續ヲ妨クルモノナリ今一ノ訴訟進行中ニ法律カ要求スル所ノ事實ノ缺乏アリトセンニ若シ其事實カ處罰條件ナルトキハ科刑權現存セザルヲ以テ裁判所ハ無罪ノ判決ヲナスヘク若シ又其事實カ訴訟條件ナルトキハ裁判所ハ科刑權ノ存在スルヤ否ヤニ付キ判定ヲナスコト能ハス訴訟不受理又ハ管轄違ノ言渡ヲナシ又場合ニ因リテハ免訴ノ言渡ヲ爲スヘシ此場合ニ若シ訴訟條件ヲ適法ニ補充スルコトヲ得ハ更ニ公訴ヲ提起シ科

刑權ノ實體ニ付キ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘシ

第二項 刑事訴訟條件ノ種類

刑事訴訟條件ハ觀察ノ如何ニヨリ之ヲ種種ニ類別スルコトヲ得

第一 狹義ノ訴訟條件及ヒ廣義ノ訴訟條件 前ニ述ヘタル如ク訴訟條件ニハ訴訟關係ノ成立ニ必要ナル條件ト訴訟關係ノ進行發展ニ必要ナル條件トアリ前者ハ之ヲ狹義ノ訴訟條件トイヒ後者ハ之ヲ廣義ノ訴訟條件トイフ受訴裁判所カ起訴事件ニ付キ管轄權ヲ有スルコトヲ要スルカ如キ起訴事件カ其本案ノ確定判決ヲ經サルコトヲ要スルカ如キハ狹義ノ條件ニ屬シ、公判ヲ開クニハ被告人ニ對シ呼出狀カ適法ニ送達セラレタルコトヲ要スルカ如キ、判決ヲナス判事ハ訴訟事件ノ全部ノ審理ニ關與シタルコトヲ要スルカ如キハ廣義ノ條件ナリトス

要スルニ廣義ノ訴訟條件ハ訴訟ノ各部分ニ於テ存在スルコトヲ要スル條件ナリ

第二 一般ノ訴訟條件及ヒ特別ノ訴訟條件 一般ノ訴訟條件トハ凡テノ訴訟ニ存在スルコトヲ要スル條件ナリ例ヘハ起訴事件カ通常裁判所ノ管轄ニ屬スルコトヲ要スルカ如シ、特別ノ訴訟條件トハ凡テノ訴訟ニ共通ニ必要ナル條件ニアラスシテ或種ノ訴訟ニノミ限リ存在スルコトヲ要スル條件ヲイフ此場合ニモ一般ノ訴訟條件ハ固ヨリ必要ナリトス正式裁判請求ニヨリ繫屬スル訴訟ニハ正式裁判申立手續ノ適法ナルコトヲ要スルカ如キハ所謂特別ノ訴訟條件ニ屬スルモ

ノナリ

第三 絶對的訴訟條件及ヒ相對的訴訟條件 絶對的訴訟條件ハ公益ノ爲メ設ケタル條件ニシテ

訴訟ノ成立ニハ必ス存在スルコトヲ要スル條件ナリ故ニ之ヲ必要の訴訟條件トイフコトアリ例ヘハ上訴ハ法定ノ不變期間内ニ申立テラレタルコトヲ要スルカ如シ此種ノ訴訟條件ハ訴訟關係人ノ申請ノ有無ニ關セス裁判所ハ職權調査ヲナスヘキモノナリ、之ニ反シテ相對的訴訟條件ハ當事者ノ爲ニ設ケタル條件ニシテ其條件ノ存否ハ當事者ノ主張ニヨリ始メテ裁判所カ調査スルコトヲ要スルモノナリ此種ノ訴訟條件ノ存否ヲ主張スルト否トハ當事者ノ自由ニ任カセタルヲ以テ之ヲ不必的訴訟條件トイヒ又時トシテハ拋棄シ得ヘキ訴訟條件トイフ必竟此種ノ條件ハ之ヲ主張セザルトキハ始ヨリ條件ノ完備シタルト同様ノ結果ヲ生ス當事者カナス忌避ノ申請又ハ管轉移轉ノ申請ハ此種ノ條件ニ屬ス

第四 通常訴訟條件及ヒ非常訴訟條件 通常ノ訴訟條件ハ總テノ刑事事件ニ存在スルコトヲ必要トスル條件ナリ起訴手續カ適法ナルコトヲ要スルカ如キ是ナリ、特種ノ訴訟條件ハ特別ノ刑事事件ニノミ存在スルコトヲ要スル條件ナリ親告罪事件ニ於テハ告訴ノ存在ヲ訴訟ノ條件トナスカ如キ是ナリ

第五 積極的訴訟條件及ヒ消極的訴訟條件 積極的訴訟條件トハ訴訟關係ノ有效ニ成立スル爲メ存在スルコトヲ必要トスル條件ヲイヒ消極的訴訟條件トハ訴訟關係ノ有效ニ成立スル爲メ存

在ス可カラサル條件ヲイフ例ヘハ裁判所ノ管轄ノ如キハ前者ニ屬シ公訴時効ノ完了ノ如キハ後
者ニ屬ス

第六 訴訟成立條件及ヒ判決條件 訴訟力有效ニ成立スル爲メノ條件ヲ訴訟成立條件トイヒ特
ニ判決ナル訴訟行為ヲナス爲メニ要スル條件ヲ判決條件トイフ例ヘハ適法ノ起訴行為アルコト
ヲ必要トシ又判決ヲナス判事ハ辯論ノ全部ニ關與シタルコトヲ必要トスルカ如シ此區別ハ前ニ
説明シタル狹義ノ訴訟條件ト廣義ノ訴訟條件トノ區別内ニ包含セラルルモノニシテ前者ハ狹義
ノ條件ニ屬シ後者ハ廣義ノ條件ノ一例タルモノナリ

第三項 刑事訴訟條件ノ效果

刑事訴訟條件ノ效果ハ積極的ニ之ヲ説明スルヨリモ寧ロ消極的ニ訴訟條件ヲ缺如シタル場合ノ
效果ヲ説明スル方却テ了解ニ便ナリ左ニ其效果ヲ三段ニ分説スヘシ

第一段 訴訟條件ハ上述ノ如ク訴訟關係ノ成立發展ニ必要ナルヲ以テ此條件ヲ缺如スルトキハ
訴訟關係ヲ有效ニ存續セシムルコトヲ得サルナリ故ニ訴訟條件ヲ缺如トキハ檢事ハ公訴ヲ提起
スルコトヲ得ス假令檢事公訴ヲ提起スルモ實體的ノ訴訟關係ハ成立セス單ニ形式的ノ訴訟關係
ヲ成立セシムルニ過キサルヲ以テ裁判所ハ訴訟ノ本案ニ入り實體的ニ科刑權ノ存否ニ付キ裁判
ヲ爲スコトヲ得サルモ形式的ノ訴訟關係ハ一旦成立スルヲ以テ其訴訟關係ヲ消滅セシムヘキ裁

判ヲ爲ササル可カラス公訴不受理又ハ管轄違ノ言渡ヲナスカ如キ是ナリ

第二段 訴訟條件ヲ缺如スル場合ニ裁判所誤テ訴訟ノ實體ニ付キ判決ヲナストキハ其判決ハ上
訴ニ因リ毎ニ取消變更セラルルモノナリ

第三段 訴訟條件ヲ缺如スルトキ裁判所カ公訴不受理等ノ判決ヲ爲サスシテ訴訟ノ本案ニ付キ
判決ヲナシ其判決確定シタルトキハ訴訟條件ハ補充セラレ曾テ訴訟條件ノ缺如シタルコト無キ
場合ト同様ノ結果ヲ生ス故ニ後日訴訟條件ノ缺如ヲ理由トシテ其判決ヲ攻擊スルコトヲ得サル
モノトス

訴訟條件ヲ缺如シタル場合ハ前述ノ如シト雖モ之ヲ處罰條件缺如ノ效果ト比照セハ其觀念尙一
層明カナルヘシ仍テ處罰條件缺如ノ場合ヲ述ブレハ下ノ如シ處罰條件ノ缺如トキハ檢事ハ誤信
ニ基クト雖モ有效ナル公訴ヲ提起シ得ヘク實體的ノ訴訟關係ヲ成立セシムルモノナリ故ニ裁判
所ハ其訴訟本案ノ判決ヲ爲スヘキモノナリ公訴不受理等ノ判決ヲ爲スコトヲ得ス別言スレハ裁
判所ハ其被告人ニ對シ無罪ノ判決ヲ爲スヘキモノナリ

第二章 強制手續

第一節 通論

刑事訴訟ニ關シ必要ナル物件即チ證據物件又ハ沒收物件ハ其所持者ヨリ任意提供ヲ拒ム場合ア

刑事訴訟法

總論 訴訟行為 強制手續

り又裁判所以外ノ者ニ之ヲ保管セシムルトキハ紛失等ノ恐モアルヲ以テ此等ノ物件ノ保全ニ付キ場合ニ因リ強制手段ヲ用ユル必要アリ又被告人其他ノ關係人モ場合ニ因リテハ逃亡ヲ企テ若クハ罪證ヲ湮滅シ又ハ故ナク出頭セサル場合アルヲ以テ其身體ニ對シ強制手段ヲ用ユルノ必要アリ此物件保全又ハ被告人等ノ保全ニ付テノ強制處分ハ訴訟ノ進行或ハ證據保全等ニ關係アレトモ又刑ノ執行ニモ關係アルモノトス

訴訟ニ關シ必要ナル物件又ハ被告人等ニ對スル強制處分ハ裁判官ノ裁判ニ因リ之ヲ爲スコトヲ原則トスレトモ急速處分ヲ要スル場合ニハ多少例外ヲ認メタリ例ヘハ現行犯罪ノ場合、變死死體檢案ノ場合、出版物ノ刻板、印本ヲ差押フル場合等ノ如シ

第二節 物件ニ對スル強制手續

第一項 差押

(第一) 物權提出義務 我國現行法ニ於テハ獨國刑事訴訟法第九五條ノ如ク物件ノ保管者ハ裁判所ノ命令ニ因リ之ヲ提供ス可キ旨規定シタル明文ナキヲ以テ物件ノ所持者ニハ提出義務ナシト論スル者アリ然レトモ裁判所カ提出ヲ命ジタル物件ヲ提出セザルトキハ裁判所ハ差押ヲ爲シ又ハ搜索ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス第一二三條ニ依レハ憲法ニ規定セラレタル信書ノ秘密ヲ保護ス可キ官廳サヘモ之ヲ提供ス可キ義務アル旨規定シアリ又刑法第一〇四條ニ證據湮滅罪ノ

規定アルヲ以テ其裏面ニハ物件ノ所持者ニ提出義務アルモノト論スルヲ妥當トス尤モ物件ノ所持者ト雖モ被告人ニハ自己ニ不利益ナル物件ノ提出義務ヲ認メサルヲ原則トス物件提出義務ヲ認ムルニハ左ノ條件ヲ要ス

(一) 裁判所ノ指令アルコトヲ要ス若シ裁判所ノ指令ナケレハ所持者ハ自ら進ンテ之ヲ提供スル義務ナシ

(二) 裁判所ハ提出ス可キ物件ヲ特定スルコトヲ要ス

(三) 提出ス可キ物件ハ指令ヲ受ケタル者ノ所持又ハ保管ニ係ルコトヲ要ス

(第二) 差押ノ意義 差押トハ裁判所カ證據物件又ハ沒收物件ヲ強制的ニ自己ノ所持ニ歸セシムル命令ナリ故ニ物件ノ所持者ニ對シ任意提供セシムルハ差押ニ非ス差押ハ不動産ニ對シテモ爲スコトヲ得ルヤ否ヤハ法文上多少不明ニ屬スレトモ第一〇四條乃至第一〇六條、第一〇九條等ニ「物件藏匿」認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ」其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ」等ノ文句アルヲ見レハ立法ノ精神ハ動産ニ限ルモノト解釋ス可ク從テ不動産ニ付テハ檢證ノ方法ヲ用ユルノ外ナカル可シ(刑事法一〇二條)

(第三) 差押ノ手續 差押物件ヲ紛失セシメサル爲ニハ認印ヲ爲ス可ク而シテ差押物件ハ目錄ヲ作り明確ニス可シ其物件ノ監護又ハ返送ニ付テハ裁判所書記ノ任務ニ屬ス差押處分ニハ勾留ヲ受ケサル被告人ハ之ニ立會ヒ又ハ代人ヲシテ立會ハシムルコトヲ得レトモ勾留中ノ被告人ハ

裁判所カ特ニ必要トスル場合ニ立會ハシムルコトヲ得ルニ過キス若シ差押其日ニ終了セサルトキハ其周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得ルモノトス又差押處分中其場所ニハ一般人民ノ出入ヲ禁スルコトヲ得ルモノトス他ハ搜索ノ説明ヲ參照ス可シ(刑訴法一〇六條乃至一〇八條、一一一條)

(第四) 差押ニ付テノ制限 差押處分ハ物件提出義務ノ有無ニ關係ナク如何ナル人及ヒ如何ナル有體動産ニ對シ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得レトモ(一) 治外法權ヲ有スル者等ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス(本講義緒論刑事裁判權ノ範圍參照)(二) 證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル秘密ノ義務アル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ其所持者ノ承諾アレハ差支ナシ(刑訴法一一四條)(三) 治外法權ヲ有スル場所ニ於テハ差押ヲ爲スコトヲ得ス又信書類ヲ差押ヘントスルトキハ之ヲ取扱フ官廳會社等ニ通知シ提出セシム可ク直接ニ差押ヲ爲スコトヲ得ス(同法一一三條)

(第五) 差押ノ效力 差押ハ差押物件ヲ裁判所ノ所持占有ニ移ス效力アルモノニシテ沒收セラシキ物件ノ外ハ其物件ニ對スル所有權其他ノ財產權ヲ喪失セシムルモノニ非ス唯差押ノ解除セラシキマテ其財產權ヲ直接行使スルコトヲ得サルニ過キス面シテ差押ハ沒收ニ係ラサルモノニ對シテハ還付ノ言渡ノ確定ニ因リ當然解除セラルルモノトス(刑訴法二〇二條刑法一九條刑施法六一條參照)

第二項 搜索

(第一) 搜索ノ必要 前項ニ述ヘタル被告人ニハ提出義務ナキノミナラス提出義務アル者モ之ヲ提出セサル場合アル可ク又物件ヲ特定シ若クハ物件ノ所在ヲ確知シ得サル場合ニハ提出義務ヲ履行セシムルコト能ハサル不便アリ且差押ハ物件ヲ發見シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ物件ヲ搜索スル必要ヲ生ス故ニ搜索ハ差押ノ手段トシテ用ヒラルルモノトス、尤モ搜索ハ物件ニ對シテノミナラス被告人發見ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(刑訴法七八條一〇五條)

(第二) 搜索ノ意義 物件ヲ差押フル手段トシテノ搜索ノ意義ハ證據物件又ハ沒收物件ヲ發見スル強制手段ナリト謂フヘキモ搜索ハ被告人發見ノ爲メニモ行ハルルヲ以テ一般ニ搜索ノ意義ヲ述フレハ證據物件、沒收物件又ハ被告人ヲ發見スル爲メノ強制手段ナリト謂フヘシ(刑訴法一〇四條一〇五條)

(第三) 搜索ニ付テノ制限 搜索ニ付テハ時、人及ヒ場所等ニ關シ何等ノ制限ナキヲ原則トスレトモ(一) 家宅搜索ニ付テハ夜間ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス但シ公衆ノ出入スル場所ハ公開時間内ナレハ夜間ト雖モ差支ナシ(刑訴法七八條三項、一〇四條三項) 尤モ豫審判事カ爲ス家宅搜索ハ晝間ヨリ夜間ニ續行スルコトハ差支ナカルヘシト思料ス(同法一〇七條) 家宅以

外ノ建造物、其他ノ物件及ヒ身體等ニ對シ爲ス搜索ニハ時ノ制限ナシ(同法一〇四條一〇五條)又(二)差押ニ付テ述ヘタル如ク治外法權ヲ認メタル人及ヒ場所ニ付テハ搜索ヲ爲スコトヲ得ス

(第四) 搜索ノ手續 ハ差押ニ付キ述ヘタル手續ト略相同シ但シ搜索ニ付テハ搜索ノ調書ヲ作成シ(同法七八條、九二條、一〇九條)住居ノ搜索ニハ常ニ立會入ヲ要シ(同條)又被告人發見ノ爲メノ搜索ハ巡查憲兵卒モ令狀ニ基キ單獨ニ之ヲ行フコトヲ得(同法七八條)

第三節 人ニ對スル強制手續

第一項 通論

人ニ對スル強制處分ハ裁判所ノ裁判ニ因リ令狀ヲ以テ之ヲ行フコトヲ通則トスレトモ現行犯ノ場合ニハ令狀ナクシテ逮捕又ハ引致ヲ爲スコトヲ得、令狀ニハ四種アリ召喚狀(又ハ呼出狀)勾引狀、勾留狀及ヒ逮捕狀是ナリ此四種ノ令狀ノ内逮捕狀ハ檢事ノ發スルモノニシテ他ハ總テ裁判所ノ發スル所ノモノナリ而シテ逮捕狀ハ豫審判事ヨリ被告人ノ搜查及ヒ逮捕ノ請求アルトキ又ハ刑ノ執行準備ノ爲メニ之ヲ發スルモノニシテ公判中ニハ逮捕狀ヲ發スルコトナシ(刑訴法八〇條、三一六條、三一九條末項)令狀ノ方式ニ付テハ第六九條第七六條、第一一五條、第二一四條等ヲ參照スヘシ

人ニ對スル強制處分ハ被告人、證人、鑑定人又ハ通事ニ因リ差等アルモノトス其詳細ハ以下ノ說明ニテ自ラ判明スヘシ

第二項 呼出

呼出ハ被告人、證人、通事又ハ鑑定人ヲ裁判官ノ面前ニ出頭セシムル命令ニシテ召喚狀又ハ呼出狀ニ依リ之ヲ行フ(刑訴法六九條、一〇一條、一一五條、一三六條、一二三條等)現行法ニ於テハ豫審判事ノ被告人ニ對スル呼出ノモニ付キ召喚狀ト云ヒ他ノ證人、鑑定人、通事ニ對スル場合ハ呼出狀ト云ヒ又公判中ハ總テ呼出狀ナル文字ヲ用ヒタレトモ其性質上ニハ區別ナキモノトス

此呼出ハ人ニ對スル強制處分ノ最モ簡易ナルモノニシテ被告人若シ此呼出ニ應セザルトキハ勾引狀ヲ發セラルヘク(同法七一條一七八條)證人正當ノ事故ナク呼出ニ應セザルトキハ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡サレ且勾引狀ヲ發セラルコトアリ(同法一一五條一一八條、一九〇條等)鑑定人通事正當ノ事故ナク呼出ニ應セザルトキハ費用ノ賠償及ヒ罰金ヲ言渡サルヘシ但シ鑑定人通事ハ勾引狀ヲ發セラルコトナシ(同法一〇一條、一三六條、一九〇條)要スルニ呼出ハ間接直接ノ制裁ニ因リ呼出ヲ受ケタル人ノ出頭ヲ強制スルモノニシテ其必要ハ現行法ニ於テ直接審理主義又ハ口頭辯論主義ヲ採用シタル結果ニ基クモノトス

裁判官ハ何人ニ對シテモ呼出スコトヲ得ルコトヲ原則トスレトモ被告人又ハ證人カ皇族ナルトキ證人カ疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサルトキハ其所在ニ就キ訊問ヲナスヘシ皇族ニ付テハ勅許ヲ受ケタルトキハ例外ナリ、證人カ大臣又ハ帝國議會議員（開會中ニ限ル）ナルトキハ其所在地ノ裁判所ニ非サレハ之ヲ召喚スルコトヲ得ス（皇室典範五二條、刑訴法一一六條、一三〇條等參照）

第三項 勾引

勾引ハ直接ニ強制ヲ加ヘ裁判官ノ面前ニ出頭セシムル命令ニシテ勾引狀ニ依リ之ヲ行フ此勾引狀ヲ發スルモノハ豫審判事、受託判事又ハ裁判長ナリ現行犯ノ場合ニハ例外トシテ檢事又ハ司法警察官モ之ヲ發スルコトヲ得（刑訴法七一條、一四四條、一四七條、七二條、一一五條、一七八條等）而シテ公判ニ於テハ禁錮以上ノ刑ニ該ル被告人ニ對シテノミ勾引狀ヲ發スルコトヲ得レトモ豫審ニ於テハ罰金刑以上ノ刑ニ該ル被告人ニ對シテハ公判ニテハ第一九五條ノ場合ノ證人又ハ鑑定人ニ對シテモ勾引狀ヲ發スルコトヲ得ヘシ、證人ニ對シテハ正當事故ナクシテ呼出ニ應セサル場合ニハ之ヲ發スルコトヲ得レトモ鑑定人及ヒ通事ニ對シテハ之ヲ發スルコトヲ得サルコト前項ニ説明シタル所ノ如シ而シテ勾引狀ヲ執行シタル者ニ對シテハ發令者ノ面前ニ引致シタル後四十八時間内ニ訊問ヲ爲スヘク否ラサレハ之ヲ釋放スヘシ（刑訴法七三條）又訊

問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ラスト思料シタル場合モ亦同シ（同法七五條）

勾引狀ハ呼出ニ應セサル場合ニ之ヲ發スルコトヲ得ルハ勿論尙ホ左記ノ場合ノ一ニ該當スルトキハ直チニ之ヲ發スルコトヲ得（同法七一條七二條等）

- (一) 被告人定リタル住所アラサルトキ
 - (二) 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡ノ恐アルトキ
 - (三) 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ達セントスル恐アルトキ
- 召喚狀又ハ呼出狀ハ裁判所書記ノ指揮ニヨリ執達更テシテ之ヲ送達セシムルモ勾引狀ハ檢事ノ指揮ニ基キ巡查警兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム（同法七六條一一三條）

第四項 勾留

勾留ハ被告人ヲ監獄ニ勾禁スル命令ニシテ勾留狀ニ依リ之ヲ行フ勾留ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルト思料シタル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス而シテ被告人ヲ訊問シタル後ニ勾留スルコトヲ原則トシ唯豫審ニ於テハ被告人逃亡シタル場合ニハ訊問ヲ爲サスシテ之ヲ發スルコトヲ得ルモノトス（刑訴法七五條一七八條二項）勾留ハ被告人ノ罪責未定ノ場合ニ爲スモノニシテ罪責確定シタルトキハ刑ノ執行ニ因リ監獄ニ拘束セラルモノナリ故ニ勾留ハ直接ノ目的トシテハ訴訟ノ必要上行ハルモノナレトモ間接ニハ刑ノ執行ニ付テノ便宜ヲモ有スルモノトス

(第一) 勾留ノ條件 勾留ニハ左ノ條件ヲ必要トス

(一) 一般條件 トシテハ(1)被告人ニ犯罪行為アリトノ嫌疑アルコトヲ必要トス(2)其犯罪行為ノ嫌疑ハ訊問シタル後ニ判斷スヘキモノトス但シ逃亡シタル被告人ニ對シ豫審中勾留狀ヲ發スル場合ハ例外ナリ(3)其犯罪ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルト思料スル場合ナルコトヲ要ス

(二) 特別條件 トシテハ(1)前條件ニ該ル被告人カ逃亡スルノ恐アルカ(2)又ハ罪證湮滅ノ恐アルコトヲ要ス故ニ特別條件トシテハ逃亡及ヒ罪證湮滅ノ二條件ヲ併有スルコトヲ要セス此二者ノ一ヲ具備スレハ足レリ

(第三) 勾留權ヲ有スル者 勾留ヲ命令スルコトヲ得ル者ハ公判裁判所、豫審判事、受託判事及ヒ受命判事ナリトス(刑訴法七〇條、七五條、一七八條、二四一條末項、二六四條二項)此外檢事モ現行犯ノ場合ニハ勾留ヲ爲スコトヲ得(同法一四四條一四六條)尤モ非現行犯ニモ豫審判事ノ請求ニ因リ被告人ニ對シ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得而シテ此逮捕狀ハ勾留狀ト同一ノ效力アルヲ以テ此場合ニハ實質上勾留ノ權アリト謂フヘシ(同法八〇條)但シ上告審ニ於テハ特別條件ニ付キ事實判斷ノ權ナキヲ以テ勾留ヲ爲スノ權ナシト謂フヘシ

(第二) 勾留狀ノ執行

(一) 執行機關 勾留狀ノ執行ハ檢事之ヲ指揮シ巡查憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシメ在監中ノ被告人ニ對シ發シタル勾留狀ハ司獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシム勾留狀ニ因リ被告人ヲ受取りタ

ル典獄ハ檢事ヨリ出監指揮又ハ刑ノ執行指揮アルマテ監獄法ノ規定ニ依リ被告人ヲ拘禁スルモノトス

(二) 執行手續 ハ勾引狀モ勾留狀モ同一ニシテ其詳細ハ第七七條乃至第七九條及ヒ第八二條ニ之ヲ規定シタリ又豫備後備ノ軍籍ニ非サル軍人軍屬ニ對スル令狀ノ執行ニ付テハ第八一條ノ規定ニヨリ其所屬長官ニ令狀ヲ示シ執行ニ付キ其補助ヲ求ム可シ又勾留中ノ被告人ニ對シ監房ヲ別ニシ他人トノ接見書類物件ノ授受ヲ禁スル場合ニハ特ニ之ヲ命令スルコトヲ要ス(同法八五條)

(三) 執行ニ付テノ制限 通常裁判所ノ裁判權ニ服從セサル人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトナキヲ以テ苟モ勾留狀ヲ發セラレタル人ニ對シテハ執行上何等ノ制限ナシト謂フ可シ唯疾病ノ爲メ事實上之ヲ執行シ生命ニ危險ヲ及ボス如キ場合ニハ檢事ノ指揮ニ因リ其執行ヲ見合ハスルヲ適當トス其他執行ノ時期ニ付テハ前ニ述ヘタル如ク家宅搜索ノ時期ニ關スル制限アリ又執行ノ場所ニ付テハ通常裁判所ノ裁判權ノ行ハレサル場所ニ付キ制限ヲ受ク尤モ令狀ヲ發シタル裁判所ノ管轄地外又ハ官衙等ニ於テハ其地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官若クハ軍衙ノ長官ノ補助ヲ求ム可キモノトス(同法七九條八一條)

以上ノ外何等ノ制限ナキヲ以テ上訴ノ爲メ上訴裁判所所在地ノ監獄ニ被告人ヲ移ス場合ニハ新ニ勾留狀ヲ發スルヲ要セス前勾留狀ノ謄本ヲ以テ檢事ノ移監指揮ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得

(同法二五六條末項)

(第四) 勾留ノ消滅

勾留ハ勾留狀ニ基クト逮捕狀ニ基クトヲ問ハス(一)確定裁判(二)第二審ニ於テ勾留刑又ハ放免ヲ言渡シタル判決(三)檢事ノ不起訴處分アルトキハ勾留ハ總テ消滅ス可キモノニシテ檢事ハ體刑ノ指揮ヲ爲スカ又ハ出監ノ指揮ヲ爲ス可キモノトス

(一) 確定裁判トハ上訴又ハ故障ヲ以テ變更スルコトヲ得ナル裁判ヲ云フモノニシテ上訴又ハ故障ノ期間ヲ經過シタル裁判及ヒ上訴ヲ許ササル裁判ヲ含ム即チ無罪、免訴、公訴不受理又ハ合狀ヲ存セサル管轄違ノ裁判アリ其裁判確定シタルトキ(刑訴法一六四條、一六五條、二〇三條、二二二條乃至二二四條等)及ヒ豫審判事勾留狀ヲ取消シ又ハ釋放ヲ言渡シタルトキハ此裁判ニ對シテハ上訴ヲ許ササルモノトス(同法八六條一六六條一六七條)體刑ノ指揮ヲ爲ストキハ釋放ニ付キ指揮ヲ爲ス必要ナシ

(二) 第二審ニ於テ拘留刑ヲ言渡シ又ハ無罪、免訴、公訴不受理等ノ判決ヲ爲シタルトキハ該判決ニ對シ上告ノ有無ヲ問ハス第二七二條ノ規定ニ因リ檢事ハ出監ノ指揮ヲ爲スヘキモノトス

(三) 檢事カ勾留狀ヲ發シタル被告事件ニ付キ不起訴ノ處分ヲ爲シタルトキハ出監ノ指揮ヲ爲ス可シ

第五項 保釋及ヒ責付

(第一) 意義

保釋及ヒ責付ハ共ニ勾留中ノ被告人ニ對シ勾留狀ノ執行ヲ停止スル裁判ナリトス然シ保釋ニ付テハ(1)被告人又ハ其法律上代理人ヨリノ請求アルコトヲ必要トシ(2)且出頭ニ付キ特ニ財産上ノ擔保ヲ提供セシムレトモ責付ニ付テハ之ヲ必要トセス被告人ヲ其親族又ハ故舊ノ監視ニ付スルモノトス故ニ保釋トハ請求ニ因リ裁判官カ出頭ニ付テノ受書及ヒ財産上ノ擔保ヲ提供セシメ勾留ヲ停止スル裁判ナリト謂フ可ク(刑訴法一五〇條)又責付トハ請求ノ有無ヲ問ハス裁判官カ被告人ノ親族又ハ故舊ヨリ被告人ノ出頭ニ付テノ受書ヲ提出セシメ其監視ニ付シ勾留ヲ停止スル裁判ナリト謂フ可シ(同法一五九條)保釋ニ關スル財産上ノ擔保トシテハ被告人ヨリ保證金額ニ相當スル金錢若クハ有價證券ヲ差出スカ又ハ裁判所ノ管轄地内ニ住居シ且十分ノ實力アル者ヨリノ保證金額ニ對スル保證書ヲ差出スコトヲ要ス(同法一五一條)

(第二) 時期

保釋及ヒ責付ハ何時之ヲ爲スコトヲ得ルヤニ付テハ特ニ規定ナシト雖トモ保釋及ヒ責付ハ共ニ勾留狀ノ執行ヲ停止スル效力ヲ生スルモノナルヲ以テ被告人カ未決勾留中ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ面シテ豫審中タルト公判中タルトヲ問ハス保釋又ハ責付ノ決定ヲ爲スコトヲ得

ヘシ然レトモ上告審ニ於テハ保釋又ハ責付ノ許否ニ關スル事實ノ審査ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ從テ保釋又ハ責付ノ許否ヲ決定スルコトヲ得サルヲ以テ上告中ハ控訴審ニ於テ之ヲ決スヘキモノトス又控訴期間中若クハ訴訟記録カ第一審裁判所ノ手ニ在ルトキハ尙ホ第一審裁判所ニテ許否ノ決定ヲ爲スコトヲ得ヘキモ控訴審ニ對シテ保釋責付ヲ請求シタルトキハ第一審ニテ之ヲ許否スルコトヲ得サルヘシ(反對論モアリ)

(第二) 手續

保釋ハ必ス被告人又ハ其法律上代理人ヨリ之ヲ請求スヘキモノナレトモ責付ハ請求ヲ要件トセサルヲ以テ裁判官ノ職權ヲ以テモ之ヲ決定スルコトヲ得ヘシ尤モ責付ヲ受タヘキ被告人ノ親族又ハ故舊アルコトヲ要ス保釋責付ノ請求アルトキ又ハ裁判官カ職權ヲ以テ責付セントスルトキ先ツ檢事ノ意見ヲ聽キタル上ニテ許否ヲ決定スヘキモノトス(同法一五〇條一五九條)保釋ヲ許可スル決定書ニハ出頭ノ擔保タルニ相當ト思料スル保證金額ヲ記載シ之ヲ提供セシムルコトヲ要ス(同法一五一條)保釋ヲ許ササル言渡即チ決定ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(同法一五八條ノ二)

(第四) 保釋及ヒ責付ノ取消

保釋及ヒ責付ハ(一)被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキ(二)裁判官ニ於テ取消ノ必要ヲ認メタルトキハ取消スコトヲ得ヘシ(同法一五四條、一五六條一項二項一六〇

條)責付ニ付テハ(一)ノ場合ニ明文ナキモ第一六〇條ハ取消ノ場合ヲ限定シタルモノニ非サルヲ以テ取消シ得ヘキモノトス

保釋責付言渡ノ效力ハ上訴審ニモ及フヲ以テ上訴審ニ於テ下級審ニテ爲シタル保釋責付ノ言渡ヲ取消スコトヲ得ルモノトス而シテ被告事件ニ付キ確定判決アルトキハ保釋責付ノ言渡ハ當然消滅スルヲ以テ特ニ之ヲ取消スノ必要ナキモノトス

(第五) 保證金ノ處分

保證金ノ全部又ハ一分ヲ沒收スル場合ハ被告人カ呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セサル場合ニ限ル而シテ豫審判事カ被告事件ニ付キ免訴ノ決定ヲ爲シ又ハ罰金以下ノ刑ニ該ルモノトシテ公判ニ付スル決定ヲ爲シタルトキハ保證金ヲ還付スヘキモノトス此場合ニハ一旦沒收シタル保證金ヲモ還付スヘキモノトス其他必要ヲ認メ保釋ヲ取消シタル場合ニモ保證金ヲ還付スヘキモノトス而シテ保證金ノ沒收又ハ還付ニ付テハ檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス(同法一五三條、乃至一五四條、一五七條、一五八條)此豫審中ノ規定ハ公判ニ於テモ準用セラルヘシ

第六項 逮捕及ヒ引致

逮捕及ヒ引致ハ通常被告人ヲ相當官署ニ送致スルマテノ強制的保方法ノ一種ナレトモ證人ニ對シ勾引狀ヲ執行スルトキハ證人ニ對シテモ行ハルルコトアリ而シテ逮捕ハ多クハ引致前ノ強

制手續ナレトモ場合ニ因リテハ逮捕ヲ爲サシテ引致スルコトアリ要スルニ單ニ逮捕トイフトキハ直接ニ身體ヲ拘束スルコトヲ云ヒ引致トハ強制的ニ被告人等ノ身柄ヲ相當官署ニ送致スルコトヲ意味スト謂フヘシ

逮捕及ヒ引致ハ令狀ニ因テ爲スコトヲ原則トスレトモ禁錮以上ノ刑ニ該ル現行犯ノ場合ニハ令狀ナクシテ犯人ヲ逮捕スルコトヲ得而シテ逮捕シタル犯人ハ之ヲ引致スルコトヲ得ルモノトス又罰金以下ノ刑ニ該ル犯人ト雖モ現行犯ナルトキハ其犯人ノ氏名住所分明ナラス又ハ其犯人逃亡ノ恐アル場合ニ限リ令狀ナクシテ之ヲ相當官署ニ引致スルコトヲ得ルモノトス(刑訴法五八條、五九條、七三條、八〇條、八二條、一一八條)

第三章 證據

第一節 通論

第一段 證據ノ意義

現行法ニ於テハ證據ナル語ヲ場合ニ依リテハ證據材料ノ意義ニ用ヒ又場合ニ依リテ證據ノ效力即チ證明ノ意義ニ用ヒタリ即チ第四六條、第六六條、第一九八條等ニ所謂證憑ハ證據材料ノ意義ヲ有シ第一六五條、第一六九條、第二二四條等ニ所謂證憑ハ證明ノ意義ヲ有スルモノナリ、然レトモ此證據材料即チ證據方法ト證明トハ之ヲ區別スヘキモノニシテ前者ハ原因方法タリ後

者ハ其效力作用タルモノトス別言スレハ證據方法又ハ證據材料ナルモノハ證明ヲ目的トスル手段方法ニシテ證明ノ原因タルモノナレトモ證明ハ證據方法ニ因リ事實ヲ確認スル作用ニシテ證據方法ノ效力ニ關スルモノナリ故ニ此二者ヲ定義スレハ證明トハ特定ノ事實ヲ確認セシムル作用ナリト謂フヘク證據方法トハ特定ノ事實ヲ確認スル爲メノ材料ナリト謂フヘシ

現行法ニ於テハ證人被告人ノ供述、鑑定人ノ鑑定、檢證、證憑等ヲ證據方法ノ如クニ規定シタル場合アリ(刑訴法九〇條九一條二〇三條等)又證人、被告人、鑑定人、文書及ヒ檢證物ヲ證據方法ナルカ如ク規定シタル場合アリ(同法一九八條、二一九條等)然レトモ被告人ノ供述證言鑑定等ハ證據方法ノ内容ヲ指シ檢證ハ證據調ニ屬スルモノニシテ又證憑ナルモノハ所謂間接證據或ハ人爲證據ト稱スヘキモノニシテ間接ニ證明ヲ要スル事實ヲ證明シ之ニ推理ノ結果ヲ加ヘテ始メテ或事實ヲ證明スルモノナルヲ以テ證明ノ階級ニ屬スルモノトス即チ證憑アルモノハ證人、鑑定人等ノ證據方法ヲ利用シテ得ル效果ノ一ニ過キス故ニ鑑定、檢證、證憑等ハ證據方法ニ非サルナリ故ニ證據方法ヲ具體的ニ舉示スレハ被告人證人文書及ヒ檢證物ナリトス被告證人及ヒ鑑定人ヲ(一)人的證據方法ト云ヒ文書及ヒ檢證物ヲ(二)物的證據方法ト云フ

次ニ證明ト證明トハ之ヲ區別スヘキモノトス證明ハ事實ヲ確認セシムル作用ナレトモ証明ニ於テハ事實ヲ確認スルコトヲ要セス一應ノ信用ニテ足レリ故ニ其裏面ニ多少ノ疑ヲ有スルモノ可ナリ又證明ハ主トシテ實體法ヲ適用スヘキ事實ニ關スレトモ証明ハ訴訟法適用ノ事實ニノミ限定

セラル又證明ノ責任ハ裁判所ニ在レトモ疏明ノ責任ハ當事者ニ在リ尤モ裁判官ニシテ當事者ノ爲シタル疏明ニテ未ダ一應ノ信認ヲ爲スニ足ラサルトキハ尙ホ進シテ疏明セシムルコトハ差支ナキモノトス要スルニ疏明トハ訴訟上ノ事實ヲ一應信認セシムル作用ナリト謂フコトヲ得ヘシ尙ホ後段ノ說明ヲ參照スヘシ

第二段 證據(或ハ證明)ノ目的物

證明ハ前ニ說明シタル如ク事實ヲ確認スル作用ナルヲ以テ證明(或ハ證據)ノ目的物ハ事實ナリ而シテ其事實ハ科刑權ノ存在及ヒ範圍ヲ確定スル爲メニ必要ナル事實即チ犯罪タルヘキ事實及ヒ刑ヲ量定スルニ必要ナル事實ナリ從テ實體法ヲ適用スル爲メニ必要ナル事實ナレトモ場合ニ因リ實體法ヲ適用スル爲メニ間接必要ナル場合ニハ訴訟法ヲ適用スヘキ事實モ證明ノ目的物タルコトヲ得ルモノトス例ヘハ公訴不受理又ハ管轄違言裁ノ爲メニ必要ナル事實ヲ證明スル場合ノ如シ但シ訴訟法ヲ適用スヘキ事實ヲ認定スルニ付テハ必スシモ證據調ヲ爲スヲ要セス裁判官ノ便宜ノ認定ニテ可ナルモノトス

訴訟上必要ナル事實ハ多クハ疏明ヲ以テ足レリトセリ疏明ヲ爲サシムル場合ニハ證明ヲ要セサルモノトス即チ忌避ノ原因、出頭不能ノ事由、證言拒否ノ原因、證人ニ人違ナキ事實上訴權回復ノ爲メ必要ナル事實等ハ疏明ヲ以テ足レリトス(刑訴法四二條、七四條、一二〇條、一二五條二四七條)

一般ニハ證明ヲ要スヘキ事實モ場合ニ因リテハ證明ヲ要セサルコトアリ併シ證明ヲ用ユルコトハ固ヨリ差支ナシ

(一) 法律上證明ノ必要ヲ認メサル事實 ニ付テハ證明ヲ要セス此場合ハ法律カ事實ヲ推定ヲ爲ス場合ニシテ法律上ノ推定ニハ斷定的推定ト假定的推定トアリ斷定的推定ニハ反證ヲ許ササレトモ假定的推定ニハ反證ヲ許スモノトス此推定ノ區別ハ法文ノ解釋ニ依ルモノトス

(二) 公知ノ事實 即チ一般ニ顯著ナル事實ハ證明ヲ要セス如何ナル事實ヲ顯著ナリト云フヘキヤニ付テハ議論アリ一般人ノ知得スル事實ナリト說明スルモノアリ裁判所間ニテ一般ニ知得スル事實ナリト說明スルモノアリ(民訴法二一八條)裁判官ニノ顯著ノ事實モ一般人ニ不知ノ事實ナルトキハ刑事訴訟ニ於テハ證明ヲ要スルモノト思料ス一般人ニ顯著ナル事實トシテ多數ノ學者間ニ認メラルルモノハ(イ)歴史上ノ事實又ハ(ロ)吾人カ日常ノ經驗ニ因リ了知スル事實ナリトス

第三段 證據調

證明ハ事實ヲ確認スルニ在リ此證明ヲ要スヘキ事實ヲ確認スルニハ證據調ヲ必要トス證據調ノ目的物ハ證明ヲ得ントスル材料即チ證據方法ナリ故ニ證據調トハ證據方法ヲ訴訟法ノ規定ニ從ヒ取調フル手續ナリト謂フコトヲ得ヘシ尙ホ別言スレハ證據調トハ證明ヲ得ンカ爲メニ證據方法ノ内容ヲ了得スル訴訟手續ナリト謂フヘシ

證據調ヲ具體的ニ説明スレハ被告人證人ノ訊問鑑定人ニ對スル鑑定命令文書又ハ檢證物ノ五官ニ依ル實驗ナリトス故ニ證據物件ニ付テハ檢證ハ證據調ニシテ證據方法ニ非サルナリ證據調トシテハ裁判官カ證據方法ノ内容ヲ了得スルノミナラス被告人ニモ之ヲ了得セシメサルヘカラス其方法トシテハ被告人ニ其内容ヲ告知シ又ハ實驗セシメ之ニ關シ被告人ニ意見反證ヲ申立ツル機會ヲ與ヘサルヘカラス（刑訴法一八九條、一九七條、一九八條、二二六條、二三八條、三三九條、二一九條）

證據調ハ前ニ述ヘタル如ク證據方法ニ付テ之ヲ爲スヘキモノニシテ證據方法特ニ實體法ヲ適用スル事實認定ニ關スル證據方法ニ付テハ證據調ヲ必要トスルモノナリ若シ此必要ナル證據調ヲ爲サスシテ事實ヲ確認シ判決ヲ爲シタルトキハ上告ノ理由ト爲ルヘシ（同法二六八條）

第四段 自由心證主義

刑事訴訟法ハ前ニ述ヘタル如ク實體的眞實發見主義ヲ採用シタルヲ以テ裁判官ハ實體的眞實ナリト思考シタル事實ニ基キ裁判ヲ爲ササルヘカラス故ニ證據調ノ結果證明ノ目的タル事實カ眞實ナリト確認スルコト能ハサルトキハ其事實ニ基キ裁判ヲ爲スコトヲ得サルナリ假令證據調ニ依リ得タル證據方法ノ内容カ實體的眞實ナリトスルモ裁判所之ヲ眞實ナリト確認スルコト能ハサルトキハ之ヲ採用シ裁判スルノ義務ナキモノトス斯ク裁判官カ證據方法ノ内容ノ眞實ナリヤ否ヤヲ自己ノ判斷ニ因リ自由ニ取捨スルコトヲ得セシムル主義ヲ稱シテ自由心證主義ト云フ

居ル者ニハ名譽職ヲ辭スルコトノ出來ル餘地ヲ考ヘテアリマス。次ニ既ニ一度名譽職ヲ勤メテ其義務ヲ盡シタル人間、ソレハ年限ヲ限ラデアリマスガ、或ル一定ノ時期以上公ケノ名譽職ヲ勤メタル人間ニハ、更ニ又名譽職ヲ負擔セシメルト云フハ酷ナ事デアリマスカラ、サウ云フ人ニ對シテハ名譽職ヲ辭スルコトヲ許シテアリマス。次ハ市會ナリ町村會ニ於テ、其他ノ理由デアラモ道理アル理由ト認メタ場合ニハ、矢張り名譽職ヲ辭スルコトガ出來マス。

若シ以上申シマシタ六種ノ理由ナクシテ猥リニ名譽職ヲ辭シタル者ニ對シテハ、制裁ヲ加ヘルコトニナラ居リマス。其制裁ハドウ云フ制裁デアルカト云フト、特別ニ其者ニ對シテ稅ヲ餘計課スル。モウ一ツハ公民權ヲ停止スル。此二ツノ制裁ヲ市町村會ノ議決ヲ以テ、如ヘルコトガ出來ルノデアリマス。所ガ實際ニ於テハソレヲ濫用スルコトノ生ズル虞ガアル、例ヘバ市町村ノ内ニ憎マレテ居ル人間ガアツテ、其人間ハ名譽職ニ選バレテモ家ノ事情デ名譽職ニ就クコトノ出來ナイモノト假定スル、サウスルト其人間ノ名譽職ニナレナイノヲ承知シテ應ト之レヲ選舉スル。ソコデ其人間ハ家ノ事情ニ依ラデドウシテモナレナイカラ辭シタイト云フコトヲ市町村會ヘ申出ル、市町村會ニ於テハ全ク家ノ事情デ勤メルコトハ出來ナイモノダト云フコトヲ知ツテ居ラモ、市町村ノ仲間カラ憎マレテ居ル爲ニ、市町村會ニ於テハ辭スル理由ガ無イト議決シテ仕舞フ、サウスルト其人間ハ理由ナクシテ名譽職ヲ辭スルモノナリトシテ制裁ヲ加ヘラレル、即チ公民權ヲ停止セラレルノミナラズ、稅ヲ増課セラレルコトニナル。サウ云フコト

ガアツテハ困リマスカラ、其爲ニ救済ノ途ヲ設ケテアリマス。救済ノ途ト云フハ市町村會ノ議決ニ依ツテ名譽職ヲ辭シタル制裁トシテ公民權ヲ停止セラレ、或ハ税ヲ増課セラレルト云フコトニ對シテ不服ノアツタ場合ニハ行政訴訟ヲ行政裁判所ニ提起スルコトニナツテ居リマス。其順序ハ市ナラバ先ヅ府縣參事會ヘ訴願シテ、其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナラバ行政裁判所ヘ出ル。町村ナラバ先ヅ郡參事會ヘ訴願シ、其裁決ニ不服ナラバ府縣參事會ヘ訴願スル。ソレデ尙ホ其裁決ニ不服ナラバ行政裁判所ヘ出ル。詰リ行政訴訟ノ道ヲ設ケテ之ヲ救済シテアリマス。

第四款 公民權ノ停止及喪失

「刑法上ノ公權ヲ停止セラタ場合ニハ、公民權ヲ有ツテ居ツテモ其公民權ハ矢張り停止セラレルコトニナリマス。」新刑法ニハ公權停止ノ規定ナキモ刑法施行法第二十八條ニ人ノ資格ニ關シ舊刑法ノ刑名ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシトアルヲ以テ公民權ハ公權停止ノ爲ニ停止サルノデアリマス而シテ公權停止ノ場合カ刑法施行法第三十六條ニ規定シテアリマス。ソレカラ商法ノ上ノ破産トカ、商人以外ノモノナラバ家資分散トカ、詰リ財産上ノ信用ヲ失ウタヤウナ境遇ニ陷イッタトキハ、自分ガ其財産上ノ信用ヲ恢復スルニ至ルマデ、即チ破産ヲ受ケタモノハ復權ヲスルマデ、家資分散モ其通りデアリマスガ、其間ハ公民權ヲ停止セラレルコトニナルノデアリマス。モウツハ租税ノ滯納處分デ、租税ト云フモノハ

納期ガアリマシテ其期日マデニ納メナケレバナラスノデアアルガ、ソレヲ納メルコトノ出來ナイモノハ滯納處分ヲ受ケル。其處分ト云フハ其滯納シタ者ノ財産ヲ差押ヘル、ソレデモ尙ホ納メナケレバ今度ハ其差押ヘタ財産ヲ公賣ニ付スル、ソウシテ其得タ金ノ中カラ租税ノ金ダケヲ引去ツテ殘餘ハ本人ニ返シテヤル。コレガ租税ノ滯納處分デアリマスガ、其處分ヲ受ケタ間ハ公民權ヲ停止スルコトニナツテ居リマス

公民權ヲ喪失スル場合ハドウカト云フニ、公民ノ要件ヲ失ッタトキガ即チ公民權ヲ喪失スルコトニナル譯デアリマス。例ヘバ公費ノ救済ヲ受ケルトカ、或ハ直接國稅ヲ納メタ者ガソレヲ納メナクナッタトカ、町村ノ負擔ヲ分任シテ居ツタ者ガ分任シナクナッタト云フ如キ場合ハ、其要件ヲ失ッタノデアアルカラ公民權ヲ喪失スルコトニナルノデアリマス

第三節 市町村ノ機關

第一款 市町村會

第一項 議員ノ選舉

市町村ノ機關ノ中デハ、市町村會ガ最も大切ナル機關デアリマス。市町村ト云フ團體ノ意思ハ此市町村會ニ依ツテ現ハレテ來ルノデアリマシテ、之ハ市町村ノ意思機關デアリマス。即チ市町村ノ腦髓ニナル最も大切ナルモノデアリマス。ソレデ先ヅ此市町村會ノ方カラ御話ヲシヨウ

ト思ヒマス。

此市町村會ハ市町村ニ各各一ツアルモノデアリマシテ、一ノ市ニハ市會ト云フモノハ一ツシカナイ。一ノ町村ニハ町村會ハ一ツシカナイデアリマス。其一ツノ會デ總テノ事ヲ議決スル。國會ノ方ハドウカト云フト、之ハ貴族院及ビ衆議院ノ二ツカラ成立ッテ居リマスケレドモ、市町村會ノ方ハ只ダ一ツノ會カラ成立ッテ居ルデアリマス。ソレカラ國會デハ貴族院ノ方ハ人民ノ選舉ニ依ラナイ、或ハ華族カラ出デ、或ハ多額納稅者ノ中カラ選バレ、又ハ勅命ニ依ッテ親任サレルデアリマス。只ダ衆議院ノ方ハ人民カラ直接ニソレヲ選ブコトニナッテ居リマス。市町村會ノ方ハドウカト云フト、總テ人民カラ選舉セラレルコトニナッテ居リマス。

第一 選舉方法

選舉ノ方法ニハ種種アリマシテ、直接選舉、間接選舉、或ハ等級選舉、平等選舉ト云フヤウナ區別ガアリマスガ、此市町村會議員ノ選舉ノ方法ハ直接選舉ニシテ且ツ等級選舉デアリマス。今此等級選舉ヲ説明スル前ニ、直接選舉ヲ用ヒタ理由ヲ説明致シテ置キマス。

直接選舉ニ對シマシテハ間接選舉ト云フモノガアリマスガ、日本デハ重モニ直接選舉ノ方ヲ用ヒテ居リマシテ、間接選舉ヲ用ヒテ居ルノハ極ク少ナイデアリマス。其直接ト間接ト違フ點ハ、直接選舉トハ人民ガ、直接ニ其議員ヲ選舉スルノヲ指シマス、間接選舉トハ人民ガ或ル者

ヲ選舉スルモノヲ選舉シテ、更ニ其選バレタ選舉人ガ外ノ者ヲ選舉スル。斯ウ云フコトニナルノデアリマシテ、詰リ手續ノ間ニ一階段ガ出來テ居ル、即チ選舉ヲスルモノヲ一度選ブト云フ段階ガ這入ッテ居リマス。ソレデ其利害ヲ言ヒマスト、間接選舉ノ方ハ先ヅ一般人民カラ選バレタ人間ガ選舉人ニナルデアリマスカラ、比較的物ノ分ッタ人間ガ選舉人ニナル、而シテソレガ議員ナラ議員ヲ選舉スルコトニナリマスカラ、ドウシテモ其選舉ノ結果ニ當ヲ得ルコトノ望ミガ多イデアリマス。併シ間接選舉ニ於テハ次ノ如キ缺點ガアル、即チ間接選舉ニ於テハ人民一般ヲシテ選舉ニ冷淡ナラシメル、即チ自分ノ選ブ人間ガ直接ニ議員ニナルノデナクシテ只ダ選舉人ヲ選ブ丈ケデアルト云フ考デアリマスカラ、自カラ選舉ト云フモノヲ冷淡ニ見ルコトヲ免カレナイ、次ニ間接選舉デアリマスト人民一般ガ希望シテ居ラナイ所ノ人間ガ其選舉ノ結果トシテ選バレテ出ルト云フコトガアルカモ知レナイ、ト云フノハ人民ガ一旦選舉人ヲ選ンデ、其選舉人ガ自分ノ好キナ人ヲ選ブデアリマスカラ、人民全體カラ言フト非常ニ不人望ナ、非常ニ憎マレテ居ルヤウナ人ガ却ッテ議員ニナルト云フコトガ生ズルカモ知レヌ。ソレデハ選舉ト云フ制度ヲ設ケル目的ニ背クコトニナリマスカラ、此間接選舉ヲ用ヒナイデ、重モニ直接選舉ノ方ヲ用ヒテ居ルデアリマス。從ツテ市町村會議員ノ選舉ニ付イテモ、直接選舉ヲ用ヒテ居リマス。

次ニ等級選舉ヲ用ヒタ理由ヲ申シマスガ、等級選舉ニ對スルノハ平等選舉デアリマシテ、平等

選舉ト云フノハ或一定ノ資格ヲ有ツテ居ル者ハ、誰デモ同等ニ選舉スルコトノ出來ルト云フモノデアリマス。之ニ對シマシテ等級選舉ノ方ハ選舉ノ資格ヲ有ツテ居ツテモ、其選舉人ノ間ニ等級ヲ立テマシテ、選舉權ヲ行フ上ニ付イテ等差ガ出來テ居ルノデアリマス。ソコデ何故ニ市町村會議員ノ選舉ニ於テハ平等選舉ヲ用ヒズシテ等級選舉ヲ用ヒテ居ルカ、又日本ニ於テハ外ノ一般ノ選舉ニ何故ニ平等選舉ヲ用ヒテ居ラナイカト言ヒマスルト、先づ後ノ點即チ一般ニハ此等級選舉ヲ用ヒテ居ラヌト云フ點カラ申シマスガ、平等選舉ト云フノハ選舉人ノ間ニ階級ヲ設ケナイデ選舉人タルノ資格ヲ與ヘラレタモノハ總テ平等ニ選舉スルコトニナリマスカラ、一寸考ヘルト不公平ノヤウデアルケレドモ、併ナガラソレニ等差ヲ立テルト云フコトハ餘程困難ナコトデ、縱シ等差ヲ立テテモ到底希望ノ如ク公平ナ結果ヲ望ムコトハ出來ナイコトデモアルカラシテ、ソレデ平等ニシタノデアアル。獨リ是レノミナラズ、議會ニ於テ議員ノ發言スル場合ニ於テモ、其議員ノ中ニハ有力ナ政治家モアリ、又才能知識ノ優レテ居ル人モアルケレドモ、其議決ヲスル時ニハドウカト云フト、凡庸ナル議員ト同時ニ表決ヲスルノデ、甲ノ人物ハエライカラ甲ノ表決權ハ何票ノ値打ガアル、乙ハエライ人間デナイカラ乙ノ表決權ハ一票ノ價值シカナイ、斯ウ云フ等差ヲ立テルト云フコトハ餘程困難ナ事デアルカラ、議會ノ議決ノ場合ニハ總テ平等ニ表決ヲヤツテ居ル、即チ頭數デ數ヲ勘定シテ行クノデアアル。ソレト同ジク選舉ノ場合ニ於テモ、選舉人ノ間ニ等差ヲ設ケルト云フコトハ困難デアルカラ、寧

ロ不公平ノヤウデアアルケレドモ平等ニシテ置クガ宜イト云フノデ平等選舉ヲ用ヒテ居リマス。

然ルニ市町村ニ限ツテ等級選舉ヲ用ヒテ居ルノハ、此市町村ノ如キ小ナル團體ニ於テ、而カモ其自治團體ニ於テ、其行政ヲ圓滑ニ行ツテ行クト云フニハ、貧民モ富者モ其間ガ圓滑ニ行クト云フコトガ必要デアアルノデアラ、若シ金持チト貧乏人ノ間ニ感情ノ衝突ナダガアツテハ到底自治行政ヲ良クヤツテ行クトハ望ムコトガ出來ナイノデアアル。之レハ大キナ團體ニ於テモ其間ノ圓滑ヲ圖ルト云フ必要ガ無イコトハアリマセスケレドモ、小ナル團體ニ於ケル程必要デハナイ、小ナル團體ニ於テハ其團體員ノ圓滑ヲ圖ルコトガ非常ニ必要デアアル、恰モ一家ノ内ニ於テ其一家族全體ガ圓滿ニ往カナケレバ一日モ愉快ナル生活ガ成立ツテ往カナイト同ジ様ニ、小ナル團體ニ於テハ其關係ト云フモノガ非常ニ必要デアアル。ソコデ同一ノ團體中ニ於キマシテ、富者即チ税ヲ多ク納メテ居ルヤウナ實力ノ多イ人ニハ選舉權ヲ多ク與ヘ、貧民即チ税ノ負擔ノ輕キモノニハ選舉權ヲ少ナク與ヘルヤウニシテ其間ノ調和ヲ保ツテ行クナラバ、萬事圓滑ニ行ハレル。又貧乏人ノ方が數ノ上ニ於テハドウシテモ多イノデアアルカラ、若シ之レヲ平等選舉ニスルト此實力ノ少ナイモノガ自分ノ都合ノ好イ議員ヲ多數選舉スルコトガ出來ル、而シテ其多數ヲ賴ンデ實力ノ少ナイモノニ都合ノ好イヤウナ行政ヲスルコトニナルト、實力ノ多イモノハ其爲ニ非常ナ不利益ヲ蒙ルコトニナツテ來ルカラ、其間ガ圓滑ニ行クト云フコトハ望ムアレ

スノデアアル。併シ貧者ノ方ハ數ハ多イケレドモ其各人ニ對スル選舉權ハ少ナク與ヘル、富者ノ方ハ數ハ少ナイガ各人ニ對スル選舉權ハ多ク與ヘルト云フコトニスレバ、富者ノ方カラ出ル議員ノ數モ從テ多クナツテ來ル、以テ其間ノ調和ヲ保ツコトガ出來、又圓滑ニ行クコトガ出來ル。斯ウ云フ譯デ市町村ニ於テハ等級選舉ヲ立テ居ルノデアリマス。

ソレデ此等級選舉ヲドウ云フ具合ニ用ヒテ居ルカト云フト、市會ニ於テハ三級選舉、町村會ニ於テハ二級選舉ヲ用ヒテ居リマス、併シ其等級ノ立テ方ニ至ッテハ兩方共ニ同一デアリマシテ、詰リ選舉人ノ納メル税ノ額ニ依ッテ選舉人ノ間ニ三級トカ二級トカ云フ等級ヲ立テルノデアリマス。

ソレカラ此等級選舉ト云フモノハ、選舉人ノ方ニ等級ヲ立テルト云フコトデ、議員ノ方ニハ何ニモ等級ト云フコトハナイ。詰リ選バレル方ニハ等級ハナイ。ソレカラ選バレル所ノ議員ノ間ニモ無論等級ハナイノデス。只ダ選ブ選舉人ノ間ニ等級ガ立テラレルト云フ丈ケノコトデア

ル。ソレデ今市會議員選舉ノ等級ノコトヲ御話致シマス、此等級ノ立テ方ハ選舉人ノ納メル所ノ直接市税ノ總額ヲ三分シマシテ、而シテ其税ヲ最多ク納メル者カラ順次ニ其三分ノ一ノ額ニ充ツル迄ノモノヲ一級選舉人トスルノデアリマス。ソレダカラ直接市税ヲ多ク納メル者ハ一級選舉人トナル。ソレカラ其一級選舉人ヲ除イタ以外ノ直接市税ヲ多ク納メル者ヲ、更ニ順次ニ

取ッテ直接市税總額ノ三分ノ一ニ至ルマデノモノヲ二級ニ入レル。サウシテ其殘リノ選舉人ハ皆三級ヘ入レルノデアリマス。例ヲ以テ之レヲ示セバ、愛ニ市ノ選舉人ノ納メル直接市税ノ總額ヲ三萬圓トスル、其三分ノ一ト云フト即チ一萬圓ニナルソレデ選舉人ノ具合ハ

甲	五千圓
乙	三千圓
丙	二千圓
丁	千五百圓
戊	千五百圓
巳	千圓
庚	千圓
辛	千圓

以下略

斯ウ云フ具合デアアルトスルト、甲乙丙ノ納税額ヲ合スルト一萬圓ニナルカラ、此三人ヲ以テ一級選舉人トスル。元ヨリ此數ハ一人デモ二人デモ三人デモ十人デモ構ハス、税ノ額次第デ種種ニナル。ソコデ此甲乙丙ヲ除イテ今度ハ丁カラ順次ニ採ッテ納税額一萬圓ニナル迄ノモノヲ二級選舉人トスル殘リヲ皆三級トスルト云フノデアリマス。

所ガ若シ一人ノ者ガ總額ノ三分ノ一以上ヲ納メテ居ル場合ニハ如何ニナルカ、例ヘバ市ノ直接市税ノ總額ガ三萬圓トシテ、一人ノ人ガ二萬圓納メテ居ルトカ、或ハ一萬五千圓納メテ居ルトカ、兎ニ角一萬圓以上ヲ納メテ居ル場合ニハドウナルカト云フト、一人ノ選舉人ガ一級二級ノ兩方ニ屬スルコトハ出來ナイ、一ノ級ノ選舉人ニシカナレナイモノデアルカラ、爰ニ二萬圓ヲ甲カラ甲ト云フ一人デ納メテ居ル者ガアツテモ、即チ一人デ總額ノ三分ノ二ヲ納メテ居ツテモ、其人ハ一級選舉人ニナル。サウシテ總額三萬圓ノ中カラ此二萬圓ヲ引イテ、残り一萬圓ヲ二ツニ分ケテ、甲ヲ除イタ以外ノ人デ順次ニ五千圓ニナル迄ノモノヲ二級トシ、残りヲ三級トスル。一萬五千圓デモ同ジコトデ、其一萬五千圓ヲ一人デ納メテ居ルモノヲ一級トシ、残りノ一萬五千圓ヲ二分シテ、順次ニ七千五百圓ニ至ル迄ノモノヲ二級トシ、残りヲ三級トスル。一萬圓以上ハ皆此例ニ依ル。此場合ハ前ニ申シマシタノトハ少シ違フテ居ル、前申シタ所ニ依ルト一級選舉人ノ納税額ノ全體ヲ合セマス、總額ノ三分ノ一ニ當ル。二級選舉人ノ全體ヲ合セマシテモ、矢張り總額ノ三分ノ一ニ當ル。三級選舉人ノ全體ノ納税額モ矢張り三分ノ一ニ當ルヤウニナツテ居リマスガ、此ノ後ノ場合ハサウハ行カス。一人デ二萬圓納メテ居ルト云フノデ、残りハ仕方ガナイカラ半分ニシテヤリマス。之レヲ前ノ場合ノヤウニスルト一人デ一級二級ノ選舉人トナリ、残りノ者ハ皆三級選舉人ニナル譯デスガ、若シ一人デ一級選舉人トナリ二級選舉人トナルコトガ出來ルトスルト、一人デ三分ノ二ノ議員ヲ選ブコトニナル。ソレデハ餘リ其一人ノ人

ニ權力ガ付キ過ギマスカラ、ソレデ一人ノ人デ一級以上ニハナレナイト云フノデ、如何ニ澤山税ヲ納メテモ其人ヲ一級トシ、残りヲ二分シマシテ二級選舉人、三級選舉人トスルノデアリマス。

尙モウ一ツ注意シテ置キマスガ、斯ウ云フ場合ガアル、總額ハ矢張り三萬圓デ、

- 甲 五千圓
- 乙 三千圓
- 丙 三千圓
- 丁 二千圓

此場合ニ甲乙丙三人ノ納額ヲ合セマス、一萬千圓トナル、即チ此丙ハ兩方ヘ跨ルヤウニナル、併シ一人デ兩方ヘ入レルコトハ出來マセヌカラ、此時ニハ上ノ級ヘ入レル。丙ヲ一級ヘ入レルト一萬圓以上ノ額ニナリマスケレドモ、ソレハ仕方ガナイ。

- 甲 五千圓

乙 三千圓
丙 二千圓
丁 二千圓

同ジモノガ二人アツテ、ソレガ一人シカ這入ラナイト云フ場合、即チ丙ヲ入レルカ、丁ヲ入レルカト云フ此場合ニハドウスルカ、斯ウ云フ時ニハ其市ニ住居スル年數ノ多キモノヲ以テ上級ニ入レル、若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ、年齡ニ依ッテ年長者ヲ上級ニ入レルト云フコトニシテアリマス、若シ年齡モ同年デアルトキハ、已ムヲ得マセヌカラ抽籤デ之レヲ定メルコトニシテアリマス。

斯ノ如ク市ニ於テハ選舉人ノ間ニ等級ヲ立テマシテ、一級選舉人二級選舉人三級選舉人ト云フ三種ノ選舉ヲ設ケルノデアリマス

其選舉ハドウ云フ様ニシテヤルカト云フト、議員ノ數ヲ三分致シマシテ、一級選舉人ガ其一分ヲ選ブ、二級選舉人ガ其一分ヲ選ブ、三級選舉人ガ又其一分ヲ選ブコトニナリマス。故ニ一級選舉人ハ如何ニ少數デアッタモ議員ノ總數ノ三分ノ一ヲ選ブ、三級選舉人ハ如何ニ多數デモ三

分ノ一シカ選バナイト云フコトニナリマス。即チ一級選舉人ハ一人デモ三分ノ一ダケノ議員ヲ選ブコトガ出來ル、ソコガ選舉人ノ間ニ等級ヲ設ケタ趣意ニ叶フノデ、詰リ稅ヲ餘計納メル所ノ一級選舉人タルモノハ數ガ少ナクテモ割合ニ議員ノ數ハ多ク選ブ、投票用紙ハ一枚デモ其選舉ノ效果ハ多イノデアリマスカラ、之ヲ他ノ方面カラ言ヘバ選舉權ヲ餘計有ッテ居ル結果ニナル。ソレ故ニ稅ヲ餘計納メルモノハ優ッタ選舉權ヲ有ツ、或ハ多ク選舉權ヲ有ツト云フ結果ニナルノデアリマス

此等級選舉ヲ主張スル者ハ、一級選舉人ハ富者デアル、二級選舉人ハ中等社會デアル、三級選舉人ハ貧民デアル、此富者ト中等社會ト貧民トノ三階級ヲ代表シテ各各其間ニ選舉人ニ等差ヲ付シテアルカラ、此三級調和ガ宜シク出來ルノデアルト言ヒマスガ、實際事實ノ上ニ於テハ此主張ノ通りニ爲ッテ居ラナイ。日本バカリデナイ獨逸デモ、佛蘭西デモ、其他ノ國デモ實際ハナカ〜理論通りニ旨ク行ッテ居ラス。

チヨット御參考ニ一言申シテ置キマスガ、實際ハドウデアルカト云フト、一級選舉人ト二級選舉人トヲ合シタ者ノ數ハ選舉人全體ノ殆ンド十分ノ一シカナイ。十分ノ九ハ三級選舉人ガ占メテ居ルト云フ有様デアル。例ヘバ選舉人ノ總數ガ千人デアルト其中デ一級選舉人ト二級選舉人ヲ合シテ僅カニ百人、餘ノ九百人ハ三級選舉人ト云フコトデアル。之レ何レノ國ニ於テモ皆ナウ云フ事實ヲ呈シテ居ルノデアリマス。尤モ所ニ依ッテハ一級二級合セテ十分ノ一以上ノコト

モアリ、又十分ノ一以内ノコトモアル、ソレハ幾分ノ違ヒアルケレドモ、大體ニ於テハ此數ノ比例ニ甚シキ差異ガナイ。サウスルト一級、二級合シテ十分ノ一ト云フノデアルカラ、之ヲ社會ノ上カラ見ルト社會ノ内ノ十分ノ一ト云フ數ハ大體ニ於テ財産ヲ有ツテ居ル者ノ社會ト見ナケレバナラス、即チ財産家富者ト云フモノガ一級、二級ノ選舉人デ、中流及ビ貧民ノ社會ガ三級選舉人ト云フヤウナ順序デアル。前ニ申ス富者ガ一級ヲ代表シ、中等社會ハ二級ヲ代表シ、貧民ガ三級ヲ代表スルト云フ理想ト實際トハ合ツテ居ラス。一級二級合シテ漸ク十分ノ一シカナイカラ、ドウシテモ一級、二級ハ富者ガ占メル、三級ハ中流及ビ貧民ガ占メルト云フヤウニナリマスカラ、ドウモ此等級ノ立テ方ハ實際ヲ申スト餘リ完全デハナイト考ヘルノデアリマス。其點ハ獨逸ナドニモ非難ガアリ、日本デモ非難ガアル。コレハ御參考ニ申上ゲテ置キマス。次ニ町村ノ方ハドウカト云フト、コレハ二級選舉ニナツテ居リマス。大體ハ市ト同ジコトデアリマシテ、コレハ二級デアリマスカラ町村ノ選舉人ノ納メル直接町村税ノ總額ヲ二分シマシテ、サウシテ最モ多ク納メル者カラ其二分シテ額ニ至ル迄ノ者ヲ一級選舉人トスル、残りヲ二級選舉人トスル。其間ヘ跨ツテ居ル者ハ上ノ級ヘ入レル、同ジク兩方ヘ跨ツテ居ツテ納税額ガ同一ナル者アルトキハ、町村ニ住スル年限或ハ年齢ハ抽籤ニ依ツテ定メルコトモ、市ノ場合ト同ジデアリマス。市ノ時ニ於ケル説明ト大體ニ於テ變リマセス。議員ノ數モ二分致シマシテ、一等選舉人ガ其一分ヲ選舉シ、二級選舉人ガ他ノ一分ヲ選舉スルノデアル。

斯ノ如ク種種ノ級ノ選舉人ヲ設ケテ選舉ヲスルニ付イテハ、選テ方ハ階級ハアリマスケレドモ、選バレル方ニハ階級ハアリマセスカラ、一級選舉人ガ三級選舉人ニナツテ居ル人ヲ議員ニ選ンデモ、又二級選舉人ガ一級選舉人ニナツテ居ル人ヲ議員ニ選ンデモソレハ自由デアリマス。即チ選バレル方ニ等級ノ制限ハナイ、コレハ市ニ於テモ町村ニ於テモ同ジデアリマス。ソレカラ選舉ヲ行フ時ハ、下カラ段段ニ行フコトニナツテ居リマス。即チ市デハ三級選舉ヲ行ツテカラ二級選舉ヲ行ヒ、次ニ一級選舉ヲ行フ。町村デハ二級ヲ行ツテ一級ヲ行フ。決シテ一時ニ行ハナイデ、下カラ階級ヲ追ツテ行フコトニナツテ居リマス。

第二 選舉區

市ノ方ハ大體選舉區ヲ設クルコトニナツテ居リマスガ、町村ノ方ニハ選舉區ヲ設クルト云フコトハ無イ。併シ市ノ方デモ必ズ設クルト極ツテ居ル譯デハナイノデ、今日日本ノ市ニ於テハ東京、京都、大阪ノ三市丈ケニ區ト云フモノガアリマス、其區ヲ以テ選舉區トシテ居リマスガ、外ノ市ニ於テハ選舉區ヲ設ケテモ設ケナクテモ自由デアリマシテ、只ダ市ノ必要ニ應ジテ選舉區ヲ設クルコトガ出來ルトナツテ居ル。必ズ設ケナケレバナラスト云フ譯デハナイ。町村ノ方ハ設クルコトガ出來ナイノデス、町村ニ於テハ選舉分會ト云ウテ投票ヲスル丈ケノ區ヲ設クルコトガ出來ルノミデ、選舉區ハ設クルコトガ出來ナイトナツテ居ル。

此選舉區ト投票區ト異ナル點ハ、選舉區ハ其區域内ニ於テ議員ヲ定メル區デアリマス、即チ爰ニ一ノ選舉區ヲ設ケル、其選舉區内ニ於テ投票ヲ計算シテ其多數ヲ得タ者ヲ以テ議員ト定メルノデアリマス。投票區ハ只投票ヲ集メル丈ケデアリマシテ、其投票區内ノ投票丈ケデハ議員ハ定マラナイ、之レハ投票ヲスベキ場所ガ離レテ居ルトカ何トカ云フノデ、人民ガ其選舉ノ場所マデ行クノガ不便デアルト云フ所カラ、只便宜上投票ヲスル場所ヲ假リニ設ケタニ過ギナイ。故ニ其附近ノ者ガ其處ヘ行ツテ投票ヲスルト云フ丈ケノモノデアリマス。其所ノ投票ハ其選舉區内ノ外ノ投票全體ト集メテ議員ヲ定メルノデアル。

サウ云フ譯デアリマスカラ、此選舉區ニ於テハ矢張り選舉區丈ケノ等級ヲ立テナケレバナラス。其選舉區毎ニ一級二級三級ト等級ヲ定メテ行ク譯ニナルノデアリマス。ソレカラ場合ニ依ツテハ選舉區ヲ設ケルニ付テ、一級選舉人ノ人數ガ少ナイカラト云フノデ、一級選舉人ニ付テハ選舉區ヲ設ケナイデ二級三級ノ選舉人ニ付テ選舉區ヲ設ケルコトガアリマス。併シサウ云フコトハ殆ンド例外デ、先ヅ普通ノ場合ハ各級ノ爲ニ選舉區ヲ設ケル、即チ其選舉區毎ニ一級選舉、二級選舉、三級選舉ヲ行フノデアリマス。

一體此選舉區ト云フモノハ選舉ノ便宜ノ爲ニ設ケルモノデアリマス。大キナ所ニナルト選舉人ノ數モ從ツテ多イ、サウ云フ所デハ一ツ所ニ選舉區内ノ選舉人ノ投票全體ヲ集メテ當選人ヲ定メルト云フコトハ困難デアリマスカラ、幾ツモ選舉區ヲ設ケテ其選舉區ノニ於テ議員ヲ定メ

(1) 官有地カ有租地トナリタルトキ 官有地ノ地下又ハ下渡ヲ得テ有租地トナリタルトキハ其地價ヲ設定スヘキモノトス但地租條例第一六條第五項ニ依リ新開免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ其期間ノ終了スル迄地價設定ヲナサス

(2) 無期免租地カ有租地トナリタルトキ(地租條例第一一條ニ無期免租地ト稱スルハ地租條例第一四條ニ規定スルモノノミナラス特別法ヲ以テ無期ニ地租ヲ免スルコトヲ規定シタルモノヲモ包含ス)

又公共團體カ公用ニ供スル土地ニシテ公用ヲ廢止シタル場合ニモ地價ヲ設定ス

(3) 新開免租年期明ト爲リタルトキ(地租條例第一九條)官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸セシ土地ニシテ新開免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ其年期終了スレハ地租ヲ課スヘキ土地トナルヲ以テ地價ヲ設定ス

(二) 地價設定ノ方法

地租條例第九條ニ依レハ地租設定ノ方法ハ(1)土地ノ品位等級ヲ設定シ(2)其土地ノ所得ヲ審査シ(3)其土地ノ情況ニ應シ定ムヘキノトセリ

(1) 土地ノ品位等級ヲ設定スルハ近傍類地ト其地力ヲ比較シ其地ノ品位等級ヲ選定スルヲ云フ而シテ地價ハ常ニ近傍類地トノ均衡ヲ保ツコトヲ要スルヲ以テ地價ヲ定メントスルニハ先ツ近傍類地ノ地力ニ比較シテ其品位等級ヲ設定シ以テ近傍類地ノ地價ト不均衡ナカラ

シムルヲ要ス

(2) 土地ノ所得ヲ審査スルトハ其土地ノ收益ヲ審査シ且公課其他必要ノ費用ヲ調査シ純益ヲ査定スルヲ云フ地價ハ土地ノ收益ニ比例シテ定ムヘキモノナルカ故ニ地價ヲ定ムルニ當リ其土地ノ所得ヲ審査スルハ緊要ナリトス而シテ地租改正當時ニ於ケル地價算出方法ハ收益ヨリ公課其他必要ノ費用ヲ控除シタル殘額ヲ或ル元本ヨリ生ズル利子ト見積リ其利子ヲ還元シテ定ムタルモノナリ現今ノ取扱亦同一ニシテ地租條例第九條ニ於テ土地ノ所得ヲ審査シ云云トアルハ即チ此精神ニ外ナラサルナリ

(3) 其土地ノ情況ニ應シトハ交通ノ便否罹災ノ多少等ヲ參酌スルヲ云フ而シテ地價ハ收益ニ比例スヘキモノナリト雖モ唯單ニ收益ニノミ着眼セス其土地ノ情況ヲ參酌スルコトハ生産力ヲ測度スルニ於テ甚タ必要ナリトス故ニ之ヲ地價設定上ノ要件トシタル所以ナリ

(三) 土地ノ丈量

地價設定ニ方リテハ其土地ノ面積ヲ知ラサルヘカラサルカ故ニ其地盤ノ丈量ヲ要ス(地租條例第五條)

第二 地價ノ變更

土地ノ利用狀態ノ變更ニヨリ收益ニモ亦變動ヲ生スヘキヲ以テ收益ヲ基礎トシテ定メラレタル地價モ亦收益ノ變動ニ伴ヒ變更セサルヘカラサルナリ故ニ地價修正トハ適法ニ成立シタル地價

ヲ法律ノ規定ニ從ヒテ變更スルコトヲ謂フモノナリ

(一) 地價ノ變更ヲナス場合

(1) 地目變換

地目變換ヲナシタルトキハ直ニ地價ノ修正ヲ爲ス(地租條例第一〇條第二項)然レトモ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノニシテ地租條例第一六條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年限ノ許可ヲ得タルトキハ其年期明ノトキ地價ヲ修正ス(地租條例第一九條)

(2) 地類變換

地類變換ヲ爲シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス(地租條例第一〇條)

(3) 開墾

開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス(地租條例第一六條第二項)茲ニ成功ト云フハ地力成熟シ耕地若クハ宅地トシテ完全ニ利用シ得ヘキ狀態ニ至リタルモノヲ云フナリ故ニ若シ十年目ニ至ルモ成功セザルトキハ地價ヲ修正スルコトヲ得ス(地租條例第一六條第二項)

茲ニ注意スヘキハ地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ地價ヲ修正ス(地租條例第一六條第二項但書)蓋地類變換ハ前ニ説明スルカ

如ク第一類地ヲ第二類地ニ變更シタル場合ニシテ變換以前ノ土地ハ耕地若クハ宅地ナクシテ以テ變換後多クノ年月ヲ經過セサルニ於テハ普通開墾ニ比シ勞費ヲ要スルコト少ナクシテ足ル場合多キノミナラス耕地若クハ宅地トシテ完全ニ利用シ得ヘキニ至ルニハ多クノ年月ヲ要セサルトノ理由ニ依リコノ特例ノ設ケラレシモノナラン

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲シ鐵下年期ノ許可ヲ受ケタルモノハ鐵下年期明ニ至リ地價ヲ修正ス(地條例第一九條)

(4) 荒地免租年期明ニ至リ復舊セサルモノニ低價年期ヲ付與セラレタルモノニシテ其低價年期明ニ至リ尙ホ復舊セサルモノ又ハ他ノ地目ニ變換シタルモノハ地價ヲ修正ス(條例第二二條) 此場合ハ荒地以前ノ原狀ニ復セサルヲ以テ原地價ニヨリ地租ヲ課スルコトヲ得サルカ故ニ地價修正ヲナスノ必要アリ

(二) 地價修正ノ方法及ヒ土地丈量

地價修正ノ方法ハ地價設定ノ方法ト同シキヲ以テ説明セス土地丈量ヲ要スルコトモ亦同シ

第三 地價復舊

地價ノ復舊トハ有地租ニシテ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタルモノ其年期明ニ至リ前地目ト異ナラサル利用狀態ニ復シタルトキハ地租ヲ課スルカ爲メ免租以前ノ地價ニ復スルヲ云フ而シテ此場合ハ之ヲ地價ノ設定ナリト云フモノアリト雖モ免租年期中ハ地租ノ賦課ヲ免シタルノミニシ

テ荒地免租年期ノ許可ト同時ニ課稅標準タル地價ハ當然ニ消滅シタルモノニアラスシテ地價ハ依然トシテ存在シ唯年期中地租ヲ徵收セサルニ過キサルモノナレハ地價ヲ新ニ設定スルノ必要ナシ之ヲ法文ニ徵スルモ年期明ニ至リ原地價ニ復ス(地租條例第三〇條)トアリテ其地價設定ニアラスシテ原地價ニ復スモノナルコトハ明カナリトス

地價復舊ノ場合ハ(一)荒地免租年期明ニ至リタルトキ(條例第二〇條)(二)荒地ニシテ免租年期經過スルモ復舊セサルモノニ低價年期ヲ付與シ其低價年期中ノトキ(地租條例第二一條)是ナリ

第四 地價分配

地價ハ一筆ノ土地毎ニ定ムルモノナレハ一筆ノ土地ニシテ分割シテ數筆トナリタルトキハ地價ヲ分配ス地價分配トハ一筆ノ土地ニ存在セシ既定ノ地價ヲ分筆シタル土地ヲ分配スルヲ云フ此場合ハ地價設定ニアラス又地價修正ニアラスシテ既定ノ地價ヲ變更セス分割ノ割合ニ應ジテ地價ヲ按配スルモノナリ

一筆ノ土地ヲ分筆スヘキ場合ハ左ノ如シ

- 一筆ノ土地中一部分カ(一)別地目トナルトキ(二)有租地ニシテ免租地トナルトキ(三)免租地ニシテ有租地トナルトキ(四)所有者異ニスルトキ(五)質權ノ目的トナルトキ(六)百年ヨリ長キ存續期間ノ定メアル地上權ノ目的トナルトキ是ナリ(地租條例施行規則第二條)

第五 地價併合

數筆ノ土地ヲ合一シテ一筆ノ土地トナシタルトキハ數筆ノ既定地價ヲ併合シテ一筆ノ地價トナスモノナリ此場合モ既定地價ヲ變更スルニアラスシテ之ヲ合一シタルニ過キサルモノナレハ地價設定又ハ地價修正ニアラサルナリ

第六節 稅率

地租ハ左ノ稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課スルモノナリ(地租條例第一條)

- (一) 宅地ハ地價百分ノ二個半
 - (二) 田畑ハ地價百分ノ四個七
 - (三) 其他ノ土地ハ地價百分ノ五個半
- 右ハ一般ニ適用セラルル稅率ナレトモ北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依リ地租ヲ徵收セラルルモノナリ(地租條例第一條第二項)
- (一) 田畑ハ地價百分ノ三個四
 - (二) 其他ノ土地ハ地價百分ノ四個
- 地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ(地租條例第一條第三項)

第七節 納期

納期トハ地租ノ納稅義務ヲ履行スヘキ期間ナリ而シテ納期ニ一般ニ適用セラルルモノト特別ノ處ニ適用セラルルモノトノ二種アリ

(一) 一般ノ納期 地租條例施行地内ニ於テ特ニ納期ヲ定メサルモノハ皆左ノ納期ニヨリ地租ヲ納付スヘキモノトス(地租條例第一二條)

宅地	
第一期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限	地租額二分ノ一
第二期 其年一月一日ヨリ同一月三十一日限	地租額二分ノ一
第一期 其年十二月十六日ヨリ翌年一月十五日限	地租額四分ノ一
第二期 其年二月一日ヨリ同二月末日限	地租額四分ノ一
第三期 其年三月一日ヨリ同三月三十一日限	地租額四分ノ一
第四期 其年五月一日ヨリ同五月三十一日限	地租額四分ノ一
田	
第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限	地租額二分ノ一
第二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限	地租額二分ノ一
其他ノ土地	地租額二分ノ一

地租條例第一二條末項ニ依レハ特殊ノ事情アル地方ニシテ普通ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納期ヲ設クルコトヲ得而シテ現ニ其規定アルモノハ左ノ如シ

(1) 沖繩縣宮古郡八重山郡ノ地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス(三十五年勅令第二七七號)

一期 該年八月一日ヨリ 田地租全部
同月三十一日限 畑地租五分

二期 翌年三月一日ヨリ 宅地地租全部
同月三十一日限

三期 翌年五月一日ヨリ 畑地租五分
同月三十一日限 田畑宅地以外ノ地租全部

但宮古郡多良間八重山郡大濱間切波照間切及ヒ與那國島ノ地租ハ翌年六月一日ヨリ九月三十日限之ヲ徵收ス

(2) 沖繩縣島尻郡中頭郡國頭郡及ヒ那霸區首里區ノ地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一期 該年七月一日ヨリ 市街宅地地租五分
同年七月三十一日限

二期 同 八月一日ヨリ 田地租
同 八月三十一日限 郡村宅地地租全部

三期 翌年一月一日ヨリ 市街宅地地租五分
同 一月三十一日限

四期 同 三月一日ヨリ 畑地租五分
同 三月三十一日限

五期 同 五月一日ヨリ 畑地租五分
同 五月三十一日限 田畑宅地以外ノ地租全部

但島尻郡島嶼ノ地租ハ翌年六月一日ヨリ九月三十日限リ之ヲ徵收ス

第八節 罰則

(一) 土納ヲ欺隱シ地租ヲ逋稅スルモノハ四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(地租條例第二五條) 此ニ欺隱ト云フハ所有地ノ一部カ他人ニ屬スルカ如ク裝ヒ又ハ所有地ノ一部ヲ課稅セサル土地ノ如ク裝ヒタルカ如キ場合ヲ云フ一例ヲ舉グレハ地價ヲ定メ又ハ之ヲ修正スヘキ場合ニ於テハ當該官吏ハ實地ニ臨ミ土地ヲ丈量シ其地價ヲ評定スヘキモノナルカ故ニ當該官吏カ土地ノ丈量地價ノ査定ヲ爲サントスルニ當リ申告書ニ土地ノ一部ヲ除キテ記載シ實地檢査ノ場合ニ於テ其餘キタル部分ハ他筆ニ屬スルカ如キ申立ヲ爲シ之ニ依リ地價ノ査定ヲ免レタル如キ場合ナリ然レトモ土地ノ整理シタルコト現今ノ如クナレハ土地欺隱ヲナスヘキ場合少ナカルヘシ

(二) 豫メ政府ノ許可ヲ受ケス又ハ届出ヲ爲シタルニアラスシ地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地トナシ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地トナシタルニ拘ハラス政府ニ届出テサル場合(地租條例第一一條)ニ於テハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(地租條例

第二六條

(三) 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタル場合(地租條例第一〇條第一項) 開墾ヲ爲サントスル場合(地租條例第一六條第一項)ニ政府ニ届出ヲ爲ササルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徴ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス(地租條例第二七條)

(四) 地租條例第二五條以下ノ所犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有者ヨリ追徴スヘキモノトス(地租條例第二八條)

(五) 地租條例第二五條第二六條第二七條第二八條ノ刑ニ當ルモノ自首スルトキハ其罰金科料ヲ免シ其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシムルモノナリ(地租條例第二九條)

第九節 地租ノ免除及ヒ延納

第一 地租ノ免除

地租ハ年年同一ノ課稅標準ト稅率トニヨリテ賦課セラレ年ノ豊凶ニ依リ増減セサルヲ原則トス(地租條例第二條) 從テ收穫音無ノ年アリトスルモ 地租ハ免除セラルヘキモノニアラス 蓋地租ノ課稅標準タル地價ハ土地ノ收益ヲ基礎トシテ定メタルモノナレトモ一旦地價カ設定セラレタル以上ハ法定ノ事由ノ存在セサル限りハ之ヲ變更シ得ヘキニアラス且年年同一ノ地價及ヒ稅率

ニ依リ地租ヲ賦課セラレ年ノ收益ノ有無及ヒ多寡ハ毫モ之ヲ顧ミル所ニアラサレハナリ果シテ然ラハ此ノ如ク土地ノ收益ノ如何ニ關セスシテ年年同一ノ稅率ニヨリ地租ヲ賦課スルハ收益稅ノ性質ト相容レサルモノノ如シ然レトモ地租ノ課稅標準タル地價ハ土地ノ收益ヲ基礎トシテ設定セラレタルモノナルカ故ニ之ヲ收益稅ナリト斷スルモ不當ニアラサルヘシ若シ嚴格ニ收益稅ノ理論ヲ貫徹センカ年年ノ收益ヲ計量シテ課稅セサルヘカス而シテ如此スヘキモノトセハ官民相互其煩ニ堪ヘス且凶歉相踵タカ如キハ稀有ノ現象ニシテ其多クハ年年ノ收益ニ大差ナキヲ常トスルカ故ニ一旦收益ヲ基礎トシテ確立シタル地價ヲ變更セス且年年同一率ニ依リ地租ヲ賦課スヘキコトヲ定メタルモノナリ是レ地租條例第二條ノ精神トスル所ナリ而シテ既ニ地租條例第二條ニ於テ年ノ豊凶ニ依リ地租増減セストノ大原則ノ確立スル以上ハ特別ノ法規ノ存在セサル限りハ假令收穫音無ナルトキト雖地租ハ之ヲ免除スヘキモノニアラサルハ當然ナリ然レトモ此原則ニ對スル例外アリ即チ明治三十四年四月法律第二十七號是ナリ同法律ハ水害ニ因リ收穫皆無ニ屬シタル土地ハ地租ヲ免スル旨ヲ定ム

茲ニ一言注意セサルヘカラサルコトアリ水害ノ爲メニ土地ノ形狀ヲ變シ其生産力ヲ喪失シ利用ヲ完ウスルヲ得サル狀態ニ至レハ其土地ハ荒地トナリ一定年間免租ノ土地トナル(地租條例第三條第五項) 反之本法ニ依リ免租セラルヘキ場合ハ其被害カ土地ノ形狀ヲ變セス利用狀態ニ變更ヲ來サス從テ生産力ヲ喪失スルニ至ラサルモノナレトモ其年ノ作物ノ生育ヲ害シ又ハ發熟ヲ

害シタルカ爲メニ收穫ノ皆無ニ歸シタルニアリ換言スレハ荒地ハ或災害ノ爲メ土地ノ形狀ヲ變シ土地其ノモノカ既ニ利用シ得ヘカサルニ至ルニアリト雖モ本法ノ場合ハ土地其モノハ利用狀態ニ何等變更ヲ來ササルモ水害ノ爲メニ作物ニ害ヲ及ホシ果實ノ收取ヲ不能ニ歸セシメタル場合ナリ故ニ荒地ハ土地ノ利用性ヲ滅却スルモノナルヲ以テ田畑ニ限ラス他ノ一般有租地モ被害性アリ反之本法ハ果實ノ元本ヲ喪ヒ又ハ元本ヨリ果實ヲ收取スルコト能ハサルノ狀態ニ至リ收穫皆無トナリタルモノナルヲ以テ田畑以外ハ被害性ヲ有セサルナリ

左ニ條文ヲ掲ケ序ヲ遂ウテ之ヲ説明セントス

明治三十四年四月法律第二七號

一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ亘レル水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其年分ニ限り之ヲ免除ス

前項ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケントスル者ハ罹災後三十日內ニ主務官廳ニ申出ツヘシ此期間內ニ申出テサルモノハ免租ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

附則(略ス)

前上ニ掲ケタル條文ヨリ推究スレハ免租ノ要件ハ左ノ如シ

(一) 府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ亘レル水害アリシコト。

(二) 水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタルコト

(三) 水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタルモノハ田畑ナルコト

(四) 罹災後三十日內ニ主務官廳ニ申出ツルコト

以下此ノ要件ニ就テ説明スヘシ

(一) 一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ亘レル水害アリシコト

一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ亘レル水害トハ罹災區域ノ稍稍廣大ナルコトヲ表明シタルモノニシテ單ニ一小部分ノ區域ニ於ケル罹災ノ如キハ之ニ包含セサルモノト云ハサルヘカラス從テ其小區域ニ於ケルモノハ假令收穫皆無カ水害ノ原因セル場合ナリトスルモ免除ノ特典ヲ受クヘキモノニアラサルナリ若シ如此小部分ノ罹災モ免租ノ特典ヲ受クヘキモノトセハ一筆ノ田畑カ水害ニ依リ收穫皆無ナリシト雖モ尙免租セサルヘカサルニ至ルヘシ是レ本法ノ主意ニアラス故ニ第一ノ要件中ニハ(一)水害アリシコト及ヒ(二)其水害ハ區域ノ廣大ナルコトノ二要素ヲ含ムモノト解セサルヘカラス若シ水害ノ區域ノ廣狹ヲ問ハサルモノトセンカ法文ニ「一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ亘レル水害ニ因リ云云」ト規定スルヲ要セス單ニ「水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租云云」ト規定スルヲ以テ足ル然ルニ一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ナルコトヲ表示シタルハ其罹災區域ノ廣大ナルコトヲ豫期シタルノナルコトヲ推知スルニ難カラス

- (一) 水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタルコト
收穫皆無ノ原因ハ水害ニ限ル是レ法文ニ明示スル所ナリ從テ水害以外ノ災害假ハハ風害、虫害、雹害、火災旱害等ニヨリ收穫皆無ニ歸シタルトキト雖モ免租ノ限リニアラス
- (二) 水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル土地ハ田畑トナルコト
收穫皆無トハ果實ノ元本ヲ滅シ又ハ其生産性ヲ滅シ以テ果實ノ收取ヲ不能ナラシムル狀態ニ在ルヲ云フ而シテ此狀態ヲ現出シタル土地ハ必ス田畑ナルコトヲ要スルニアリ之ヲ田畑ニ限定シテ他ノ地目ニ及ハサルハ田畑以外ノ被害ハ果實ノ元本ヲ滅スルカ如キコトアリトスルモ其收穫ハ年々豫期シタル收益ニアラサルモノナルヲ以テ被害ノ點ニ於テ田畑ト同一視スヘカラサルモノアレハナリ是レ無收穫ノ土地ハ田畑ニ限定セル所以ナリ
- 收穫皆無ハ如何ナル作物ニ付キ定ムルカ法律何等明文ヲ掲ケスト雖モ其主作物ニアルハ明カニシテ副作物ノ無收穫ニ及ハサルモノナリ
- (四) 罹災後三十日內ニ主務官廳ニ申出ツルコト
罹災後三十日內ニ主務官廳ニ申出ツ要スル所以ハ時日ノ經過ト共ニ被害ノ狀況カ水害ナリシヤ否ヤヲ認ムル能ハサルニ至ルカ故トリ又申告ヲ要スルトセシハ免租ヲ求ムルノ意思表示ヲ必要トセシモノニシテ免租ヲ求ムルト否トハ所有者ノ任意トセシモノナリ故ニ主務官廳カ被害ノ現狀ヲ知悉スルモ自働的ニ免租處分ヲナスヘキモノニアラサルナリ

第二 地租ノ延納

地租ハ年々一定ノ時期ニ於テ納付スヘキモノニシテ各納期ニ法定ノ額ヲ納付スルノ外分納ヲ許ササルモノナリ地租條例第一二條ハ一般のニ地租ノ納期ヲ規定シ以テ之ヲ明ニセリ故ニ特別ノ條規ナキ限リハ原則トシテ地租ノ納期ハ總テ該條ノ支配ヲ受ケサルヘカラス然ルニ田畑ノ地租ニ付テハ一定ノ事由ノ存在スル場合ニハ法定ノ納期ニ拘ハラス十年以內ノ期間ヲ以テ年賦延納ノ許可ヲ得テ之ヲ分納スルコトヲ得ルモノナリ是レ一般ノ法定納期ニ對スル一ノ例外ニ屬ス而シテ地租ノ年賦延納ヲナシ得ヘキ場合ニ關シテハ明治三十六年六月法律第三號ヲ以テ規定セリ左ニ條文ヲ掲ケテ説明スヘシ

明治三十六年六月法律第三號

災害又ハ天候不順ニ因リ府縣及ヒ北海道ノ全部若クハ一部ニ亘リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ニ付テハ十年以內ノ期間ヲ以テ年賦延納ヲ許可スルコトヲ得

前項ニ依リ延納ノ許可ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其事實ヲ證明シ主務官廳ニ出願スヘシ

本法ニ依リ延納ヲ許可シタル地租ハ法律上總テ納稅資格中ヨリ控除セス

本法ニ依リ被害調査中ハ地租ノ徵收ヲ猶豫ス

本法ニヨリ地租ノ年賦延納ヲ得ントスルニハ左ノ要件ノ具備スルコトヲ要ス

- (一) 災害又ハ天候不順ハ府縣及ヒ北海道ノ全部若クハ一部ニ亘レルコト
 - (二) 災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタルコト
 - (三) 收穫皆無ノ土地ハ田畑ナルコト
 - (四) 被害現狀ノ存スル間ニ於テ其實ヲ證明シ主務官廳ニ願出ツルコト
- 是ナリ以下各要件ニ付説明スヘシ

(一) 災害又ハ天候不順ハ府縣及ヒ北海道ノ全部若クハ一部ニ亘レルコト
是レ其被害區域ノ廣大ナルコトヲ表明シタルモノナリ其詳細ハ三十四年法律第二十七號ニ依ル
地租免除ノ場合ニ説明シタルヲ以テ茲ニ之ヲ説明セス

(二) 災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタルコト
災害トハ人爲以外ノ事變即チ天災地變其他自然の禍害ヲ云フ例ヘハ地震、洪水、風害、旱害、
虫害、雹害、火災ノ如キ是ナリ此ノ如ク災害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタルトキハ延納年賦ヲ許
可ス然レトモ水害ニヨリ收穫皆無ニ歸シタルモノハ明治三十四年法律第二十七條ニ依リ免租處
分ヲ受クルコトヲ得ヘキヲ以テ本法ニ所謂災害中ニハ水害ヲ除外シタルモノト解スルヲ至當
トスト論スルモノアレトモ誤レリ本法ニハ災害中水害ヲ除外スト云ハサルノミナラス水害後
三十日內ニ免租ヲ申請セス從テ免租ノ恩典ニ浴スルコトヲ得サル者モ被害ノ現狀ノ存スル間
ニ於テ延納ヲ出願スルトキハ之ヲ許可スルヲ至當トスヘキヲ以テナリ

天候不順トハ一定ノ時季ニ於ケル氣溫、氣壓溫度ノ不適合ナル場合ヲ云フ例ヘハ春時ニ於ケ
ル氣溫、氣壓、溫度ハ或程度ノモノナラサルヘカラサルニ或ハ高ク或ハ低クシテ其季節ニ適
合セサルノ謂ナリ而シテ之レカ原因ヲナシテ作物ノ生育ヲ害シ又ハ其發熟ヲ害シ爲メニ果實
ノ收取ヲ不能ニ歸セシメタル場合ナリ

(一) 收穫皆無ノ土地ハ田畑ナルコト

法律第二十七號ニ依ル地租免除ノ際ニ述ヘタル所ニ同シ

(四) 被害現狀ノ存スル間ニ於テ其實ヲ證明シ主務官廳ニ出願スルコト

法律第二十七號ニ依ル免租ノ場合ハ罹災後三十日以内ニ出願スヘキモノナルニ本法ニ依リ年賦
延納ヲ出願スルニハ被害現狀ノ存スル間ニ於テスルヲ要スルハ主トシテ被害事實ノ證明及ヒ
主務官廳ノ調査ヲ容易ナラシムルカ爲メナリ

以上説明スルモノノ外ハ法文ヲ一讀スレハ判明スヘキヲ以テ別ニ説明セス

第十節

社會ノ發展ニ伴ヒ都市ノ宅地ノ需用漸次増加スレハ宅地ノ價格昂騰シ昔日ノ比ニアラス而シテ
宅地價格ノ昂騰ハ賃貸料ノ増大モ亦其一原因タルハ爭フヘカラサルノ事實ナリ觀テ他ヲ視レハ
社會發展ノ餘惠ヲ蒙ラサル僻陬ノ地カ交通機關ノ完備ノタメ舊來ノ面目ヲ一變シ繁盛ノ地トナ

リ又繁盛ナリシモノ反テ衰況ヲ現出シタルモノアリ是ニ於テカ土地ノ價格ニ變動ヲ來シ又其收益(賃貨料)ニモ亦増減ヲ生シタルヲ以テ昔日ニ定メタル地價ハ今日ノ現狀ニ違セサルモノアリ之カ均衡ヲ保全セントセハ勢ヒ地價修正ヲナササルヘカラサルノ必要ヲ生スルニ至ル由來地租ハ土地ノ收益ニ課スルモノナルカ故ニ其收益ノ増減ニ伴ヒ收益ヨリ定メタル地價モ亦更改セサルヘカラサルハ勿論ナリ而シテ其結果ヤ地租モ變更セサル可ラサル必要ニ迫ラル政府ハ茲ニ觀ル所アリ明治三十九年第二帝國議會ニ宅地價修正法案ヲ提出シタルモ決議ニ至ラスシテ會期盡キタリシモ爾來精査ヲ加フルコト二年明治四十二年第二六帝國議會ニ再ヒ同法案ヲ提出シ兩院ノ協賛ヲ得遂ニ明治四十三年三月法律第三號ヲ以テ宅地地價修正法ヲ發布シタリ續キテ同年四月勅令第二〇三號ヲ以テ其施行規則ヲ發布セリ余ハ同法ニ基キ序ヲ逐フテ講説セントス

第一 地價修正ノ方法

(一) 地價修正ノ範圍

地價修正ヲナス可キ土地ハ宅地ナリ而シテ宅地トハ建物敷地ニ供用スル土地ニシテ郡村宅地及ヒ市街宅地ヲ包含ス(宅地地價修正法第一條)郡村宅地トハ村落又ハ小市街ニ於ケル建物敷地ニ供用スル土地ヲ云ヒ市街宅地ハ市街ニ於ケル建物敷地ニ供用スル土地ヲ云フ

左ノ宅地ハ本法ニ依リ地價ヲ修正シタル類地ノ比準ニ依リ地價ヲ修正スヘキモノナリ(宅地地價修正法附則第一八條第二〇條)

- (1) 本法施行後明治四十三年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ地租條例ニ依リ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル宅地

(2) 本法施行前耕地地價整理法又ハ明治三十年法律第三九號ニ依リ耕地ノ整理又ハ土地ノ改良ニ着手シ事業成功ニ至ラサル地區域内ニアル宅地

左ノ場合ニ於テハ本法ニ依リ地價ヲ修正ヲ爲サス或事故ノ經過シタルトキ類地ノ比準ニ依リ其地價ヲ修正ス(宅地地價修正法附則第一九條第二一條)

- (1) 荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル宅地ハ年期明ニ至リタルトキ
- (2) 荒地免租年期ヲ有スル宅地ニシテ低價年期ヲ許可セラレタルトキハ其年期明ニ至リタルトキ

(3) 開墾着手後九年ヲ經過セサル宅地又ハ鎮下年期若クハ地價据置年期ヲ有スル宅地ハ開墾着手後十年目又ハ年期明ニ至リタルトキ

(二) 賃貨價格

賃貨價格トハ貸主カ借主ニ土地ノ使用收益ヲナシムル反對給付トシテ收受スル金額ヲ云フ本法ニ於テ之カ定義ヲ下セリ曰ク貸主カ公課、修繕費其他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃貨スル場合ニ於テ貸主ノ取得スヘキ金額ヲ云フ(宅地地價修正法第三條第三項)

(三) 賃賃價格ノ決定

賃賃價格ノ決定ハ宅地賃賃價格調査委員會ノ調査ニ依リテ政府之ヲ決定ス(宅地地價修正法第四條一項) 若シ調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ之ヲ再調査ニ付ス(同法第四條二項) 又(1)調査委員會成立セサルトキ(2)調査委員會ノ調査ニ付シタル日より六十日以内ニ調査終了セサルトキ(3)調査委員會ノ再議ニ付スルモ其決定仍ホ不當ト認ムルトキ(4)調査委員會ノ再議ニ付シタル日より二十日以内ニ調査終了セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ決定ス(同法第四條三項) 此等場合ニ於テ政府決定ヲ認メタルハ蓋シ調査機關タル調査委員會ノ調査力事實上爲シ能ハサルカ若クハ其調査力不適當ナルトキ及ヒ調査委員會ノ調査遅延ニ流レル等總テ調査機關ノ職務ヲ完全ニ踐行スルコト能ハサルヲ以テ政府ニ於テ決定スルノ外途ナケレハナリ

(四) 調査委員會

調査委員會ハ宅地賃賃價格ヲ調査スルノ機關ナリ故ニ原則トシテハ此機關ノ參與ナクシテハ政府直チニ決定スルヲ得サルナリ然レトモ(一)ニ述ヘタル如ク調査委員會カ職務ヲ踐行スル能ハサルカ又ハ職務ノ踐行力不充分ナルトキハ此機關ノ參與ヲ要セスシテ決定スルヲ得ルナリ

(1) 調査委員會ノ組織

各稅務署所轄内ニ宅地賃賃價格調査委員會ヲ置ク但稅務署所轄内ニ市制ヲ施行スル地方ヲ包含スルトキハ市制ヲ施行スル地方ト其他ノ地方トニ區別シテ之ヲ置クモノニシテ(宅地地價

修正法第六條第一項) 調査委員ノ定數ハ十人ナリ然レトモ地方ノ狀況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得ルモノナリ(同法第六條第二項)

(2) 調査委員ノ選舉

調査委員ノ選舉ハ複選法ニシテ先ツ調査委員選舉人ヲ選舉シ其當選人調査委員ヲ選舉スルモノトス(宅地地價修正法第七條第一項)

(イ) 調査委員選舉人ノ選舉

調査委員選舉人ノ資格ハ選舉執行ノ日ニ於テ現ニ地租名寄帳ニ宅地地租納稅者トシテ登錄セラルル者ナルコトヲ要ス但左ノ者ハ選舉資格ヲ有セス

(一) 無能力者

(一) 身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ及ヒ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定セサル者

(二) 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

(四) 六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

(五) 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ舊刑法ノ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ終ラサルモノ是ナリ(宅地地價修正法第一〇條)

調査委員選舉人ノ定數ハ其選舉區域内ニ於テ宅地ノ地租ヲ納ムル義務アル者五十人ニ付一人トス若シ納稅義務者千人以上ナルトキハ二十人ニ止メ納稅義務者五十人未滿ナルトキハ一人トス(宅地地價修正法第八條)而シテ其選舉區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘキモノトス(宅地地價修正法第九條)調査委員選舉人ノ選舉事務ハ市町村長ニ於テ執行スルモノトス(宅地地價修正法施行規則第一條)尤モ其選舉期日ハ稅務署長ニ於テ之ヲ定メ少クモ選舉期日二十日前市町村長ニ通知スヘキモノナリ市町村長ハ稅務署長ヨリ選舉期日ノ通知ヲ受ケタルトキハ選舉期日十五日前ニ其選舉期日ヲ公示スヘキモノトス(宅地地價修正法第二條)

調査委員選舉人ノ選舉ハ記名投票ヲ以テ之ヲ行フモノニシテ投票ハ一人一票トシ選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘキモノトス(宅地地價修正法第三條)

調査委員選舉人ノ選舉ハ投票ノ多數ヲ得タルモノヲ以テ當選トス投票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム(同施行規則第五條)此選舉ヲ終リシタルトキハ市町村長ハ直チニ當選人ノ氏名ヲ公示シ且稅務署長及ヒ當選人ニ通知スヘキモノナリ(同施行規則第六條)若シ調査委員選舉人ノ選舉ニ於テ當選人定數ニ達セサルトキハ其不足ノ員數ニ對シ更ニ選舉ヲ行フヘキモノトス(施行法第九條)

(v) 調査委員ノ選舉

(一) 選舉區域 調査委員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依ル(宅地地價修

正法第九條)調査委員會ヲ置クヘキ區域ハ稅務署ノ所轄ノ區域ト同シト雖モ若シ稅務署所轄内ニ市制ヲ施行スル地方アルトキハ其市制施行ノ地方ト其他ノ地方トヲ區域シ右其區域ヲ以テ調査委員會ヲ置クヘキ區域トス(宅地地價修正法第六條第一項)故ニ稅務署所轄内ニ市制ヲ施行スル地方ヲ包含スルモノニ在リテハ二ヶ以上ノ調査委員會ヲ設置セサルヘカラス

(二) 選舉ノ方法 調査委員ノ選舉ハ稅務署長ノ執行スルモノニシテ稅務署長ハ調査委員ノ選舉期日ヲ定メ少クモ其十五日前ニ選舉執行ノ旨ヲ公示シ且之ヲ調査委員選舉人ニ通知シ而シテ後ニ調査委員ノ選舉ヲ執行スヘキモノナリ而シテ調査委員選舉ノ投票ニ記載スヘキ被選舉人ノ數ハ調査委員ノ定數ノ五分ノ一トス但一人未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一人トシテ計算ス投票ニ記載シタル被選舉人ノ人員地價修正法施行規則第七條第二項ニ定メタル數ニ不足スルトキト雖モ其投票ハ之ヲ有效トス投票ハ記名投票ニシテ選舉人ハ自ラ投票所ニ至リ被選舉人ノ氏名ヲ記載シテ投票スヘキモノトス而シテ投票ハ一人一票ニ限ルモノナリ(宅地地價修正法施行規則第七條)

調査委員ノ選舉ハ調査委員選舉人之ヲ選舉スルモノナリ(宅地地價修正法第七條第一項)而シテ當選者ハ投票ノ多數ヲ得タルモノナレトモ投票ノ數同シキモノアルトキハ年長者ヲ取り同シキ生年月ナルトキハ抽籤ノ法ニヨリ之ヲ定ムヘキモノナリ(宅地地價修正法

施行規定第五條

稅務署長ハ調査委員ノ選舉ヲ終了シタルトキハ直ニ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人ニ通知スヘキモノナリ(宅地地價修正法施行規則第八條)若シ調査委員ノ選舉ニ於テ當選人定數ニ達セサルトキハ其不足ノ員數ニ對シ更ニ選舉ヲ行フモノトス

茲ニ一言注意スヘキハ調査委員選舉人又ハ調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ次點者ヲ以テ之ヲ補フコトナリ其得點數同シキトキハ施行規則第五條ニ依リ年長者ヲ取り同シキ生年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ定メ之ヲ補充スヘキモノトス

(三) 調査委員被選資格 調査委員ニ選舉セララルノ資格ハ選舉執行ノ日ニ當該選舉區域内ニ於テ現ニ地租名寄帳ニ宅地地租納稅者トシテ登錄セラレタルモノトス但左ノ者ハ此限ニアラス

(一) 無能力者

(一) 身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ及ヒ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者

(三) 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

(四) 六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタルモノ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレ復權ヲ得サル者

分チテ節トシ更ニ節ヲ分ツコトアルモノニシテ豫算ノ上ニ表ハルルコト無ク從テ彼此相流用スルヲ認メラレタル科目ナリトス蓋シ豫定經費要求書ニモ豫算ノ各項目ヲ更ニ區分シテ各目トナシ尙ホ必要アルトキハ番號ヲ付シテ之ヲ細分スルコトナレルヲ以テ行政上ノ整理ノ爲メ之ヲ存スルモノトス參照ノ爲メ左ニ豫算ノ目次ノ大要ヲ掲ケン

豫算

第一條 明治四十三年度歲入歳出總額ヲ各五億三千四百十七萬二千七百六圓ト定ム其款項ノ金額ハ別冊甲號歲入豫算歳出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其規畫スル所ニ隨ヒ明治四十三年度以降ノ繼續費ト爲シ若クハ既定ノ總額年限金額ヲ改定ス

第三條 明治四十三年度歳出豫算中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌明治四十四年度ニ繰越使用スルコトヲ得

第四條 明治四十三年度ニ於テ發行スル大藏省證券最高額ハ八千萬圓トス
甲號

歲入經常部

第一款 租稅 金三億二千二百五十五萬八千七百七十二圓

(一六項)

第二款 印紙收入 金二千四百十八萬八千五百十九圓

(一項)

第三款 官業及官有財產收入 金一億二千五百六十一萬二千七百八十圓

(一五項)

第四款 雜收入 金三百六十四萬五千二百十六圓

(九項)

第五款 預金利子繰入 金七百八十四萬九千八百二十二圓

(一項)

第六款 臺灣事業公債及借入金償却繰入 金五百十五萬四千八百十五圓

(一項)

歲入經常部合計 金四億八千八百九十三萬九千五百六十四圓

歲入臨時部

第一款 官有物拂下代 金二百一十一萬八千八百十六圓

(六項)

第二款 雜收入 金四百八萬三千八百八十六圓

(四項)

第三款 地方分擔納付金 金百三十一萬三千九百一圓

(一項)

第四款 港灣設備納付金 金六十萬圓

(一項)

第五款 公債募集金 金三百四萬五千圓

(一項)

第六款 森林資金繰入 金二百九十七萬四百五十圓

(一項)

第七款 陸軍營繕費補充資金繰入 金十一萬圓

(一項)

第八款 軍艦水雷艇補充基金繰入 金一千六十八萬九千五百八十六圓

(一項)

第九款 貨幣整理資金繰入 金六萬二千八百三十三圓

(一項)

第十款 學校及圖書館資金繰入 金七萬五千四百九十五圓

(一項)

第十一款 賦納金 金四十四萬七千七百三十九圓

(一項)

第十二款 前年度繰入金 金一千九百七十二萬八千九百三十八圓

(一項)

歳入臨時部合計 金四千五百二十四萬三千四百四十一圓

歳入總計 金五億三千四百七十七萬二千七十六圓

歳出經常部

第二款 皇室費 金四百五十一萬圓

外務省所管

三款二十二項アリ

外務省所管合計 金四百二十五萬六千六百七十三圓

内務省所管

十一款五十三項アリ

内務省所管合計 金一千六百六十一萬三千三百五十三圓

大藏省所管

第一款 大藏本省 金三十七萬二千二百四十圓

(八項)

第二款 預金利子及手数料 金七百八十七萬三千三百一圓

(二項)

第三款 内閣 金三十一萬六千四百八十圓

(八項)

第四款 樞密院 金十八萬七百三十七圓

(四項)

第五款 貴族院 金八十四萬四千四百三十六圓

(五項)

第六款 衆議院 金百九萬六千四百五圓

(五項)

第七款 會計検査院 金二十二萬九千二百八十二圓

(五項)

第八款 行政裁判所 金七萬五千五百五十八圓

(四項)

第九款 馬政局 金百七十四萬九千六百十七圓

第十款 統監府 金九十六萬二千二百四十一圓
(八項)

第十一款 統監府司法及監獄費 金三百三十一萬八千六百六十四圓
(十項)

第十二款 稅關 金百八萬三千五百二十九圓
(七項)

第十三款 內國稅徵收費 金六百八十萬三千四百四十七圓
(九項)

第十四款 釀造試驗費 金五萬三千四百二圓
(三項)

第十五款 橫濱港維持費 金十六萬二千四百六十五圓
(二項)

第十六款 國資運用費 金百二十八萬八千二百八十五圓
(三項)

第十七款 諸拂辰及缺損補填金 金六百一十一萬五千圓

第十八款 輸出交付金 金五萬四千八百六十七圓
(二項)

第十九款 國債整理基金繰入 金一億五千四百二十四萬四千十二圓
(一項)

第二十款 軍艦水雷艇基金繰入 金一千六十八萬九千五百八十六圓
(一項)

第二十一款 諸支出費 金八萬二千八百五十六圓
(一項)

第二十二款 國庫豫備金 金三百萬圓
(二項)

大藏省所管合計金二億六十六萬二千二百九十一圓

陸軍省所管

六款四十二項アリ

陸軍省所管合計金七千六百二十八萬九千六百九十七圓

海軍省所管

十一款三十八項アリ

海軍省所管合計金三千八百九十九萬二千二百十圓

司法省所管

四款二十一項アリ

司法省所管合計金千百九十四萬七千五百六十二圓

文務省所管

十一款三十八項アリ

文務省所管合計金七百六十四萬七千九百二十圓

農商務省所管

十三款五十三項アリ

農商務省所管合計金七百三十一萬二千七百七十九圓

逓信省所管

七款三十九項アリ

逓信省所管合計金五千七百七十六萬六千八百八十圓

歲出經常部總計金四億二千九十八萬四千五百圓

歲出臨時部

各省所管ヲ通シ百十四款二百三十四項アリ

歲出臨時部合計金一億三千三百十九萬二千五百一圓

歲出總計金五億三千四百十七萬二千七百六圓

乙號

繼續費ノ總額年度割及説明ヲ掲載ス

丙號

翌年度繰越使用ノ明許ヲ要スルモノ及之ニ關スル説明ヲ掲載ス

右ハ明治四十三年度歲入歲出總豫算ノ大綱ヲ舉ケタルモノナリ

第八 豫算ノ提出

(一) 豫算提出ノ時期

既ニ總豫算ノ調製ヲナシ(法規上豫算ト稱スルモ未タ成立ニ至ラサルモノハ其實豫算案ナルコトヲ注意スヘシ)閣議ノ決定ヲ經タルトキハ之ヲ帝國議會ニ提出スルヲ要ス帝國憲法第六十四條ニ「國家ノ歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ」會計法第五條ニ「歲入歲出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ」トアルモノ即チ是ナリ

茲ニ「毎年」ト云フハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキ時期ヲ定メタルモノナルコトハ勿論ナルモ其ハ會計年度ヲ指セルモノナリヤ將タ曆年ヲ稱セルモノナリヤハ學者間議論ノ存スル所ナリ會計年

度ヲ指セルモノナリトスル論者ハ(イ)憲法第六十六條及第六十八條ニ用フル「毎年」及「年限」ナル文字ハ何レモ會計年度ヲ指スモノト見ルヘキヲ以テ第六十四條モ亦然ラサルヲ得ス(ロ)若シ曆年ト解センカ「協賛ヲ經ヘシ」トセシテ「提出スヘシ」トセサルヘカラスハ(ハ)豫算ハ年度ノ開始後ニ於テ效力ヲ生スルモノナルニ由リ三月末マテニ確定セハ足ルヘク強テ十二月末ニ限ルノ必要無カルヘシト論シ曆年ヲ稱スルモノナリトスル者ハ憲法上ノ用語ハ先ツ普通ノ意義ニ解スルヲ要シ普通ノ意義ニテ解釋シ得サルモノアルニ及ンテ始メテ特別ノ意義ニテ解スヘシ憲法第六十六條及第六十九條ト雖モ普通ノ意義ニテ曆年ト解スルモ差支ナキカ如シト說クモ吾輩ハ會計年度ヲ指セルモノナリトノ說ニ加擔セント欲ス獨逸帝國憲法第六九條ニ「帝國歲計豫算表ハ年度ノ開始前ニ於テ左ノ原則ニ依リ法律ヲ以テ確定ス」トアリ參照トスヘキナリ然レトモ豫算ノ議定ニハ少クトモ二三個月ノ日子ヲ要スルヲ常トスルヲ以テ其議定ニ必要ナル期間及豫算施行準備ニ要スル期間ヲ見込ミ其以前ニ於テ提出スルヲ要スルコト勿論ナリ次ニ會計法第五條ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ提出スヘシト規定セリ前年トハ豫算所屬年度ノ前年度ノ議會ノ意ニシテ例ヘハ明治四十三年度ノ豫算ハ同四十二年ノ議會ノ始メ即チ同年十一月頃ニ提出スヘキモノトスルナリ

終リニ追加豫算ハ總豫算ノ追加ニシテ會計法第五條ノ條件ニ依リ提出セラルルモノナルヲ以テ必シモ總豫算ト同時ナルヲ要セス却テ多クノ場合ニ於テハ後日ニ至リ提出セラル又特別豫算ニ

付テハ固ヨリ總豫算ニアラサルヲ以テ會計法第五條ノ拘束ヲ受クヘキモノニアラス然レトモ各特別會計法ハ何レモ歲出歳入ノ總豫算ト共ニ前年度ノ議會ノ始メニ提出スヘキコトヲ規定セリ作業會計法第六條、海軍工廠資金會計法第七條、帝國鐵道會計法第一〇條、國債整理基金特別會計法第九條等はナリ「豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲ス件」ハ豫算ニアラス然レトモ豫算ト關係スルコト密接ナルヲ以テ帝國議會ニ提出スヘキハ勿論(帝國憲法六二條三項)ニシテ我國ノ慣例ニ於テハ帝國議會ノ始メニ總豫算ト共ニ提出スルコトナレリ

豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スルモノトス(憲法六五條)是レ兩院制度ヲ存スル諸國憲法ノ原則ナリ(例ヘハ英、佛、普、米、伊、西等ニシテ瑞西ノ如キハ僅カニ之ニ反セリ)之ヲ下院ノ先議權ト云フ下院先議權ノ沿革ハ既ニ述ヘタル英國ノ代議院ニ於テ租稅案ノ先議ヲ得タルニ始マルモノナリ千六百七十八年ノ決議ニ「國王ハ第一ニ代議院ノ承諾ヲ求メサルヘカラサルヲ以テ租稅ノ賦課ハ先ツ代議院ニ於テ議決スルヲ例トス」トアリ蓋シ當時ハ租稅ヲ以テ人民ノ國王ニ對スル供給トナシ此供給ヲ承諾センニハ納稅者ノ選舉ニ成レル代議院ニ重ヲ措クノ必要アリタレハナリ然レトモ現今ニ於テハ豫算ハ租稅承諾權ノ行使方法ニアラサルヲ以テ此沿革上ノ理由ハ今日ノ制度ヲ説明スルモノニアラス即チ現今ニ於テハ下院ノ先議權ハ單ニ難キヲ先ニシ易キヲ後ニセントノ便宜上ノ問題ニ屬スルモノニシテ一般國民ノ利害ニ比較的關係ノ深キ下院ヲシテ先議セシムルナリ故ニ勿論是カ爲メニ衆議院ノ議決セルモノニ對シ貴族院ハ修正スルコトヲ得

スト云フカ如キ結果ヲ生スルモノニアラス

(二) 豫算提出ノ手續

豫算ハ各省所管毎ニ提出スルモノニアラス全部ヲ一括統一シテ提出スルモノナリ而シテ之カ提出ニ際シテハ内閣總理大臣及大藏大臣ノ連署ヲ以テ

明治何年度歳入歳出總豫算並明治何年度各特別會計歳入歳出豫算案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治何年何月何日

内閣總理大臣 氏 名
大藏大臣 氏 名

右ノ式ニ依リ提出スルノ例ナリ蓋シ大藏大臣ハ豫算ノ全體ニ通曉シ且ツ其編制施行ノ統一の職務ヲ有スルモノナルヲ以テ大臣ノ首班タル内閣總理大臣ト共ニ政府ヲ代表スルモノナリ

(三) 豫算ノ説明

豫算ノ説明ニハ口頭ニ依ルモノト文書ニ依ルモノトノ二アリ口頭説明トシテハ衆議院ニ於テハ豫算案提出後内閣總理大臣ノ施政方針演説ノ後ヲ承ケ貴族院ニ於テハ豫算ノ送付後大藏大臣ハ所謂財政演説ヲ爲シ豫算全體ノ要領ヲ説明シ其他本會及委員會ニ於テモ各大臣ハ豫算ニ關スル説明若ハ答辯ヲ爲スヲ例トスル是ナリ英國ノ「ブヂエット、スビーチ」ノ如キハ口頭説明ノ有

名ナルモノナリ

書面ニ由ル説明ニ付テハ會計法及會計規則之ヲ定ム其種類ニアリ一ヲ「冒頭説明」ト云ヒ他ヲ「添附文書」ト云フ

冒頭説明トハ歳計全體ニ關スル説明ニシテ總豫算ノ首ニ附ス會計規則第四條第一項ニ「總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ附スヘシ」トアルモノ是ナリ即チ現在ノ計書並ニ其過去ニ對スル比較増減及將來ノ見込トノ關係等ヲ概説シテ豫算通覽ヲ便トナスモノニシテ之ヲ八章ニ分チ第一章歳入歳出ヨリ歳入、歳出、歳出豫算中重要ナル事項、繼續費、補助費、繰越、國庫豫備金及大藏省證券等トスルヲ通例トセリ

次ニ添附文書ハ左ノ二種ヲ以テ重ナルモノトス

(イ) 各省ノ豫定經費要求書

(ロ) 歳入歳出現計書

會計法第六條第一項ニ「總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲メ左ノ文書ヲ添附スヘシ第一各省ノ豫定經費要求書但シ各項目ノ明細ヲ記入スヘシ第二其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書」ト規定セリ然レトモ添附文書ハ必シモ之ニ限ラレタルモノニアラス便宜上尙ホ其他ノ書類ヲモ添附スルコトヲ得ルモノニシテ現ニ我國ノ慣例ニ依レハ外ニ歳入豫算明細書、歳入歳出款項金額前年度比較表ヲモ添フルヲ普通トセリ

各省ノ豫定經費要求書トハ總豫算ニ對スル注釋の理由書トモ見ルヘキモノニシテ既ニ豫算調製ノ際ニ述ヘタルカ如ク會計規則第二章第二款ニ詳細ナル規定アリ其内容ノ如キモ單ニ立法科目ノミナラス項ヲ細分シテ目トナシ更ニ目ヲ分ナテ番號トスルコトアリ以テ經費所要ノ理由及計算ノ基ヲ所ヲ明ニシ且ツ經費要求書ノ全體ニ關スル説明及各款各項ノ説明ヲ其首ニ添付スルモノトス（會計規則第八條第九條第十條）豫定經費要求書ハ行政部内ニ於ケル會計ノ整理上一種ノ豫算ナリト稱セラルルモ其本質ハ決シテ豫算ト稱スヘキモノニアラス單ニ豫算審議ノ際ノ參考ニ充テシカ爲メノミ議會ハ決シテ之ヲ其議決ノ目的トスルモノニアラサルナリ

次ニ歳入歳出現計書モ亦議會ノ參照ニ資センカ爲メ添附セラルルモノニシテ之ニ付テハ會計規則第十四條及第十五條ニ

會計法第六條ニ掲タル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ八月三十一日ニ於ケル左ノ事項ノ現計ヲ示スヘシ

歳入ノ部 歳入豫算額、調定済歳入額、收入済歳入額、不納缺損額、收入未済歳入額

歳出ノ部 歳出豫算額、豫算決定後増加歳出額、仕拂命令済歳出額、翌年度繰越額、歳出

残額

ト規定セリ今簡單ニ其字句ノ解釋ヲ附センニ「其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度」トハ豫算提出ノ年ノ三月三十一日云云ノ義ニシテ例ヘハ四十二年十二月二十四年度ノ豫算會議ニ提出セラレタリトセハ其年三月三十一日ヲ以テ終リタル年度トハ四十一年度ヲ意味スルモノトス即チ豫算年度ヨリ之ヲ云フトキハ前前年度ノ現計書ヲ參考書トシテ提出セラルルコトナルナリ歳入豫算額トハ其年度内ニ於ケル歳入ノ豫定額、調定済歳入額トハ調査決定ノ上收入スヘキモノト確定シタル額、收入済歳入額トハ現ニ收入シタルモノ、不納缺損額トハ不納ノタメ收入ス可カラサル額ニシテ明治三十五年勅令第二百號ヲ以テ追加規定セラレタルモノナリ收入未済歳入額ハ特ニ説明ノ要ヲ見ス歳出豫算亦然リ豫算決定後増加歳出額トハ追加豫算ニ因ル額ニシテ仕拂命令済歳出額トハ實際仕拂命令ヲ發付シ了リタルモノヲ云フ

最後ニ參照ノ爲メ附記センニ第一特別會計ノ添附文書ハ各省大臣ノ調製セル（イ）歳入歳出ノ豫定計算書（ロ）其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ受拂勘定表（ハ）其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ固定資本價格増減表等ニシテ各特別會計法ニ之ヲ規定セリ第二追加豫算ニ關シテハ慣例上（一）歳入豫算追加明細書（二）豫算經費追加要求書ヲ添附シ第三彼ノ豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スルモノニハ各省ニ於ケル豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約要求書ヲ添附スルコトトセリ

第九 豫算ノ協賛

協賛トハ議會カ豫算案ニ對シテ協力贊助ノ意思ヲ議定スルコトニシテ豫算ニ關スル議會ノ議定權ハ國ニ由リテ其範圍廣狹一ナラス左ニ歲入及歲出ニ區分シテ之ヲ説明セン

甲 歲入豫算

歲入豫算ニ關シテハ三箇ノ主義アリ即チ

- (一) 永久法律制度
- (二) 豫算法律制度
- (三) 折衷制度

永久法律制度トハ國家歲入ノ大部分ニ付テ永久ニ效力ヲ有スル法律アリ其執行ニ由リテ收入スルコトニ定メラルモノナリ故ニ此場合ニ於ケル歲入ノ豫算ハ單ニ歲入ノ豫見ヲ爲シ以テ歲出豫算ヲ定ムルノ材料タルニ過キス隨テ之ニ對スル議會ノ議定權ハ事實上極メテ薄弱ニシテ殆ト協賛ノ餘地ナシト云フモ可ナリ換言スレハ收入法律ト歲入豫算トハ明カニ分離シ政府ノ收入權ハ豫算ノ議定ニ依リテ何等制限セラルコト無キノ制度ナリ我國及英國ノ如キハ此例ナリ即チ英國ニ於テハ會テ租稅ノ承諾權ヲ以テ重シトナシ歲入議定ノ本旨ハ主トシテ茲ニ存シタリシモ現今ハ全ク之ニ反シ租稅ノ大部分ハ永久法律ニ依リテ確定セラレ毎年ノ議會ハ僅少ノ例外ヲ除クノ外殆ト歲入ニ關スル協賛ヲ爲スノ餘地ナキニ至レリ次ニ我帝國ニ於テハ憲法第六十二條ニ「新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ」第六十三條ニハ「現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス」ト定メ共ニ法律ニ依ルコトナシ又手

數料ニ付テモ司法手數料ニ付テハ法律ニ依リ行政上ノ手數料及其他ノ收納金ニ付テハ勅令ニ依リ其他官業ノ收入ハ各特別ノ法規ニヨリテ處分シ又ハ契約スルヲ要スルヲ以テ歲入ニ付テハ議會ノ協賛ノ餘地無ク政府ノ收入ハ法令及契約ノ當然ノ結果トシテ發生スルナリ議會ハ或ハ歲入豫算ノ數字ヲ増減スルコトアラン面カモ實際ノ收入ハ之カ爲メニ何等ノ制限ヲモ受クヘキモノニアラサルナリ(會計法第十條ニ租稅及其他ノ歲入ハ法律命令ノ規定ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシトアリ)

次ニ豫算法律制度トハ全ク全者ト其趣ヲ異ニシ政府ハ毎年豫算法律ナルモノヲ議會ニ提出シ歲入又此豫算中ニ規定セラレ毎年議會ノ協賛ヲ經ルヲ要スルノ制ナリ隨テ歲入ハ年年ノ豫算決議ニ因リテ決定セラルモノニシテ永久的ノ效力ヲ存セス佛國、獨逸帝國及亞米利加合衆國內ノ諸州等ハ此例ナリ即チ佛國ニ於テハ國民代議院ノ自由ナル承認ナクンハ一ノ租稅公課又ハ公債ヲモ設クルコトヲ得ス(千七百八十九年憲法第十四條第五條)直接稅ハ一年ノ爲メニミ決議スヘシ間接稅ハ數年ノ爲メ一度ニ決議スルコトヲ得(千八百三十年憲法第四十一條)トシ獨逸國ニ於テハ千八百七十一年ノ帝國憲法ニ於テ帝國一切ノ收入及經費ハ毎年必ス豫算シ帝國法律ト爲ササル可カラス(第六十九條)トシ第七十條ニ依リ聯邦ノ分擔金額ハ聯邦ノ人口ニ應スルヲ要シ其分擔額ハ毎年帝國議會ノ議決ニ依リテ決定セラルルカ如キ是ナリ但此制度ハ事頗ル煩雜ナルノミナラス爲メニ政治ノ運用ヲ澁滯セシムルノ弊アルヲ以テ近世租稅制度ノ革新ト共ニ

漸次減少シ諸國中之ニ依ルモノ少シ加之此制ヲ採用スル諸國ト雖モ毎年議會ノ議決ヲ要ストスルモノ遞次少キヲ致タスニ至レリ

最後ニ折衷制度トハ前二者ノ折衷の制度ニシテ學滿西ノ如キハ此例ナリ即チ原則トシテハ永久法律制度ヲ採用スルモ其憲法ノ第七十條ニ於テハ「豫計豫算中ニ掲ケタルモノ又ハ特別法律ヲ以テ規定シタルモノニアラサレハ租稅ヲ賦課スルコトヲ得ス」トアルヲ以テ毎年議會ノ議定ヲ要スル租稅ヲ存スルヲ見ルカ如シ

乙 歳出豫算

歳出豫算ニ關シテモ亦自由議定制、制限議定制ノ二アリ左ニ之ヲ説明セン

自由議定制トハ議會ハ歳出豫算ノ全體ニ亘リテ自由ニ之ヲ廢除削減スルノ權能ヲ有スルモノヲ云フ佛國ハ此例ニシテ獨逸帝國亦多少ノ例外アレトモ大體此種類ニ入ルモノノ如シ

制限議定制トハ議會ノ議定ニ關シ一定ノ制限アリテ歳出ノ一部ニ付テハ自由ニ廢除削減スルコト能ハサルモノヲ云フ英國及米國ノ如キハ此例ナリ英國ニ於テハ歳出ヲ分チテ固定基金及支給費「サブライ、サーヴィス」ノ二トス前者ハ永久ノ法律ヲ以テ之ヲ規定シ此法律ヲ變更セサル限リハ議會ニ於テ毎年ノ決議ニ由リ之ヲ變更セサルモノトシ全ク議會ノ議定權以外ニ屬スルモノトナシ別ニ豫算トシテ提出セス年金、公債ノ元利償還費、帝室費、文武官恩給、一定ノ獨立官（例ハ裁判官ノ如キ）及公使ノ俸給、外債ノ利子等はナリ次ニ支給費ハ陸軍費、海軍

費、官廳費及歳入費ニシテ其額凡ソ總歳出ノ三分ノ二ニ當リ毎年議會ノ自由議定ニ附スルモノトス米國ニ於テハ歳出ヲ分チテ三トス一ヲ毎年經費「アンニユアル、アップロブリエーション」トス自由議定ニ屬スルモノナリ二ヲ永久毎年經費「バーマネット、アンニユアル、アップロブリエーション」トス英國ノ固定基金ニ相當スルモノナリ三ヲ永久特別經費「バーマネット、スベンフイツク、アップロブリエーション」ト云ヒ我國ノ繼續費ニ類スルモノナリ

我國ニ於テハ制限議定制ヲ採用セリ即チ議會ノ自由議定ノ範圍ニ屬セサルモノハ皇室費（憲法第六十六條）憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出（同第六十七條）法律ノ結果ニ由ル歳出（同）法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出（同）繼續費（同第六十八條）是ナリ以下之ヲ論述スヘシ

一 皇室費 皇室費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除クノ外帝國議會ノ協賛ヲ要セサルモノトス憲法施行當時ノ定額ハ三百萬圓ナリシカ明治四十三年度ノ豫算ニ於テ一般官吏ノ増俸ト共ニ皇室費モ亦四百五十萬圓ニ増額セラレタリ

二 憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歳出 憲法上ノ大權トハ學者ニヨリ其說ヲ異ニスト雖モ主トシテ天皇大權ノ謂ニシテ勅令又ハ條約ノ形ニ於テ發動スルモノナリ而シテ之ニ基ケル歳出トハ此等ノ勅令又ハ條約ニ於テ經費ヲ必要トスル事項ヲ定ムル場合ニ生スル經費ノ義ナリ次ニ既定トハ勅令又ハ條約ノ既存ヲ云フニアラスシテ豫算提出ノ前ニ於ケル既定ノ金額ヲ云フ若シ之ヲ勅令又ハ條約ノ既存ト解セシカ素ト大權ノ行動ハ議會ノ協賛ヲ要セサル性質ノモノナ

ルヲ以テ官制其他ノ發布ハ政府ノ任意ナルニヨリ之ニ基ク經費ニ對シテ自由議定ノ權能ナシトセハ政府ノ權能ヲ過度ニ擴張スルノ結果ヲ生ス故ニ此說ハ何人モ採用セサル所ナリ此種ノ歲出ハ政府ノ同志ナクシテ帝國議會之ヲ廢除又ハ削減スルコトヲ得サルモノナリ同意トハ經費額ノ廢除削減ニ對スル同意ノ義ニシテ行政組織又ハ條約其者ニ對シ同意ヲ求メ之ヲ改革スルノ意ニアラス故ニ若シ議會カ豫算議定ノ際官制其者ノ改革ヲ起草シ據リテ以テ經費額ヲ定メ政府ノ同意ヲ求ムルカ如キハ豫算議定權ヲ超越セル不當ノ議決ナリトス何トナレハ官制、軍制、條約等其自身ハ君主ノ大權ニ專屬スルモノナレハナリ是ヲ以テ實際上斯ル場合ヲ生スルトキハ政府ハ議會ノ斯ル修正ニ從フコトヲ得スシテ前年度ノ豫算ヲ施行スヘキモノトス次ニ此種ノ經費ニ付キ政府ト議會トノ合意成立セザル場合ハ如何或者ハ憲法第六十六條第六十七條ノ費目ニ付テハ政府ハ專決權ヲ有スルモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ政府ハ其原案ヲ施行スルヲ得ヘシト論スレトモ誤レリ合意成立セザルトキハ前年度ノ豫算ヲ施行スルノ外道ナキモノトス

會計法補則(明治二十三年八月法律第五十七號) 第一條ニ依レハ大權ニ基ケル既定ノ歲出ハ左ノ五種ナリ

イ 文武官ノ俸給及ヒ文官退官、賜金
ロ 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費

ハ 賞勳年金及ヒ褒賞費

ニ 外國條約及ヒ約束ニ依レル支給額

ホ 各廳ノ廳費及ヒ經常修繕費

其後費目ノ増減アリテ多少ノ變動ヲ免レサルモ大體ニ於テ之ト一致セリ

三 法律ノ結果ニ由ル歲出 法律ノ結果ニ由ル歲出トハ特別ノ法律若クハ其執行命令ノ規定ノ爲メニ經費ヲ必要トスル場合ヲ云フ會計法補則第二條ニ依レハ

- (一) 帝國議會經費 (二) 裁判所並會計檢査院費 (三) 恩給扶助料能役恤金及ヒ死傷手當
- (四) 徵兵費 (五) 徵稅費 (六) 囚徒費 (七) 遞信事業及ヒ航路標識費 (八) 内外國難破船費
- (九) 沖繩縣及ヒ小笠原島地方費 (十) 備荒儲蓄費 (十一) 北海道拂下土地買上代 (十二) 恩賞及ヒ救助費

ニシテ其後發布セル法律ニ由ルモノニハ、銀行益金補助、銀行資本補助、漁業航海造船等ノ補助、專賣局現業費、特許局審查費等アリトス

此費目ハ政府ノ同意アルモ必シモ畢ク直ニ廢除削減スルコトヲ得ト云フニアラス何トナレハ豫算ハ法律ニアラサルヲ以テ豫算ヲ以テ直ニ法律ノ結果ニ由ルモノヲ左右スルコトヲ得ヘカラス是レ性質上ノ不可能ナレハナリ政府ノ同意如何ヲ問ハサルナリ故ニ此場合ニ於ケル廢止削減ハ基本法律ヲ廢止又ハ變更セサル範圍ニ限ラレサル可カラサルコト當然ナリトス

次ニ説明スル法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ニ付テモ亦同シ

四 法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出 政府ノ義務ニ屬スル歳出トハ國家カ單獨行爲又ハ契約ニ由リ個人若クハ團體ニ或ル給付ヲ爲スノ特別意思ヲ表示シ之ニ因リテ法律ノ一般ニ認ムル義務ヲ政府カ負擔スル場合ニ於テ伴隨スル歳出ヲ云フ會計法補則第三條ニ規定スル所ニ依レハ(一)神社費 (二) 公債償還利子及ヒ手数料 (三) 既定マレル效力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及ヒ警察費聯帶支辨金 (四) 沖繩縣諸祿 (五) 既定マレル效力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産會社及ヒ病院學校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證(六) 雇外國人ノ俸給恩給及ヒ手當 (七) 法律上ノ賠償及ヒ訴訟費 (八) 諸拂戻金 (九) 國庫金取扱費 (十) 預金利子 (十一) 既約アル地所家屋借料等はナリ

五 既定繼續費 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ經タルトキハ其經費ニ付テハ議會ノ議定權ヲ拘束スルモノナリ繼續費ニ付テハ既ニ述ヘタル所ヲ參照スヘシ

右ヲ以テ自由議定權ノ範圍ニアラサル歳出ニ關スル説明ヲ了レリ然レトモ議會ノ議定權ノ制限ハ獨リ之ニ止マルモノニアラス自由議定權ノ範圍ニ於ケモ亦之ヲ存ス即チ我憲法ニ於テハ豫算ヲ議院ヨリ提出スル場合ヲ認ムルコト無ク單ニ政府提出ノ場合ノミヲ認ムルヲ以テ(第六十四條)豫算科目ノ新設、分合又ハ金額ノ増加ヲ爲スコトヲ得スト解スヘシ彼ノ佛國及ヒ米國ノ如

キ議院ニ豫算ノ發案權ヲ有セシムルノ明文ヲ置ク諸國ニ於テモ科目ノ新設及ヒ金額ノ増加ニ關スル動議ノ起ルコトハ極メテ稀ナリト云フ

次ニ協賛ノ手續ヲ略言センニ現今各國ニ行ハルモノ大凡三種アリ所謂英國式、大陸式及ヒ米國式是ナリ

英國式ニ於テハ豫算ニ關スル委員會ハ全院委員ヲ採リ全院ノ總議員ヲ以テ委員ト爲スモ大陸式ニ於テハ制限委員ヲ採ル又英國式及ヒ大陸式ハ委員會ノ組織常ニ統一的ニシテ其議決ハ互ニ相抵觸スルノ憂ナキモ米國式(現今之ヲ採用セス)ハ之ニ反シ豫算ノ科目ニ從ヒ各特別ナル永久の委員ヲシテ審査セシムルモノナルニ於テ異ル尙ホ審査報告ノ細案ニ涉リ異同少ナカラス今一之ヲ述ヘス

我國ニ於テハ大體上大陸式組織ヲ採用シ先ツ豫算ニ關スル大藏大臣ノ財政演說終リ議員ノ質問已ムヤ豫算ハ直ニ當然豫算委員會ニ附託セラルルコトナル次ニ豫算委員會ニ於テハ審査ノ方針ヲ定メ各分科ニ分チテ之ヲ審査シ各分科ノ主査ヨリ之ヲ豫算委員長ニ報告シ委員長ハ豫算總會議ヲ開キ豫算ヲ議院ニ受取リタル日(此日ハ我衆議院ノ先例ニ由レハ議長カ議院ニ報告シタル日ヲ指スモノトス)ヨリ二十一日以内ニ審査ヲ終了シテ議院ニ報告シ斯クシテ第三次ニ議會ノ本會議ニ於テ議定セラルルモノナリ而シテ豫算委員長ノ報告書ハ衆議院ノ慣例ニ由レハ(イ)修正ヲナシタル點ニ付テハ條文ノ修正書(ロ)各款項目等ニ付キ要求額ト査定額トヲ對照シテ

款項目金額増減表ヲ作リ（ハ）之ニ審査ノ説明書ヲ附スルモノトス又本會議ノ議決方法ハ己ニ委員會ニ於テ慎重ナル審査ヲ盡セルヲ以テ法律案ノ如ク三讀會ヲ經ルヲ要セサルナリ

兩議院ノ議決一致セサル場合ニ於テハ之ヲ統一調和スルノ方法ヲ存セリ之ニ三種ノ制アリ一ヲ「回付制」ト云ヒ一院ニ於テ送付シタル案ヲ他院ニ於テ修正シタルトキハ更ニ之ヲ一院ニ回付シ斯クシテ互ニ往復ヲ重ネテ調和ヲ試ムルモノナリ伊太利、西班牙等ニ於テ採ル所ノ制即チ是ナリ二ヲ「兩院制」トシ兩議員贊否ノ數ヲ通算シ以テ其決ヲ採ルナリ若シ贊否ノ數同一ナルトキハ下院議長之ヲ決スルモノトス「バーデン」ノ如キハ此制ナリ三ヲ「兩院協議制」トス兩院ノ議相合ハサル場合ニ於テハ各同數ノ委員ヲ選出シテ協議會ヲ組織シテ之ヲ議シ後更ニ各院ニ於テ協議案ヲ議決トシテ之ヲ議定スルナリ我國ノ制度ハ之ニ依レリ佛國ノ如キ亦然リ

最後ニ附加スヘキハ豫算附屬事項ニ關スルモノニシテ（イ）豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約（ロ）國債及ヒ大藏證券ノ發行（ハ）豫算超過及豫算外支出（ニ）財政上ノ緊急處分ノ協贊若クハ承諾是ナリ

（イ）豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ハ憲法第六十二條第三項ノ規定スル所ニシテ一年度ノ負擔トナルヘキ契約ノ謂ナリ既述ノ如ク豫算ハ一年限リノ效力ヲ有スルモノナルヲ以テ一年度後ノ負擔トナルヘキ契約ニ關スル費目ヲ單純ニ協贊スルトキハ政府ハ一年度内ノ豫算ヲ提出スルト同時ニ年度後ノ契約ヲ爲ストキハ契約後ニ於テハ既定ノ政府ノ義務ニ屬スル歲出ト

ナリ議會ハ之ニ對シテ直ニ廢除削減スルノ權能ヲ有セサルコトトナルヘキヲ以テ此ノ如キ契約ヲナスニハ豫メ議會ノ協贊ヲ經ルヲ要スルコトセルナリ故ニ政府ハ此等ニ關スル經費ノ當初一年度分ハ其年度ノ豫算ニ編入シ豫算トシテ協贊ヲ受クルト同時ニ爾後ノ分ニ對シテハ契約事項ヲ示シテ議會ノ協贊ヲ經ルヲ要スルナリ例ヘハ外國人傭入ノ契約、在外公使館傭入ノ契約、陸軍ノ糧秣被服ノ買入契約、海員養成補助ノ契約、航海補助ノ契約、會社債券元利支拂ノ保證契約等はナリ而シテ茲ニ注意スヘキハ契約ノ爲メ國庫上負擔ヲ増加スルモノニアラサルモノハ議會ノ協贊ヲ要セサルコト是ナリ例ヘハ關稅收入ヲ保證トシテ外債ヲ募集スル契約ノ如キ政府カ自己ノ收入ノ一部ヲ以テ自己ノ支拂義務ヲ確定ニスル場合ノ如シ又例ヘハ政府カ或會社ニ年度後ニ互ル補助貸付ヲ爲スノ契約ヲ爲シ其返済期ニ至リ更ニ不得已事情ノ爲メ其返済ノ延期ヲ爲ス場合ノ如シ此場合ノ延期ハ其法律上ノ性質トシテハ契約ノ更新ナルモ國庫關係ニ於テハ豫算外ニ將來ノ負擔ヲ増スモノニアラス何トナレハ貸金ノ取立ニシテ延期スルモ單ニ收入ノ見込ヲ減少セリト云フ迄ニシテ經費ノ新負擔ヲ將來ニ生スルモノニアラサルヲ以テナリ

（ロ）國債及ヒ大藏省證券ノ發行（憲法第六十二條第三項、會計法第九條）

國債トハ國家ノ財政上ノ負擔ニシテ其結果將來ノ財政ヲ束縛スルモノナリ又大藏省證券ハ一會計年度内ニ發行シテ其年度内ニ償還スル國庫手形ノ一種ナリ即チ歲出多クシテ歲入ノ之ニ

伴ハサル場合ニ國庫内ニ於ケル一時的現金融通ノ一方法タルニ過キスシテ換言スレハ國債ノ財政上ノ負債タルト異リ單ニ豫算施行上ノ負債タルノミ然レトモ若シ之ヲ濫發スルコトアラシカ遂ニハ年度内ニ全部ノ支拂ヲ了スルコト能ハサルニ至リ次年度ニ繰越シテ財政上ノ負債ニ歸スルコト之レ無シトセスレ共ニ帝國議會ノ協賛ヲ要ストセル所以ナリ大藏省證券ニ付キ更ニ注意スヘキハ其發行高ハ議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ムト規定セララルモ國庫ハ他ノ一方ニ於テ中央銀行ト國庫金ニ關スル交互勘定ヲ爲スノ結果トシテ一時借入金ヲ爲スコトアリ(明治二十七年六月法律第十六號第一條ニ「政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徴シテ之ヲ當座預金又ハ定期預金トシテ日本銀行ニ預ケ入ルコトヲ得」第二條ニ「政府ハ國庫金出納上一會計年度一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得」トアリ)此場合ニ於ケル借入金モ亦政府ノ一負債ニシテ大藏省證券ト共ニ之ヲ制限スルニアラサレハ大藏省證券ノ最高額ヲ定ムルノ精神徹底セサルコトナルヘシ故ニ同法第三條ニ「前條ニ依リ政府ノ借入ルコトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行ト合シテ當該年度該證券ノ發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス」ト定メタリ

(一) 豫算超過及ヒ豫算外支出

憲法第六十四條第二項及ヒ會計法第八條ノ規定スル所ニシテ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要スルモノナリ是レ即チ豫備金ノ支出ニシテ豫備金ノ性質ニ付テハ大要已ニ豫算調製ノ部ニ

述ヘタルニ依リ之ヲ參照セハ足ル故ニ詳述セス

憲法第六十四條ニ「豫算ノ款項ニ超過シタル金額」トハ又之ヲ補充支出トモ云ヒ避ク可カラサル豫算ノ不足即チ豫算ニ於テ一定ノ金額ヲ見積ラレタルモ同種類ノ事項増發セルタメ不足ヲ告ケタル場合ノ支出ニシテ第一豫備金ヨリ支出スヘキモノトス而シテ其費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之ヲ定メタリ之ヲ補充科目ノ勅令ト云フ要スルニ費途ノ種類ハ主トシテ既ニ既存ノ法令契約上他動的ニ生シ來ル増加額ニシテ豫算作製ノ當時分量ノ見積困難ナリシニ因ルモノナリ次ニ「豫算外ニ生シタル必要ノ費用トハ其事件カ豫算ノ款項ノ目的内ニ存セサル場合ノ費用ニシテ第二豫備金ヨリ支出スルモノトス

第一豫備金ノ費途定メラルルヤ各省大臣ハ之ニ依リテ支出シ其金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ルヲ以テ足リ(會計規則第十八條第十九條)大藏大臣之ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スルモノトス(第二十條)第二豫備金ハ之ニ反シ各省大臣支出ノ必要ヲ認ムルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送附シ大藏大臣ハ其計算書ヲ調査シ意見ヲ附シテ勅裁ヲ請ヒ其勅裁アリタルトキハ大藏大臣ハ其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及ヒ官報ニ掲グルモノトス(會計規則第二十一條第二十二條第二十三條)尙ホ會計規則第二十四條ノ規定ニ依レハ豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ附シ年度經過後五ヶ月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送附シ大藏大臣ハ豫備

金支出ヲ第一豫備金支出第二豫備金支出ニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルノ手續ヲ爲スモノトス

特別會計ニ於テハ豫算上第一豫備金ノ設ケアルモ第二豫備金ハ之ナシ蓋シ之ニ代フヘキ豫備費ノ設置アルヲ以テナリ此豫備費ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ之ヲ支出スルモノナリ而シテ其第一豫備金トノ差ハ一般會計ノ第一豫備金ト均シク同一ノ補充科目ヲ適用スルニアリ又第二豫備金ト異ル所ハ其費目ハ特別會計上明定セラレ單ニ大藏大臣ノ承認ヲ以テ支出セラルルニアリトス

最後ニ法文上ノ二三用語即チ憲法第六十四條第二項ノ「後日」「承諾」會計第八條ノ「支辨」ノ意義ヲ説明セン

後日トハ必シモ次期ノ議會ト云フノ意味ニアラス次期ノ議會解散セラレ若クハ承諾案ヲ提出スルノ違ナキトキハ更ニ其次ノ議會ヲモ意味ストスヘシ次ニ承諾トハ他動的ノ或ル議案ニ對シテ自動的ニ異議ナキコトヲ表示スルモノニシテ協賛ノ如ク積極的ニ或ル議案ノ必要ヲ認メテ其成立ヲ希望シ之ニ參與スルモノト其意義ヲ異ニセリ其結果トシテ承諾ノ場合ニハ承諾カ不承諾カ其一アルノミ承諾案ニ對シテ固ヨリ修正スルコトヲ得ス又不協賛ト異リテ不承諾ハ政府ニ對スル或ル非難ノ意味ヲ表示スルノ結果ヲ有スルモノナリ第三ニ支辨トハ財源ヲ供給

スルコトヲ謂ヒ支出又ハ仕拂ト其議ヲ同ウセス何トナレハ仕拂トハ金庫又ハ出納官吏カ現金ヲ仕拂フコトヲ云ヒ支出トハ仕拂命令官カ仕拂ノ命令ヲ發スルコトヲ云フヲ以テナリ尙ホ此ニ付テハ支出ノ章ニ再論スヘシ

(二) 財政上ノ緊急處分 此處分ハ憲法第七十條ニ

公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニヨリ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス

トアルニ本々モノニシテ事態緊急ニシテ帝國議會ヲ召集スルノ餘裕ナキ場合ナリトス然レトモ憲法第八條ノ緊急命令ノ如ク法律ニ代ハルヘキ效力ヲ有スル命令ニアラス財政上ノ一時處分ニシテ其效力カ亦永續セサルモノナルヲ以テ次ノ會期ニ於テ帝國議會ノ承諾ヲ得サルモ將來ニ向テ其效力ヲ失フコトヲ公布スルノ必要ナキモノトス例ヘハ豫算ノ款項ヲ變更シ豫備金ヲ流用シ大藏省證券ヲ増發シ豫算外國庫負擔ノ契約ヲ爲シ國債ノ償還ヲ停止スル等是ナリ財政上緊急處分モ亦一種ノ豫算外支出ナレトモ其事件金額共ニ巨大ナルカ若クハ費途ヲ異ニスル關係上豫備金支出ニ由リテ支辨スル能ハサル場合ノ措置ナリト見ルコトヲ得ヘシ

第十 豫算ノ成立及ヒ不成立 甲 豫算ノ成立

豫算カ議會ノ協賛ヲ經タルトキハ天皇ノ裁可ヲ經左ノ形式ニ依リ之ヲ公布スルヲ例トス
朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル明治何年度歳入歳出總豫算(各特別會計歳入歳出豫算若クハ追加)
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

年月日

内閣總理大臣 氏 名
大藏大臣 氏 名

豫算

明治何年度歳入額ヲ何何圓歳出額ヲ何何圓ト定ム其款項ノ金額ハ別冊歳入歳出豫算ニ據ル可
シ

豫算ハ裁可ヲ要スルヤ否ヤニ付テハ種種ノ議論アリ或ハ豫算ハ元來租稅承諾權ニ本クモノナル
ヲ以テ此沿革上ノ理由ニ照スモ議會ノ協賛ヲ以テ足ルトナシ或ハ憲法第六十七條ハ殊ニ政府ノ
同意ヲ要スル旨ヲ規定スルニ拘ハス豫算ノ全部ニ付テハ何等裁可ヲ要スル旨ヲ規定スルコト無
キニ照スモ裁可ヲ要セサルノ精神ナルヲ知ルト説ク者アリト雖モ元來豫算ハ最重要ナル一國
ノ政務ニ關スル條規ニシテ法律ニ比シ何等輕重スル所無キ大切ナル事態ニ屬スルモノナレハ理
論上其裁可ヲ要スルコト毫モ疑ナク且ツ我國ノ慣例上亦動カス可カラサル原則ナリトス

次ニ豫算ハ公布ヲ要スルヤ否ヤニ付テモ亦説ノ歸一セサル所ナリ元來豫算ハ單ニ行政部内ニ於
テ遵守スヘキ條規ヲ定メタルモノニ過キスシテ法律ノ如ク一般臣民ノ遵奉スヘキ性質ヲ有セス
然レトモ一國ノ歲計豫算ハ清明ナル計畫順序ニ由リテ施行セラルルモノナルコトヲ立憲國民ニ
明ニスルノ必要上公布ヲ要スヘキモノトスルコト最モ事理ニ適セルモノナリトス

乙 豫算ノ不成立

豫算ノ不成立トハ憲法七十一條ニ「帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサル」
場合ヲ指稱スルモノニシテ其場合凡ソ左ノ如シ

イ 議會成立セス又ハ議會成立スルモ豫算提出前ニ解散セラレシトキ
ロ 一院豫算ヲ否決シタルトキ

ハ 兩院ノ議決相異リ兩院ノ協議不調トナリタルトキ
ニ 豫算議定前ニ閉會又ハ衆議院解散セラレタルトキ
ホ 年度開始前豫算ヲ議了スルコト能ハサリシトキ

ヘ 豫算ノ組立若クハ議事カ法令ニ違反シタルトキ例ヘハ憲法第六十九條ニ違反シテ豫備費
ヲ全然削除シ或ハ會計法第六條ニ違反シテ款項ノ區分ヲ廢止若ハ新設シ或ハ第七條ニ違反
シテ第一、第二ノ豫備金ヲ存置セス或ハ議院法ニ違反スルカ如キ皆是ナリ
ト 政府ノ同意無クシテ憲法第六十七條ノ歳出ヲ修正シタルトキ即チ豫算ハ議定上不可分

(豫算ハ施行上款項毎ニ皆可分ナリ)ナルノ原則(但議定カ自由議定權ノ範圍ニ於テ廢除削減セラルル場合ハ固ヨリ豫算ノ成立ニ差支ナシ)トシテ第六十七條ノ豫算不成立トナル結果豫算ノ全部ハ無効トナルヘキナリ

ナ 君主ノ裁可ヲ得サルトキ但斯ル場合ハ殆ト其例ナシ

豫算不成立ニ至リタルトキハ其年度ノ歲計ハ如何ニ之ヲ施行スヘキヤ元來豫算ハ既述ノ如ク其效力一年限リノモノナルヲ以テ憲法上豫算不成立ノ場合ニ處スル方法ヲ規定スルコト無クシテ其結果測ル可カラサルモノアリ例ヘハ千八百六十二年「プロイセン」ニ於テ「ビスマーク」内閣時代ノ大ナル紛擾ノ如シ我國ニ於テハ憲法第七十一條ニ於テ「政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ」ト規定シ次テ此間ニ處セリ

第十一 豫算ノ效力

吾輩ハ前ニ豫算ハ國家ノ歲入歲出ノ見積リニシテ國家機關ノ遵守スヘキ準繩ヲ定ムルモノナリト曰ヘリ茲ニ簡單ニ其準繩タル要綱ヲ擧ケンニ

甲 豫算ノ有スル時ノ區分ハ次テ年度ノ讓渡ヲ制限ス 年度ノ讓渡トハ甲年度豫算ノ定額ヲ以テ乙年度ノ歲計ニ流用スルコトヲ云フモノニシテ其讓渡ノ制限トハ(イ)各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス(會計法第三條)(ロ)毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ金額ハ其年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨スルコト(同

(第十一條)是ナリ但例外アリ後ニ論セン

乙 豫算ノ款項ハ以テ科目ノ流用ヲ制限ス 即チ(イ)豫算ニ定メタル目的ノ外ニハ定額ヲ使用スルコトヲ得ス(會計法第十二條) 豫算ノ目的トハ款項ノ表示ニシテ豫算中ノ各項ノ定額ヲ使用シテ他項ノ費途又ハ豫算外ノ費途ニ支出スルコトヲ禁スルノ意ナリ(ロ)各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス(同上) 此制限ハ元來(イ)ノ場合ニ實質上ハ包含セルモノト見ルコトヲ得ルモ各項流用ノ禁止ハ殊ニ重要ナリトシテ明文ヲ設ケタルモノニシテ甲項ノ定額ヲ減少シテ乙項ノ定額ニ加増スルカ如キコトノ禁止ノ義ナリ(ハ)收入ヲ以テ支出ニ使用スルコトヲ得ス(同條第二項) 收入ハ必ラス之ヲ國庫ニ納付スルヲ要ス直ニ之ヲ經費トシテ支出スルコトヲ得ス是レ蓋シ歲入ト歲出トハ區分整理セラルルヲ以テナリ

第四章 收入論

第一 緒言

本章ニ於テハ三權ノ分立、收入ノ意義、收入ノ機關、收入ノ手續等ヲ論述スヘシ
茲ニ三權ノ分立トハ所謂會計上ノ三權分立ニシテ會計ノ管理ヲ正確ナラシメンガ爲メ其機能ヲ分立セシメテ之ヲ一機關ノ專權ニ屬セシメス相掣肘對査シテ以テ彼我ノ的實ヲ期スルノ趣意ニ出ツルナリ三權トハ(一)命令ヲ司ル權能(二)命令ヲ執行スル權能(三)命令ト其執行トカ法律規

則ノ定ムル所若クハ事實ニ照シテ適當ナルヤ否ヤヲ監督スル權能ナリ今物品ヲ購入セル場合ヲ例センニ其代價ノ仕拂ヲ命スル命令ノ權能ナリ現金ヲ以テ實際金額ヲ仕拂フハ命令執行ノ權能ナリ而シテ第三ニ此二者ノ適否ヲ監視セル權能ヲ存スルカ如キ是ナリ此權限ノ分立ハ最モ嚴正ニ特立スルヲ要シ非常ニ特別ナル場合ヲ除クノ外ハ互ニ相兼掌スルヲ許サス苦シ然ラズシテ是等ノ權能ヲ一機關ノ兼掌ニ任センカ其權力漸次專濫ニ流レ事實ヲ曲ケ金錢ヲ私スル等其弊大ナラサルヲ保スル能ハサルヘシ是レ前鑑ノ甚タ遠カラサル所ニシテ近世諸國皆分立ノ制ヲ以テ此間ニ處セントスル所以ナリ

今暫ラク監督ノ權能ヲ措キ其他ノ二權能ニ付キ之ヲ述ヘンニ先ツ收入ニ付キ之ヲ謂ヘハ前者ハ命令事務ナリ後者ハ現金收入事務ナリ即チ之ヲ租稅ノ徵收ニ見ルニ若干ノ租稅ヲ納付スヘシト命令スルモノハ稅務官吏ナリ此命令ニ對シテ其金額ヲ領收スルモノハ特立セル機關即チ國庫ナリトス第二段以下ニ之ヲ詳述セン

尙ホ一言スヘキハ既述ノ如ク歳入ニ付テハ歳出ノ場合ノ如ク各省所管ト云フモノ無ク總テノ歳入ハ舉ケテ大藏省ノ所管ニ屬シ各省ハ單ニ大藏省ノ爲ニ歳入事務ノ一部ヲ管理スルノミ故ニ大藏省ヲ歳入ノ所管廳ト稱シ各省ヲ歳入事務管理廳ト謂フ蓋シ大藏大臣ハ一方ニ於テ内國稅關稅其他一國歳入ノ大部分ヲ管掌スルノミナラス所謂國庫大臣トシテ各省ニ對シ豫算ノ施行ニ關スル資金供給ノ責任ヲ有スルヲ以テ國庫ニ收入セラルル總テノ歳入ヲ統一處理スル便宜ト必要ト

ヲ存スレハナリ故ニ歳入ニ關スル總テノ報告ハ結局歳入ノ所管廳タル大藏省ニ於テ統一セラルルモノトス

第二 收入ノ意義

收入ト云フ文字ニハ廣狹ノ二義アリ廣義ニ於テハ收入ノ命令ト現金ノ收入トニ關スル總稱ニ用キラル例ヘハ會計法第三章會計規則第三章ニ收入ト題スルカ如キ是ナリ狹義ニ於テハ現金ノ受領ニ關スル場合ニ於テ使用セラル例ヘハ會計規則第三章ニ收入官吏若クハ收入金ト云フカ如キ是ナリ思フニ收入ニ關スル事務ハ結局現金ノ受領ニ由リテ其目的ヲ達スルモノニシテ假令收入ノ命令アルモ現實ノ收入金無クシテ何等ノ效果無シト云フモ可ナリ是レ收入ナル文字ハ廣義ニ於テモ狹義ニ於テモ現金ノ受領ニ關スル意味ヲ脱却スルコト能ハサル所以ナリト知ル可シ現金ヲ收入セル場合ニ於テ時ニ領收ナル文字ヲ用フルコトアリ例ヘハ會計規則第二十五條以下ニ領收領收證等ト云フカ如シ蓋シ收入ハ一般ニ使用セラレ領收ハ對他のニ具象的ニ使用セラルモノトス

狹義ノ收入ニ對スルモノヲ徵收ト云フ會計法第十條ニ「徵收スヘシ」トアルハ此例ニシテ會計規則第二十五條以下ニ「歳入ヲ徵收スル官吏」トアルモ亦然リ即チ歳入ヲ現金ヲ以テ領收スル官吏ヲ收入官吏ト云フニ對シ歳入ヲ命令スル官吏ヲ徵收スル官吏ト云フモノニシテ義述ニ所謂命令事務ニ關スル用語ナリトス

徵收ナル語ニモ亦廣狹ノ二義アリ即チ會計法第十條本文ニ租稅及ヒ其他ノ歳入ハ法律命令ノ規定ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシト規定シ次ニ法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アルモノニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得スト規定スルニ徵スルニ法律ハ徵收ヲ更ニ分チテ二トナシ其租稅ニ關スルモノヲ狹義ノ徵收ト稱シ租稅外ノ歳入ニ關シテハ收納トセルコト明瞭ナリ即チ所謂公經濟的歳入ニ屬スル租稅ニハ徵收ノ文字ヲ用キ次ニ租稅以外ノ公經濟的歳入及ヒ私經濟的歳入ニ屬スル各種ノモノニ付テハ收納ナル文字ヲ用キタリ左ニ之ヲ表記セン但學理的用語トシテハ寧ロ收納ナル文字ヲ以テ私經濟的歳入ノ場合ニ限ルヲ可トスヘキコト諸學者ノ定説ナリ

收入（廣義） 徵收（廣義）
收入（狹義） 收納

最後ニ收入ト歳入トノ區別ヲ述ヘンニ二者ハ其内容ニ於テ多ク異ル所ナシ只之ヲ使用スル場合ノ必要上或ハ歳ニ着眼シテ歳入ト稱シ或ハ單純ニ國家ノ資源トシテ入り來ルノ意ニ於テ歳入ト云フノミ故ニ歳入ハ時ニ歳入ヨリモ廣キ意味ヲ有シ時ニ歳入ノ一部分タル内容ヲ有ス要スルニ歳入ナル文字ハ會計年度又ハ豫算決算等主トシテ一國ノ收入ヲ年度ノ上ヨリ立言スルカ如キ場合ニ用キラルルモノトス

第三 收入ノ機關

收入ノ機關ヲ分チテ徵收ノ機關及ヒ收入ノ機關トス

甲 徵收ノ機關

歳入徵收機關トハ會計規則第二十五條及ヒ第三十條ニ所謂歳入ヲ徵收スル官吏ニシテ約言シテ又之ヲ歳入徵收官ト云フ歳入徵收官トハ法律命令ニ依リ租稅ヲ徵收シ又ハ其他ノ歳入ヲ收納スル資格ヲ有スルモノニシテ（會計法第十條）其種類左ノ如シ

一 稅務署長

二 稅關長

三 各官廳長官

稅務署長ハ稅務監督局長ノ監督ノ下ニ在リ内國稅ノ大部分ニ付キテ徵收權ヲ有スルモノナリ次ニ稅關長ハ主トシテ海關稅ヲ徵收シ各官廳長官ハ租稅外ノ收納事務ヲ取扱フモノトス（明治三十三年四月大藏省訓令第二十七號第一條ニ警視廳、北海道廳、府縣、稅關、稅務監督局及ヒ稅務署ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ云トアリ）

租稅外ノ收納事務トハ手数料、免許料、官業及ヒ官有財産收入等ニ關スルモノナリ其他市町村ハ地方公共團體ナレトモ稅務署ノ下級機關トシテ直接ニ徵收ノ事務ニ當ルコトアリ即チ其市町

村内ノ地租及ヒ勅令ヲ以テ命セラレタル國稅ヲ徵收シ其税金ヲ國庫ニ送付スルノ責任アルモノトス（國稅徵收法第五條）而シテ明治三十一年六月勅令第百九十五號ハ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ關スル件ヲ定メ其種類ヲ一、第三種ノ所得ニ係ル所得稅二、營業稅三、自家用醬油稅四、賣藥營業稅ト爲セリ又第二種ノ所得稅ニ付テハ公債、社債ノ利子ノ支拂者之カ徵收事務ヲ取扱ヒ徵收ノ都度政府ニ納ムルコトヲ要シ（所得稅第四十二條所得稅法施行規則第四十四條第三十五條第三十六條）通行稅ニ付テハ汽車、電車又ハ汽船、營業者之ヲ徵收スルモノトス（通行稅法第四條同施行規則）故ニ府縣郡其他公共團體公共組合若ハ會社又ハ或ル種ノ營業者モ亦徵收ノ一機關タルモノトス尙ホ最後ニ注意スヘキハ稅務署、稅關等ニ於テモ固ヨリ租稅外ノ收入ヲ收納スルコトアルハ勿論ナルコト是ナリ

乙 收入ノ機關

收入ノ機關トハ現金ノ收入ニ關スル機關ヲ云フ其命令機關ト特立存在スルニ至リシ理由ハ已ニ之ヲ述ヘタリ而シテ現金ノ收支ニ關シテハ國庫ヲ以テ其大本トナシ會計法第三十一條ニ依リ國庫金ノ取扱ハ中央銀行タル日本銀行ニ之ヲ委託スルコトトシ此場合ニ於テ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌リ國家ノ收入ハ悉ク國庫ニ入ルモノナルコト後章ニ述フルカ如クナリ故ニ國庫ハ收入機關ノ根本タルモノトス中央金庫ヲ置キ地方ニハ本金庫及ヒ支金庫ヲ設置シ以テ收入事務ノ取扱ヲ爲セリ

然レトモ一方ニ於テハ納入ノ數非常ニ多キヲ極メ金庫ニ於テ一其收入ヲ爲サンコト實ニ煩勞忍ブ可カラサルモノアルノミナラス經費ト人員ト固ヨリ之ヲ許ササルコトアリ例ハハ地租所得稅等ノ收入ノ如シ又他方ニ於テハ金庫ハ其數少ナクシテ多クモ一郡ニ一箇所ニ過キサルヲ以テ僻遠ノ地ニ普ネテ行宜ルコト能ハス故ニ納入ハ納付ヲ爲ス毎ニ遠ク金庫所在地ニ出向セサルヘカラサル不便ト困苦ト大ナルモノアリ是ヲ以テ彼此ノ便宜ヲ増シ收入ノ確實ヲ期スル爲メ更ニ中介ノ收入機關ヲ設ケ此必要ニ應スルコトトセリ市町村及ヒ收入官吏即チ是ナリ市町村カ收入ノ機關タル場合ハ已ニ說ケルカ如ク市町村ハ或ル租稅ニ付キ徵收事務ヲ取扱フヲ以テ其税金ヲ國庫ニ送付スル責任アルモノトス

次ニ收入官吏ノ場合ハ租稅及ヒ租稅外ノ收入ヲ含ム（會計規則第二十五條）收入官吏ニ二種アリ主任收入官吏及ヒ分任收入官吏是ナリ即チ

イ 各官廳長官ハ其部下ノ官吏ニ收入官吏ヲ命スルモノトス而シテ其一人ヲ主任收入官吏トシ其他ハ主任收入官吏所屬ノ分任收入官吏トス（明治三十五年十二月大藏省訓令第五十五號）

ロ 稅關 稅務署ニ在リテハ稅關長、稅務署長ハ主任收入官吏タリ稅關支署長ハ其所屬稅關主任收入官吏ノ分任收入官吏ナリ稅關長、稅務署長ハ必要ニ應ジ部下ノ官吏ニ分任收入官吏ヲ命スルコトヲ得ルモノナリ其他法規ノ定ムル所ニ依リ收稅官吏消費稅金ヲ領收シタル會計法要論 收入論

トキ及ヒ税關官吏關稅其他ノ歳入ヲ收入シタルトキハ分任收入官吏ト心得ヘキモノトス
(明治三十三年大藏省訓令第十六號)

斯ノ如ク官吏中ニハ歳入徵收官タルト同時ニ收入官吏タルモノアルコトヲ注意スヘシ即チ税關長、稅務署長ノ場合ノ如シ是レ疑ニ違ヘタル三權分立ノ例外ニシテ蓋シ行政上ノ便宜問題ニ出ツルモノナリ爲メニ納入者並ニ國庫ノ利益ヲ増スコト少ナカラス寧ロ適當ナル中繼機關ナリトス此ノ如ク收入官吏ハ納入ト金庫トノ間ニ介在スル中繼機關ナルヲ以テ根本タル金庫ノ方ヨリ見レハ恰モ金庫ノ派出員タル資格ヲ有スル如キ觀ナキニアラス

第四 收入ノ手續

甲 徵收ニ關スル手續

歳入ヲ徵收スルニハ先ツ之ヲ測定スルコトヲ要ス歳入ノ測定トハ歳入徵收官カ納付ノ命令ヲ發スルニ當リテ其歳入ノ果シテ適法ナルヤ否ヤヲ調査決定スルヲ云フ即チ歳入ニシテ法律命令ニ依ルモノナラハ其法令ニ照シ契約其他私法的行爲ニ基クモノナラハ契約書其他之ヲ收納スルニ至リシ原因事項ヲ調査スルコトヲ要スルナリ此他「事後ノ測定」ト稱スルモノアリソハ口頭ニテ納付ノ命令ヲ爲シ直ニ現金ノ受領ヲ爲セル場合ニ收入官吏ハ歳入徵收官ニ之ヲ報告シ歳入徵收官ハ其報告ニ依リ其正否ヲ調査決定スルモノヲ云ヒ變則的測定ナリ測定ヲ爲シタル金額ノ一年度間ニ於ケル總額ヲ測定済歳入額ト云フ既ニ述ヘタル總豫算ノ添付文書タル歳入歳出現計書

(會計規則第十五條)總決算(同第十六條)及ヒ大藏省ノ主計簿(同第一百十三條)ニ掲載スヘキモノトナルナリ

歳入ノ測定ヲ爲シタルトキハ相當期限ヲ付シ徵收ノ命令ヲ發ス命令ニハ書面ニ依ルモノト口頭ニ由ルモノトアリ口頭ニ依ルモノハ多クハ迅速ニ納付ノ手續ヲ履行スルヲ要スル場合ニ用ケラル例ヘハ鐵道ノ乗車切符ノ場合ニ於ケルカ如シ其購買ノ申込ニ對シテ乗車里數、等級等ヲ調査シテ歳入ヲ決定シ「何圓何十錢」ナリト云フハ何圓何十錢ヲ納付スヘシト云フ徵收ノ命令ナリトス書面ニ依ルモノヲ徵收命令書ト云フ徵收令書ハ分ツテ三種トナス左ノ如シ

イ 納稅告知書

ロ 納額告知書

ハ 納入告知書

是ナリ納稅告知書トハ租稅徵收ノ場合ニ用フルモノニシテ歳入徵收官カ直ニ納入ニ對シ若クハ市町村ヨリ納入ニ對シテ發スルモノヲ云ヒ納額告知書トハ歳入徵收官ヨリ市町村ノ徵收スヘキ租稅ニ付キ市町村ニ宛テ發付スルモノニシテ市町村ハ之ニ基キ各納入ニ對シテ納稅告知書ヲ發スル順序トナルナリ納入告知書トハ租稅外ノ收納ノ命令場合ニ發スルモノニシテ其ニ納金額、納期日及ヒ納付場所ヲ指定シ例ヘハ「金何圓何何(物品拂下代若クハ返納金ハ……)右何月何日限リ收入官吏何某(又ハ何金庫)ヘ納付スヘシ」ト云フカ如キ書式ヲ用フルナリ

斯クテ調定済歳入額ハ分レテ左ノ三種トナル即チ

(イ) 收入済歳入額

(ロ) 不納缺損額

(ハ) 收入未済歳入額

是ナリ

收入済歳入額トハ徴收ノ命令ニ由リ現金ノ納付ヲ終リタルモノヲ云ヒ不納缺損額トハ命令ノ履行無カリシ結果滞納處分其他ノ方法ヲ竭スモ遂ニ不納トナリタル金額ヲ云ヒ未タ不納ト迄ニハ至ラサルモ其年度ノ金庫閉鎖時期マテニ納付無カリシモノヲ收入未済歳入額ト稱スルナリ此三種ヲ合スルトキハ其總計調定済歳入額ニ一致スルモノト知ルヘシ

歳入徴收官ハ徴收簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ調定済額、收入済額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記シ(會計規則第百十四條)又歳入ノ事務管理廳タル各省大臣ハ歳入簿ヲ具ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定済額、收入済額、不納缺損額、收入未済額ヲ登記スルヲ要スルモノトス(同第百十五條)而シテ歳入徴收官ハ其徴收簿ノ結果ニ據リ毎月徴收報告書ヲ調製シ參照書類(例ヘハ月計對照表其他)ヲ添ヘ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ達シ(會計規則第三十條)次ニ歳入ノ事務管理廳ハ此報告書ニ依リ歳入簿ニ登記スルト共ニ毎月徴收報告書ヲ作り之ニ必要ナル參照書類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スルモノトシ(同第三十一

條)大藏省ハ之ヲ以テ主計簿記ノ材料ト爲スモノナリ

乙 收入ニ關スル手續

現金ヲ領收シタルトキハ其受領者ノ金庫タルト收入官吏タルト市町村ナルトヲ問ハス其納入ニ對シテ領收書ヲ交付スルヲ要ス(會計規則第二十五條第二十七條)其領收書ハ市町村及ヒ收入官吏ニアリテハ納入金庫ニ在リテハ納入若クハ收入官吏等ニ交付スルモノトス

イ 市町村又ハ收入官吏ニ於テ領收スル場合 市町村ニ於テ領收シタル税金ハ送付書ヲ添ヘ運送ナク之ヲ金庫ニ送付スルコトヲ要スルモノニシテ納期後三日ヲ過タルコトヲ得ス(國稅徵收法施行規則第五條)次ニ收入官吏ノ領收シタル金額ニ付テハ大藏大臣ノ定ムル所ニ從ヒ毎月一同若クハ數回金庫ニ拂込ムコトヲ要ス但金庫ノ設ケナキ運輸通信ノ不便ナル地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘキモノナリ(會計規則第二十六條)即チ(一)金庫所在地ノ收入官吏ニ在リテハ毎日之ヲ纏メ拂込書ヲ添ヘ翌日迄ニ拂込ムモノトシ(出納官吏現金取扱規則第十五條)(二)金庫ノ設置ナキ地方ノ收入官吏ニ在リテハ規定ノ制限ニ從ヒ之ヲ取纏メ拂込書ヲ添ヘテ其在勤地ヲ出納區域トスル金庫若クハ歳入徴收官ノ指定シタル金庫ニ拂込ムモノトシ金庫所在地ノ收入官吏金庫ノ設置ナキ地方ニ於テ現金ヲ領收シタル場合亦之ニ準ス(同第十六條)(三)運輸通信ノ不便ナル地方ニシテ金庫ノ設置ナキ場合ニ於テハ收入官吏ハ其金額ヲ金庫ニ送付スルヲ要セス單ニ其金額ノ監

守證ヲ作り之ヲ最近便ヲ以テ其在勤地ヲ出納區域トスル金庫ニ送付スルヲ以テ足レリトシ外國ニ於テ領收シタル場合ノ監守證ハ中央金庫ニ送付スルモノトス(同條第十七條)

收入官吏現金ノ領收ヲナシタルトキハ同時ニ領收済ノ旨ヲ歳入徵收官吏ニ報告スルヲ要シ(會計規則第二十五條)市町村ニ於テハ之ニ反シ領收未済ノ金額ヲ報告スルヲ要スルモノニシテ國稅徵收法施行規則第七條ニ市町村ハ納期內ニ税金ノ納付ヲ了ラサルモノアルトキハ直ニ其氏名、住所若クハ居所及ヒ納金額、滞納ノ事由ヲ所轄稅務署ニ報告スヘシト規定セリ

次ニ帳簿ニ關シテハ收入官吏ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スルヲ要シ(會計規則第二十八條)領收即チ受ノ部ニ於テハ納人ヨリ領收シタル金額仕拂ノ部ニ於テハ金庫ニ拂込ミタル金額ヲ記載スルモノトス

ロ 金庫ニ於テ領收スル場合

金庫ニ於テ現金ノ領收ヲ爲ス場合ニハ左ノ五種アリ

- (一) 納稅告知書ヲ以テ納付スルモノ即チ納稅者カ租稅ヲ直接ニ金庫ニ納付スル場合
 - (二) 納入告知書ヲ以テ納付スルモノ即チ納入者カ租稅外ノモノヲ直接ニ金庫ニ納付スルモノ
 - (三) 送付書ヲ以テ納付スルモノ即チ市町村カ其領收シタル租稅ヲ更ニ金庫ニ送付スルモノ
- 是ナリ(國稅徵收法施行規則第五條)

其命令ハ他ノ行政事務上ノ命令ト同シク一般ニ遵由ノ效力アリト雖モ法律勅令ニ抵觸スルコトヲ得サルハ言フ俟タヌ又公益ヲ害シ大政ノ方針ニ違反スル場合ハ前述セシカ如ク內閣總理大臣ノ職權ニヨリ之ヲ停止セラルコトアルヘシ

各省大臣ノ發スル省令ハ命令ノ一種ニシテ國家ノ權力行爲タリ故ニ強制ノ性質アリト雖モ當然處罰權ヲ包含セス何トナレハ處罰ハ法律ノ規定スヘキ事項ナレハナリ(憲法第三十三條)然レトモ我現行法ニ於テハ明治二十三年九月法律第八十四號ヲ以テ命令ノ條項違反ニ關スル罰則及ヒ同年同月勅令第二百八號閣令、省令、廳令、府縣令及ヒ警察令ニ關スル罰則ノ規定ニヨリ各省大臣ハ一定ノ限度內ニ於テ罰則ヲ設クルノ權ヲ委任セラレタリ而シテ勅令第二百八號ハ明治四十一年九月勅令第二百四十五號ヲ以テ改正セラレ其結果各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其發スル所ノ省令ニ百圓以內ノ罰金若クハ料又ハ三月以下ノ懲役禁錮若クハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得ルニ至レリ

各省大臣ハ其下級行政官廳タル地方長官ニ對シ訓令ヲ發シ又ハ監督スルノ權限アリ故ニ地方長官ノ發シタル警察上ノ命令又ハ處分カ成規ニ違ヒ(違法)或ハ權限ヲ脱シ(越權)若クハ公益ヲ害スルモノアリト認ムルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得(各省官制通則第六條參照)

第二款 地方長官

地方長官即チ警視總監、北海道廳長官、各府縣知事（東京府知事ヲ除ク）ハ中級ノ警察行政機關ニシテ保安行政警察ニ關シテハ、內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ司法警察ニ關シテハ司法大臣ノ指揮監督ヲ承ケ其他特種ノ行政警察ニ關シテハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ以テ其管内ニ於ケル警察行政ヲ行フ單獨制ノ官廳ナリ

地方長官ノ行フ所ノ警察行政ノ範圍ハ法令ヲ執行シ其部内ニ於ケル警察事務ヲ主管スルニ在リ又其職權ニ依リ若クハ法令ノ特別委任ニ依リ其管轄内ノ一級又ハ一部ニ對シ警察命令ヲ發スルノ權限ヲ有ス之ヲ廳府縣令所謂地方警察命令ト稱ス而シテ其警察命令ニハ五十圓以内ノ罰金若クハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得但此命令カ違法越權又ハ公益ヲ害スルモノト認ムルトキハ內務大臣其他主務大臣ニ於テ停止又ハ取消スコトアリトス次ニ地方長官ハ非常急變ノ場合ニ於テ兵力ヲ要シ又ハ警備ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得是レニ非常急變ノ場合ニ臨ミ中央政府ノ指揮ヲ仰クノ邊ナキ時豫想シ臨機應變ノ處置ヲ爲サシメシカ爲メノ規定ニシテ此場合甲隊ハ單ニ警察行政ノ補助ヲ爲スニ過キスシテ軍隊ノ進退行動ノ命令權ハ地方長官ニ歸スルモノニアラス又茲ニ非常急變ノ場合ト云フモ彼ノ戒嚴令施行ノ場合ト誤解スヘカラス

●地方官制（明治三十八年四月勅令第一四〇號）第六條乃至第八條、北海道廳官制（明治三十八年四月勅令第一三九號）第十一條、省令等ニ關則ヲ附スルヲ得ルノ件 明治二十三年九月勅令第二〇八號

三十九年九月勅令第二五八號四十一一年九月勅令第二四五號改正）

地方長官ハ警察行政ノ補助機關タル警察部長、警視、警部、警部補、巡查等ヲ指揮監督シ其下級官廳トシテ普通行政官廳ニハ北海道ニ支廳長各府縣ニ郡長又ハ島司アリ特別行政官廳ニハ警察署長及ヒ同分署長アリトス而シテ警察部長ハ各府縣廳ノ一部分タル警察部ノ長ニシテ警察事務ノ執行ニ關シ地方長官ノ命令ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督指揮シ所部ノ事務ヲ掌理スルニ過キス即チ獨立ノ官廳ニ非サルヲ以テ外部ニ對シ命令權ヲ有セズ唯内部ニ於テ知事ヲ補助シ下僚タル警部、警部補、巡查等ヲ指揮監督スルモノナリ（地方官制第十七條同第二十條）

第三款 警察署長及ヒ同分署長

警察署長及ヒ同分署長ハ警察行政ヲ行フ爲メニ特ニ設ケラレタル警察機關ニシテ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ其訓令ニ基キ警察ニ關スル法律、勅令、省令、廳令、府縣令ニ準據シテ警察行政ヲ行フ下級ノ單獨制ノ官廳ニシテ而モ特種ノ行政官廳ナリ

現行官制ニ於テハ警察署長ハ警視ヲ以テ充ツル場合ヲ除クノ外警部ヲ以テ之ニ充テ警察分署長ハ警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ而シテ警察署長及ヒ警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス而シテ其補助機關トシテハ警部、警部補及ヒ巡查アリ

●地方官制第二十八條

警察署又ハ警察分署トハ警察署長又ハ警察分署長ナル單獨制ノ官廳ヲ云フモノニシテ其補助機關トシテ警部、警部補、巡查アリ而シテ警察署又ハ警察分署ノ下ニ巡查派出所、巡查交番所又ハ巡查駐在所（村落ニ在リ）アリ然レトモ是等ハ皆官廳ニアラス巡查カ補助機關トシテ其職務ヲ行フニ就テノ事務所タルニ過キサルモノトス

警察署長、警察分署長ハ警察行政ヲ行フ單獨制ノ官廳ナリト雖モ現行法制ニ於テハ法令ニ特別委任ナキヲ以テ警察命令ヲ發スルコトヲ得ス單ニ警察處分及ヒ之カ執行ヲ爲スコトヲ得ルノミ換言スレハ命令機關ニアラス處分機關ニシテ又執行機關ナリ即チ法規ヲ解釋適用シ且ツ之ヲ實行スルノ職務ヲ有スルモノナリトス又此權限ハ土地ノ區域ニヨリ制限セラレ其地域内ニ於テ其補助機關タル警部、巡查ヲ指揮監督シ其名ヲ以テ其責任ニヨリ警察行為ヲ爲スモノナリ而シテ右管轄範圍内ニ於テハ行政警察、司法警察及ヒ特種ノ行政警察ニ付キ警察行政ヲ行フ權限アリトス何トナレハ其上級官廳タル地方長官ハ行政警察ニ付テハ內務大臣ニ司法警察ニ付テハ司法大臣ニ其他特種ノ行政警察ニ付テハ各主務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ管掌スルモノナルカ故ニ警察署長、警察分署長ノ警察行政ノ範圍モ亦自ラ之ニ伴フモノナレハナリ

警部、巡查ハ前述ノ如ク警察署長、警察分署長ノ補助機關ニシテ署長、分署長ノ命ヲ承ケ警察事務ヲ執行スルモノニシテ獨立ノ官廳ニアラス從テ其職務ヲ執行スルニ當リテモ所屬署長、分署長ノ管轄區域内ナルヲ原則トス然レトモ特別ニ法令又ハ上官ノ訓令ニヨルトキハ地方長官ノ

管轄内ハ勿論全國ニモ及ホスコトヲ得ヘク其權限内ノ行為ハ則チ國家行為ニシテ強制ノ權力ヲ以テ人民ニ及ホスコトヲ得ルヤ當然ノコトナリ

第四款 郡長島司等

郡長、島司、北海道支廳長等ハ地方長官ノ指揮監督ヲ承ケ其部内ノ普通行政事務ヲ行フ所ノ單獨制ノ官廳ナリ法令又ハ地方長官ノ特別ノ委任アルトキハ警察命令ヲ發スルコトヲ得ヘシト雖モ今日ノ實際ニ於テハ特ニ設ケアル警察官廳アルヲ以テ警察權ヲ行フコトナシ

第五款 憲兵

憲兵ハ主トシテ軍事警察ニ關スル事務ヲ掌リ且ツ行政、司法警察事務ヲ掌ル所ノ補助機關ニシテ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス其警察行政ヲ執行スルニ當リテハ軍事警察ニ付テハ陸海軍大臣ノ指揮ヲ承ケ司法警察事務ニ付テハ司法大臣及ヒ檢事ノ指揮ヲ承ケ行政警察ニ付テハ內務大臣、警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ指揮ヲ承ケ其權限ハ警察事務ヲ執行スルニ止マリ自ラ警察命令ヲ發スルノ權限ヲ有セス所謂執行機關ニシテ法令ニ依リ訓令ニ基キ警察事務ノ執行ニ當ルニ在ルノミナリトス而シテ憲兵ハ其組織全ク軍隊的ニシテ將校、下士卒（憲兵司令官、憲兵隊長、憲兵分隊長等）等各上下ノ關係ニヨリ其部下ヲ統率シ之ヲ指揮監督スルモノナリトス

◎憲兵條例(明治三十一年十一月勅令第三二七號)

如左警察機關ノ説明タルヤ其ニ其概略ヲ述ヘタルニ止マルヲ以テ各警察機關ノ詳細ナル職權職務ノ範圍ヲ明ニセムト欲セハ官制ハ勿論警察行政ニ關スル法令及ヒ其上級官廳ノ訓令等ノ參照ヲ望ムト雖モ拙著警察行政要議中ニハ稍詳細ニ説明シ置キタルヲ以テ或ハ之ヲ參考トセラルルニ於テハ勉強ノ一助タルヘシト信ス

第四章 警察權ノ基礎及ヒ範圍

警察ハ國家命令權ノ作用ニシテ公共ニ對スル危害ヲ豫防排除シ直接ニ安寧秩序ヲ維持セムカ爲メニ一個人ノ自由ヲ制限スル行政行為ナリ此行政行為上ノ國家權力ヲ稱シテ警察權トハ云フナリ今此警察權力如何ナル基礎ニ由リ發動スヘキ乎又其如何ナル範圍ヲ有スル乎ヲ説明セムニ抑モ警察權ノ基礎ニ付テハ歐洲近代ニ於ケル普通ノ學說トシテハ人ノ自由ヲ制限スルハ必スヤ法律ニ據ルヘキモノトナシ警察權ハ人ノ自由ヲ制限スルモノナリ故ニ警察權ハ其基礎ヲ法律ニ置カサルヘカラス換言スレハ法律ノ委任若クハ法律ヲ執行スル場合ノ外個人ノ自由ニ接觸スルコトヲ得スト爲ス故ニ我國法上ニ於テモ之ト同一ニ解シ個人ノ自由ヲ制限ハ必ス法律ニ根據シ警察上個人ノ自由ニ接觸シ得ルハ法律ニ據ラサルヘカサルヤト云フニ然リト云フコトヲ得スシテ他ニ警察權ハ其發動ノ基礎ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ歐洲近世ノ立憲政體

ハ主トシテ彼ノ有名ナル佛蘭西ノ人權宣言ノ精神ニ基キ人民ノ自由ヲ制限セサルヲ原則トシ之ヲ制限スルニハ必ス法律ニ依ラサルヘカラストナヌヲ以テ或ハ警察權ノ基礎ヲ法律ニ在リト爲スコトヲ得ムモ我國ノ憲法ハ歐羅巴諸國ノ憲法ノ如ク特種ノ沿革歷史ヲ有セサルノミナラス其明文ニ於テ其精神ニ於テ如此解釋ハ到底相容レサル所ナリ唯憲法第二章ハ臣民ノ權利義務ヲ規定シ此權利ノ目的タル事項ヲ制限スルニハ必ス法律ニ依ラサルヘカサルコトヲ規定スルノミ特ニ憲法第九條ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルカ爲メ即チ警察ノ目的ノ爲メニハ法律ノ委任ナク又法律ヲ執行スル爲メニ非サルモ必要ナル命令ヲ發シ得ルコトヲ明言セリ左レハ我國法上臣民ノ自由ヲ制限ハ必スシモ法律ノ根據ヲ要セス優ニ國家命令權ヲ以テ制限シ得ヘキナリ從テ我憲法ニ依レハ臣民自由ノ制限ハ多ク命令權ノ作用ニ屬シ特種ノ場合ニ法律ヲ要スルモノト解スヘシ而シテ國家力其命令權ニ基キ單獨ノ自由意思ヲ以テ個人ノ自由ヲ制限シ強制シ得ルハ個人即チ臣民ニ服從義務アルカ故ナリ臣民ニ服從義務アルハ臣民ハ國家ヲ組織構成スル分子ナルカ爲メナリ凡シ分子ハ分子タル分限ニ於テ其全體ノ生存發達ヲ害スヘカサル當然ノ義務ヲ負フモノナリ故ニ臣民ノ國家ニ對シテ負フ所ノ服從義務モ之ニ異ラスシテ法ノ規定ヲ俟テ後ニ發生シタルモノニアラス臣民タル資格ノ取得ト同時ニ自然的ニ若クハ先天的ニ當然ニ負フモノナリト云ハサルヘカラス而シテ國家力其國臣民ヲ保護スルハ臣民力此服從義務ヲ履行スルカ爲メニシテ之ヲ臣民ヨリ云ヘハ國家ノ保護ヲ受ケント欲セハ忠實ニ服從義務ヲ履行シ敢テ國家公共ノ安寧秩

序ヲ妨害スヘキ行動ニ出テサルニ在リ若シ之ニ反センカ臣民ハ國家ニ對シ保護ヲ求ムルコトヲ得タルハ勿論國家ハ自己ノ生存發達ノ必要上自己固有ノ命令權ヲ以テ個人ノ自由ヲ制限スルモノナリ而シテ警察權ハ公共ノ安寧秩序ヲ維持スルカ爲メニ公共ノ危害ヲ防止スル國權ノ發動ナルヲ以テ其基礎ハ究局臣民ノ國家ニ對スル絕對の服從義務ニ根據スルモノナリト云フヘキナリ警察權ハ上述ノ如ク其基礎臣民ノ自然的服從義務ニ在リテ個人ノ自由ヲ制限シ強制シ得ルモノナレトモ警察ノ活動ハ法令ノ規定ヲ無視シ絕對の自由ナルモノニアラス又此誤解ナキヲ望ム其活動ニハ一定ノ範圍アルモノニシテ第一近世ノ法治國ニ於テハ個人ニ自主生存ノ目的アルコトヲ認メ人格ヲ附與シ法ニヨリテ權利ヲ與ヘ之ヲ保護シ互ニ侵反スルコトナカラシム而シテ一度法ヲ以テ個人ニ權利ヲ與ヘタル以上ハ之ヲ廢止變更セサル間ハ國家ト雖モ之ニ違フコトヲ得ス從テ法令ニ據リ權限ヲ附與セラレタル警察機關ノ如キモ其檢束ヲ受クルヤ勿論ニシテ警察權ヲ行使スルニ當リテモ法令ノ明文ニ背キテハ濫リニ活動スルコトヲ得サルニ至ル換言スレハ其活動ハ法令ノ範圍内ニ於テ爲ササルヘカラサルモノナリ而シテ警察ハ其目的公共ノ安寧秩序ヲ妨害スル狀態ヲ排除スル消極的國家權力ノ活動ニ在ルヲ以テ其行動モ目的上ヨリ制限ヲ受ケ積極的ニ臣民ノ福利ヲ増進スル爲メノ國權ノ發動ハ警察ニ屬セサルハ勿論此危害排除ハ專ラ國家公共ノ安寧秩序維持ノ爲メニ爲スモノナレハ此處ナキ私的生活ニハ干渉セサルヲ原則トス之レ行政警察規則第五條ニ於テ警察官吏ハ公共一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ケ可ラスト規

定セルハ蓋シ此主意ニ外ナラサルヘシ然レトモ個人ノ私的生活上ノ行爲ニシテ偶々以テ社會公共ニ危害ヲ與フル場合ニハ之ニ干渉セサルヲ得ス之レ其私權保護ノ爲メニ爲スニ非スシテ公共ノ危害防止ノ爲メナリトス此際ニ於ケル私權保護ハ別個ノ問題ナリ而シテ又警察ノ干渉ハ危害豫防秩序維持ノ必要上ヨリ之ヲ爲スモノナレハ此必要ナキニ干渉スルヲ得サルハ論ナク干渉ノ必要アリトナスモ公共の危害ノ程度ニヨリ之カ干渉ノ程度ヲ定メ之ヲ超ユヘカラサルモノトス然ラサレハ警察權ノ濫用トナル又其干渉ハ危害ヲ發生セシメ又ハ發生セシムヘキ原因ニ對シテ爲スヲ原則トナス之ヲ要スルニ警察ノ活動ハ法令ノ範圍内ニ限ラルモノニシテ即チ警察權行使ノ範圍カ法令ニヨリテ限定セラルモノニシテ而モ以上ノ原則ハ實際ノ執務上最モ注意スヘキコトニ屬ス(拙著警察行政要義參照)

第五章 警察權ノ作用

警察權ノ作用トハ警察權發動ノ方則ト程度トヲ稱スルモノニシテ本章ニ於テハ警察行爲ハ如何ナル方式ニ由リテ發表セラレ如何ナル準則ニ根據シテ活動スルカ其活動ノ限度ハ如何又其警察行爲ニ從ハサル者アル場合ニ於テハ之ヲ強行スヘキ終局ノ手段如何等ニ就キ梗概ヲ説明セント欲ス

第一節 警察規則(警察命令)

警察規則トハ警察機關カ警察行政ヲ行フ爲メニ發スル所ノ命令ナリ其本質ハ通常生シ得ヘキ違警ノ狀態ヲ豫想シ若シ其狀態發生セハ之ヲ排除防止スヘキコトヲ一般ニ規定シ之ニ反スルコトナキヲ命令スルモノタリ換言スレハ一般人民カ爲スヘキ行爲ノ標準ヲ定ムルモノニシテ行爲即チ或事ヲ爲スヘキコトヲ命シ又ハ不行爲即チ或ル事ヲ爲ササルコトヲ命スル所ノ權力關係ノ規定ナリ之ヲ發スル所ノ警察機關ノ異ルニ依リ省令、廳府縣令等ノ區別ヲ生ス然レトモ省令廳府縣令必スシモ警察命令ト云フコトヲ得ス警察ノ實質ハ警察事項即チ公共ノ安寧秩序維持ノ爲メ個人ノ自由ヲ制限スルコトニアレハ之カ實質ヲ有セサル法規例ヘハ巡查ノ服務規律ノ如キ唯タ機關ニ對シ訓令スルノ性質ヲ有スルモノナレハ嚴格ナル意義ニ於テ警察命令ニアラサルナリ而シテ此警察命令ヲ警察官廳カ發スルニハ法律ノ委任又ハ大權ノ委任アルヲ要シ當然發スルコト得ス茲ニ所謂法律ノ委任トハ法律ノ規定ヲ以テ一定ノ範圍内ニ於テ警察事項ニ關スル細目ヲ命令ノ規定ニ讓ルノ形式ヲ云フ大權ノ委任トハ通常官制ヲ以テ警察官廳ニ警察命令ヲ發シ得ヘキ職權ヲ與ヘラルルヲ云フ此法律又ハ大權ノ委任ニ據リ發スル警察規則ハ多ク罰則ノ體裁ヲ以テ發布セラルルヲ慣例トス然レトモ其實質ハ或ル行爲不行爲ヲ命シ又或行爲ヲ認許スルモノニシテ反則者ヲ處罰スルノ規定ハ其實質タル規則ノ進行ヲ強制スルノ方法手段タルニ過キサルナリ故

ニ警察規則ト警察規則トハ區別セサルヘカラス警察規則ハ一般ノ危害ヲ防止スル自由制限ノ規定タリ命令ヲ以テ規定スルコトヲ得ヘシト雖モ警察規則ハ違警行爲ニ對シ惡報ヲ科スルモノナレハ之カ制定ハ法律ニ依ラサルヘカラス是レ則チ憲法第二十三條ニ日本臣民ハ法律ニ依ルニアラサレハ逮捕監禁審問處罰等ヲ受クルコトナシトノ明文ニヨリ保障セラレ所謂憲法上ノ立法事項ニ屬スルカ爲メナリ故ニ命令ヲ以テ罰則ヲ定ムルニハ法律ノ委任ヲ俟タサルヘカラス我現行法ニ於テハ罰則權ヲ命令ニ委任セリ(明治二十三年法律第八十四號及同年勅令第二百八號但勅令第二百八號ハ明治三十九年九月勅令第二百五十八號及ヒ四十二年九月勅令第二百四十五號ヲ以テ改正)

警察規則ハ法律勅令ニ牴觸スルコトヲ得ス又下級官廳ノ發布スルモノハ上級官廳ノ警察規則ニ牴觸スルコトヲ得ス加之上官ノ訓令ニモ背クコトヲ得サルナリ又警察規則ハ公益ニ違フコトヲ得ス若シ其下級官廳ノ發スル警察規則カ其訓令ニ背キ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ上級官廳ハ監督權ニ依リ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

警察規則ノ實質的效力ハ一般ノ法令ト同シク二方面ヲ有シ一ハ外部ニ對シ人民ヲ拘束シ他ノ一ハ内部ニ對シ警察官廳ヲ拘束シ其處分ヲ制限ス尤モ特定ノ事項ニ對シ警察規則ナキトキハ其權限アル官廳ハ公共ノ安寧秩序ヲ維持スルカ爲メニ其自由裁量ヲ以テ警察ノ目的ヲ達スル適當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ

警察命令ノ成立及ヒ消滅ハ一般行政上ノ命令ノソレト同シク親署及ヒ公布ニ依リテ成立シ廢止變更又ハ取消ニ因リテ效力ヲ消滅スルモノナレハ詳細ナル研究ハ之ヲ行政法ニ譲ルヘシ

第二節 警察處分

警察處分トハ實在の特定ノ事物ニ付警察上ノ命令ヲ爲シ之ヲ執行スルモノナリ換言スレハ現ニ存在スル違警ノ狀態ヲ排除シ防止スルコトヲ命スルナリ此處分ニ二種アリ一ハ依法處分ニシテ他ノ一ハ職權處分ナリ依法處分トハ讀テ字ノ如ク法ニ依ルノ處分ニシテ専ラ法律規則ニ準據シ之ヲ適用シ執行スルノ處分ナリ行政官廳ノ自由裁量ヲ許サスニ法律規則ニ依テノミ行フノ處分ナリ之ニ反シ職權處分(一名便宜處分トモ云フ)トハ個個ノ場合ニ對スル特別ナル法規存在セサルカ又ハ縱令是レアルモ全ク行政官廳ノ自由裁量ニ一任シアル場合ニ於テ行政官廳カ其職權ニ依リ自己ノ裁量ニテ適宜ニ爲ス處分ニシテ例ヘハ警察官廳ノ道路交通上危險ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ假令法令ノ規定ナキモ其通行ヲ禁止スル爲メニ爲ス通行止ノ如キヲ云フ然レトモ其之ヲ爲スヤ自己ノ職權内ニ於テ法規ニ牴觸セサルコトヲ要スルヤ云フヲ俟タス

警察處分ハ一般行政處分ト同一ニ其發シタル官廳ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ル外尙ホ上級官廳ノ監督權ノ作用ニ依リ之ヲ取消シ若クハ停止セラルコトアリ其效力ニ付テハ行政法ノ研究ニ譲リ茲ニ之ヲ説明セス

警察官令、成立及ヒ消滅ハ一般行政上ノ命令ノソレト同シク親署及ヒ公布ニ依リテ成立シ廢止
消滅ハ取消ニ因リテ效力ヲ消滅スルモノナレハ詳細ナル研究ハ之ヲ行政法ニ譲ルヘシ

第二節 警察處分

警察官令ハ官署内事務ニ付警察上ノ命令ヲ爲シ之ヲ執行スルモノアリ損害ニシレハ其
在リタル警察ノ狀態ヲ排除シ防止スルコトヲ命スルナリ此處分ニ二種アリ一ハ依法律處分ニシテ
種々一ハ職權處分ナリ依法律處分ハ職權字ノ如ク法ニ依ル處分ニシテ法律規則ニ遵據シ
テ適用シ得ルモノ處分ナリ行政官廳ノ自由裁量ヲ許サス一ニ法律規則ニ依テ行フ處
分ナリ一ハ職權處分一名便宜處分トモ云フ一ハ個個ノ場合ニ對スル特別ナル法規存在
セザルカ爲メ便宜處分ニシテ行政官廳ノ自由裁量ニ一任シタル場合ニ於テ行政官廳ハ其職
權ニ依リ自己ノ裁量ニテ便宜ニ爲ス處分ニシテ例ヘハ警察官廳ノ道路交通上危險ヲ虞アリト認
メテ禁止ニ於テ假令法令ノ規定ナキモ其通行ヲ禁止スル爲メニ爲ス通行禁止ノ如キ云フ然レ
モ此等便宜處分ハ自己ノ職權内ニ於テ法規ニ抵触セザルコトヲ要スルモノ云フナリ
警察官令ハ一般行政處分ト同一ニ裁量シタル官廳ニ於テ之ヲ取消スルコトヲ得ル等尙ハ上級官廳
ノ監督權ノ作用ニ依リ之ヲ取消シ若クハ停止セラルルコトアリ其效力ニ付テハ行政法ノ研究ニ
譲ラレタリ之ヲ説明セシス

梅 法學博士 主筆

法學志林

第十二卷 每月一回廿日發行
第六號 定價一冊金拾貳錢
六月二十日 發行 郵 税金壹錢
第三百三十號

民法第九十二條論

法學博士 石坂音四郎

法學者ヨリ見たル故ロムプロゾ教授

法學士 牧野英一

◎志林

警察ノ觀念ヲ論シテ憲法第九條ニ依リ獨立命

令權ノ範圍ニ及フ 法學博士 美濃部達吉

賣渡名義ヲ以テナシタル擔保ノ法律關係

法學士 鳩山秀夫

株式會社ノ發起人ノ責任

法學士 松本 燕治

文書偽造行使詐欺取財ノ一例

法學士 牧野 英一

甲被告人ヲ乙被告人ト誤リテ爲シタル裁判ノ效力

法學士 清水 孝藏

散 錄

文學士 寺田 精一

◎其他 判例、雜報、記事

發行所

東京市麴町區富士見町
六丁目十六番地

法政大學

速成科校外生規則摘要

- 一 全學科を終了シタル者ニシテ本大學ニ入學セント欲スルトキハ入學金ヲ払ハス
- 一 速成科講義ノ講習ヲ終リタル者ハ速成科校外生修業證書ヲ請求スルトキ得但手數料金貳拾圓ヲ納ムヘシ
- 一 速成科校外生月謝ハ左ノ如シ
 - 一 金壹拾八錢
 - 一 金壹拾五錢
 - 一 金壹拾二錢
 - 一 金壹拾圓
 - 一 金壹圓七拾錢
 - 一 金壹圓五拾錢
 - 一 金壹圓三拾錢
 - 一 金壹圓一拾錢
 - 一 金壹圓
 - 一 金壹圓七拾錢
 - 一 金壹圓五拾錢
 - 一 金壹圓三拾錢
 - 一 金壹圓一拾錢
 - 一 金壹圓
- 一 校友及ヒ校友ノ紹介ニ依ルモノ又ハ官公署ノ吏員銀行會社員等ハ左ノ如ク減額ス
- 一 月謝ヲ一時ニ前納スルトキハ特ニ左ノ如ク減額ス
 - 一 金壹圓七拾錢
 - 一 金壹圓五拾錢
 - 一 金壹圓三拾錢
 - 一 金壹圓一拾錢
 - 一 金壹圓
- 一 月謝ヲ納付シタルトキハ講義錄ヲ郵送スルヲ以テ別ニ領收證ヲ交付セシモ若シ相當ノ日時ヲ過キテ講義錄ノ到達セザルトキハ其旨本大學ニ通知スヘシ
- 一 校外生ハ講義錄中ニ經義アルトキハ講義錄ノ附設ノ科目ノ頁數及ヒ疑問ノ要點ヲ記載シ本大學編輯局ヘ宛テ郵送スヘシ
- 一 質疑通信ノ文意解シ難キモノ主旨明確ニシテ解答ヲ要セスト認ムルモノハ解答ヲ付セズ
- 一 質疑中有益ト認ムルモノハ之ニ解答ヲ付シ法學志林又ハ講義錄ニ登載スヘシ

◎注意

振替貯金ヲ以テ月謝ヲ納付セラルトキハ其都度振替貯金規則ニ依ル登記料金二錢ヲ要スルノ外失費ナク安全ニシテ便利ナリ

振替口座東京「三二九四番」

明治四十三年七月四日印刷
明治四十三年七月五日發行

(定價五拾錢)

編輯兼發行所
東京市牛込區牛込北町十番地
萩原敬之

印刷所
東京市四谷區四谷左門町五十八番地
重利俊夫

印刷所
東京市赤坂區新町五丁目四十二番地
金子活版所
(電話新橋四九五番)

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所

私立

法政大學

「電話番町一七四番」